



BOM VMware オプション Ver.8.0

ユーザーズマニュアル

免責事項

本書に記載された情報は、予告無しに変更される場合があります。セイ・テクノロジーズ株式会社は、本書に関していかなる種類の保証（商用性および特定の目的への適合性の黙示の保証を含みますが、これに限定されません）もいたしません。

セイ・テクノロジーズ株式会社は、本書に含まれた誤謬に関する責任や、本書の提供、履行および使用に関して偶発的または間接的に起こる損害に対して、責任を負わないものとします。

著作権

本書のいかなる部分も、セイ・テクノロジーズ株式会社からの文書による事前の許可なしには、形態または手段を問わず決して複製・配布してはなりません。

商標

本ユーザーズマニュアルに記載されている「BOM」はセイ・テクノロジーズ株式会社の登録商標です。また、本文中の社名、製品名、サービス名等は各社の商標または登録商標である場合があります。

なお、本文および図表中では、「TM」（Trademark）、「(R）」（Registered Trademark）は明記しておりません。

目次

本書について

製品表記

使用方法

環境説明

第1章 システム構成

第2章 インストール

1. 動作環境

(1) 監視対象コンピューター (ESXホスト)

(2) 監視元コンピューター (BOM)

(3) VMware ログビューアー

(4) VMware レポート出力

2. 監視の事前準備

3. インストール手順

(1) VMware オプションの新規インストール

(2) VMware オプションの追加インストール

(3) ESXホスト用監視インスタンスの追加作成

第3章 アンインストール

1. VMware オプションのみをアンインストールする

2. BOM 8.0全体をアンインストールする

第4章 BOM 8.0 マネージャーの基本操作

1. BOM 8.0 マネージャーの起動と接続

2. 監視グループの作成と設定変更

3. 監視項目の作成と設定変更

4. アクション項目の作成と設定変更

5. VMware ログビューアーの起動

6. 収集されたログの閲覧

(1) EventLog((接続先名称))

(2) TaskLog((接続先名称))

(3) インスタンスログの削除

第5章 VMware オプションによる監視

1. 概要

2. VMware オプションの監視項目

(1) 監視項目の概要

A. 基本操作

B. 「全般」タブ

C. しきい値

(2) VMware ストレージ空き容量監視

A. 「全般」タブ

B. 「設定」タブ

C. 「しきい値」タブ

(3) VMware ステータス監視

A. 「全般」タブ

B. 「設定」タブ

(4) VMware 仮想マシン数監視

A. 「全般」タブ

B. 「設定」タブ

- (5) VMware パフォーマンスカウンター監視
 - A. 「全般」タブ
 - B. 「設定」タブ
 - C. 「しきい値」タブ
 - (6) VMware イベント監視
 - A. 「全般」タブ
 - B. 「接続先」タブ
 - C. 「設定」タブ
 - D. 「イベント説明のテキスト検索」タブ
 - E. 「拡張処理」タブ
 - F. 「しきい値」タブ
 - (7) VMware タスク監視
 - A. 「全般」タブ
 - B. 「接続先」タブ
 - C. 「設定」タブ
 - D. 「拡張処理」タブ
 - E. 「しきい値」タブ
 - (8) BOMヒストリー監視
 - (9) Ping監視
 - (10) ポート監視
 - (11) VMware ビューアーデータ収集
 - A. 「全般」タブ
 - B. 「設定」タブ
 - (12) カスタム監視
3. VMware オプションのアクション項目
- (1) VMware ステータスコントロール
 - A. 基本操作
 - B. 「全般」タブ
 - C. 「実行条件」タブ
 - D. 「設定」タブ

第6章 VMware ログビューアー

- 1. 概要
- 2. コンピューターツリービュー領域
- 3. 収集データ表示領域
 - (1) 「サマリー」タブ
 - A. "全般"欄
 - B. "リソース"領域
 - (2) 「パフォーマンス」タブ
 - A. 表示期間指定バー
 - B. パフォーマンス表示領域
 - C. チャート領域
 - D. チャートメニュー
 - E. "カウンター指定"ダイアログ
 - F. グラフ領域
 - G. リスト表領域
 - (3) 「ハードウェア健全性」タブ
 - A. ハードウェアリスト表領域
 - B. 状態変化履歴表示領域
 - (4) CSV出力ウィザード

- A. 出力期間設定
- B. ファイル出力中
- C. ファイル出力完了
- D. CSVフォーマット

4. メニューバー

(1) メニュー"ファイル"

- A. "レポート出力"コマンド
- B. "設定のエクスポート"コマンド
- C. "設定のインポート"コマンド
- D. "終了"コマンド

(2) メニュー"表示"

- A. "設定"コマンド
- B. "更新"コマンド

5. レポート出力

(1) レポート出力ウィザード

- A. 出力期間設定
- B. レポート出力シートの指定
- C. レポート出力中
- D. レポート出力完了

(2) 出力レポート

- A. レポートの概要
- B. レポートシート"サマリー"
- C. レポートシート"仮想マシン一覧"
- D. レポートシート"システム情報"
- E. レポートシート"ハードウェア健全性"
- F. レポートシート"パフォーマンス情報"

第7章 エラーメッセージ一覧

1. 監視項目のエラーメッセージ
2. アクション項目のエラーメッセージ
3. VMware ログビューアーのエラーメッセージ

第8章 FAQ

第9章 付録

1. 正規表現
 2. BOM 8.0の予約済み変数
-

本書について

製品表記

正式名称	本マニュアルでの呼称（略称）
BOM VMware オプション Ver.8.0	VMware オプション
BOM for Windows Ver.8.0	BOM 8.0
VMware ESX ホスト / VMware ESXi ホスト / vSphere ESXi ホスト	ESXホスト
Amazon Web Services	AWS
Amazon Simple Storage Service	Amazon S3

使用方法

本ユーザーズマニュアルには、VMware オプションを使用する際に必要となる詳細な情報と手順が記載されています。

- BOM 8.0のインストールに関しては'BOM for Windows Ver.8.0 インストールマニュアル'を参照してください。本書は主にインストールが正常終了した後の実際の使用方法について記述しています。
- 本ユーザーズマニュアルを使用するには、VMware製品およびMicrosoft Windowsオペレーティングシステムについての実際的な知識と、BOM 8.0の基本的な知識が必要です。
- 本書に更新・訂正などが生じた際は、弊社ウェブサイト上で情報を公開しますので、あわせて参照してください。

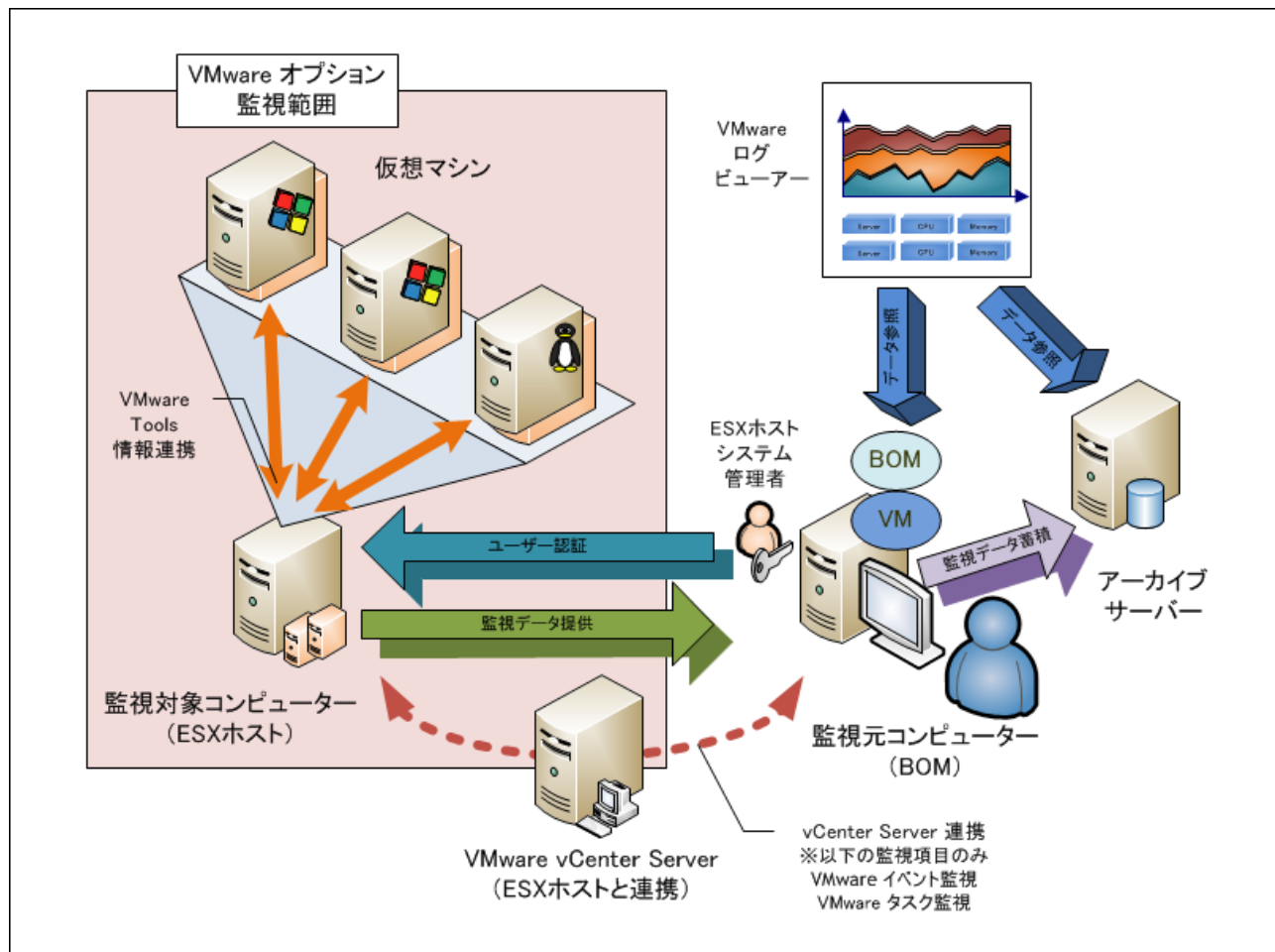
環境説明

- 本書では、コンピューターの操作画面として、主にWindows Server 2022で取得した画像を使用しています。お使いのOSによって表示内容が若干異なる場合がありますが、適宜読み替えてください。
- 本書では"ProgramData"フォルダーがCドライブ直下に存在することを前提としています。何らかの理由で移動させている場合は、現況に合わせて読み替えてください。

第1章 システム構成

VMware オプションは、VMware ESXまたはVMware ESXiが導入されている監視対象コンピューター（ESXホスト）、およびESXホスト上で動作している仮想マシンを監視するためのオプションです。

仮想環境全体の稼働状況の監視や、障害発生時の対応に利用することができます。



- 監視対象コンピューターとなる、VMware ESXまたはVMware ESXiの環境（ESXホスト）を構築します。
- ESXホスト上に、仮想マシンを作成し、OSを導入します。
- 仮想マシン上のOSに、VMware Toolsを導入し、ESXホストと情報が連携できるように構成します。
- 監視元コンピューターにBOM 8.0およびVMware オプションを導入します。
- 監視元コンピューターにて、監視対象コンピューター（ESXホスト）の監視設定を行い、監視をスタートします。
- 一部監視項目はVMware vCenter Serverと連携して、メッセージを監視します。
- VMware オプションに登録した接続アカウント（ESXホスト システム管理者）にてリモートログインし、監視データを取得します。
- 監視対象コンピューター（ESXホスト）のデータを収集し、VMware ログビューアーで情報を確認します。
- 監視データをアーカイブデータベースに蓄積し、アーカイブマネージャやVMware ログビューアーで閲覧することもできます。

※ 仮想マシン上のOSへBOM 8.0をインストールして監視することもできます。
ただし、導入するコンピューター分のBOM 8.0ライセンスが必要になります。

第2章 インストール

1. 動作環境

(1) 監視対象コンピューター（ESXホスト）

VMware オプションは、以下のバージョンのESXホストに対応しています。

ESXホスト	バージョン
VMware ESXi	6.7 / 7.0
VMware vSphere	6.7 / 7.0

(2) 監視元コンピューター（BOM）

VMware オプションは、Windows Serverベースのコンピューターで動作します。

※ Windows クライアントOS上では動作しません。

監視元コンピューターについては、'BOM for Windows Ver.8.0 インストールマニュアル'で「BOM のシステム要件」を確認してください。

また監視データを保持するために、監視元コンピューターには1インスタンスあたり15GBの容量を確保してください。

※ この15GBは、[VMware ログビューアー](#)用のデータベース容量として確保します。VMware ログビューアーを使用せず、監視項目「[VMware ビューアーデータ収集](#)」を作成しない場合は、BOM 8.0のハードウェア動作要件に準じます。

(3) VMware ログビューアー

VMware ログビューアーを使用することで、監視元コンピューター（BOM）が収集したデータを閲覧することができます。

VMware ログビューアーの閲覧環境は、BOM 8.0の動作環境に従います。'BOM for Windows Ver.8.0 インストールマニュアル'で「BOM のシステム要件」を確認してください。

なお、VMware ログビューアーの表示環境は、最低1024 × 768、推奨値として1280 × 1024以上の解像度に設定してください。

(4) VMware レポート出力

[VMware レポート出力](#)機能で生成されるレポートは、MHTML形式のファイルで保存されます。

このMHTML形式ファイルは以下のウェブブラウザで表示することができます。

- Internet Explorer 11
- Microsoft Edge（Internet Explorer モードのみ）

2. 監視の事前準備

VMware オプションにてESXホスト上で動作する仮想マシンを監視するには、事前準備としてVMware Toolsのインストールが必要です。VMware vSphere Clientなどで、仮想マシン上のOSにVMware Toolsをインストールしてください。

3. インストール手順

監視元コンピューターに、BOM 8.0 とVMware オプションをインストールする手順は以下のとおりです。

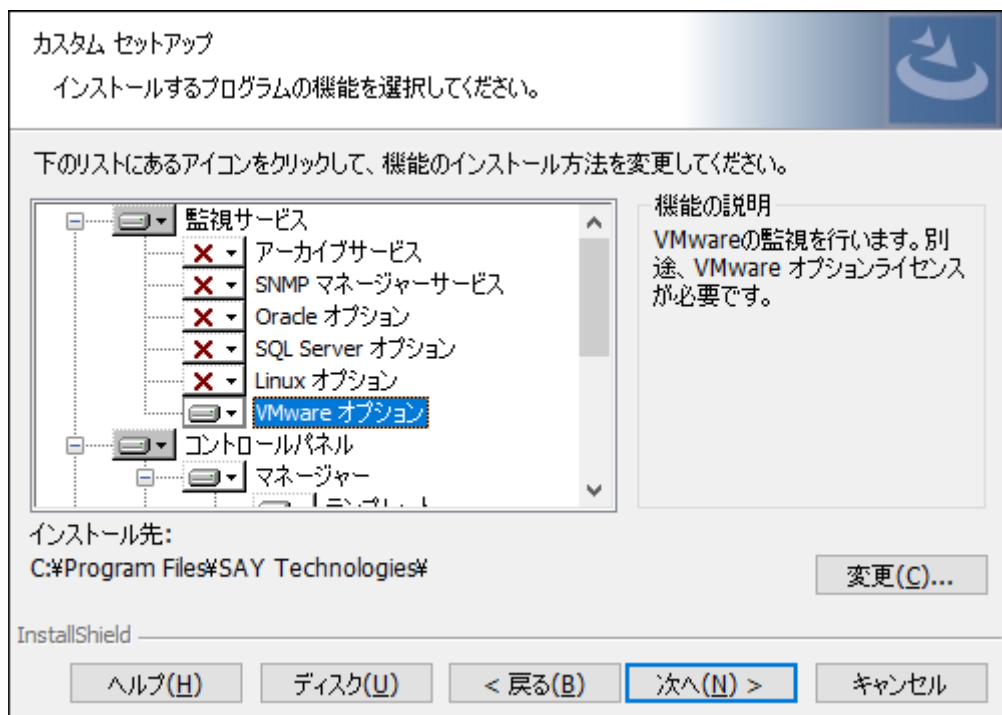
なお、インストール作業は管理者権限が必要です。管理者権限を持つアカウントにてログオンの上、作業を行ってください。

- 以降の手順は必要な作業項目を抽出した概略手順です。BOM 8.0の詳細な導入手順については、'BOM for Windows Ver.8.0 インストールマニュアル'を参照してください。

(1) VMware オプションの新規インストール

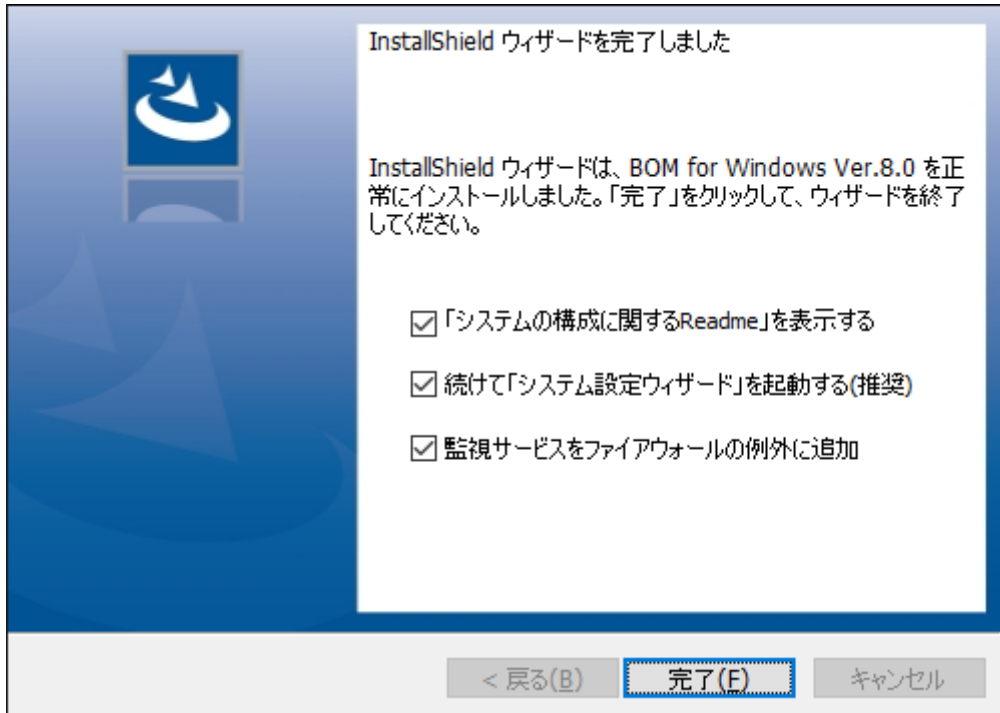
BOM 8.0のコンポーネントを一切入れていないコンピューターにVMware オプションを新規インストールする手順は以下のとおりです。

1. BOM 8.0のインストールメディアをコンピューターに挿入し、インストールランチャーを起動します。
2. メニューから、"VMware オプション"をクリックし、セットアップウィザードを起動します。
3. "セットアップタイプ"画面まで進め、"標準"または"カスタム"を選択して[次へ]ボタンをクリックします。
4. "カスタム"を選択した場合は、"VMware オプション"がインストール対象となっている（ハードディスクアイコンになっている）ことを確認し、必要に応じて他の機能の追加やインストール先の変更をおこない、[次へ]ボタンをクリックします。



5. 以降はセットアップウィザードに従い、"VMware オプション"のセットアップを完了します。

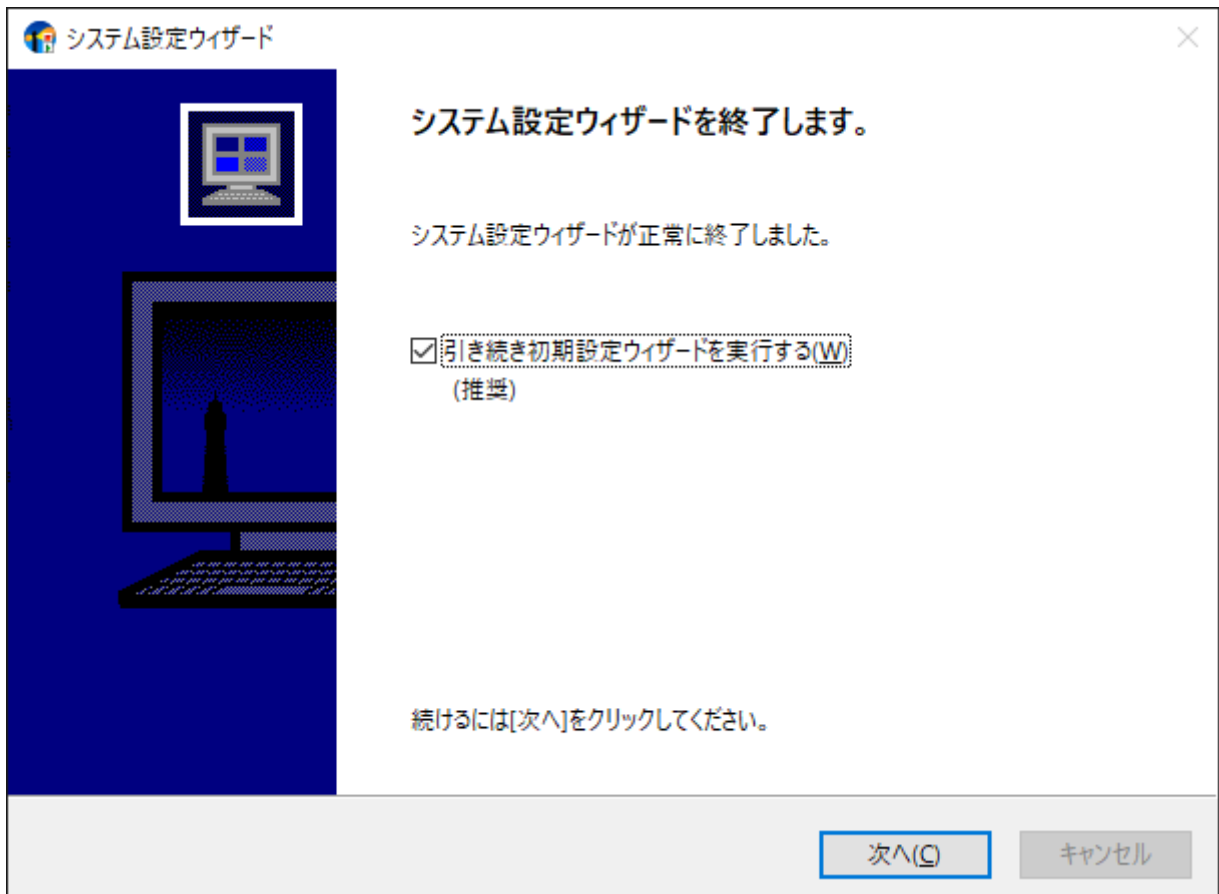
その際、"続けて「システム設定ウィザード」を起動する"チェックボックスはチェックを外さず、チェックした状態で[完了]ボタンをクリックします。



6. システム設定ウィザードが起動しますので、ウィザードに従って設定を完了します。

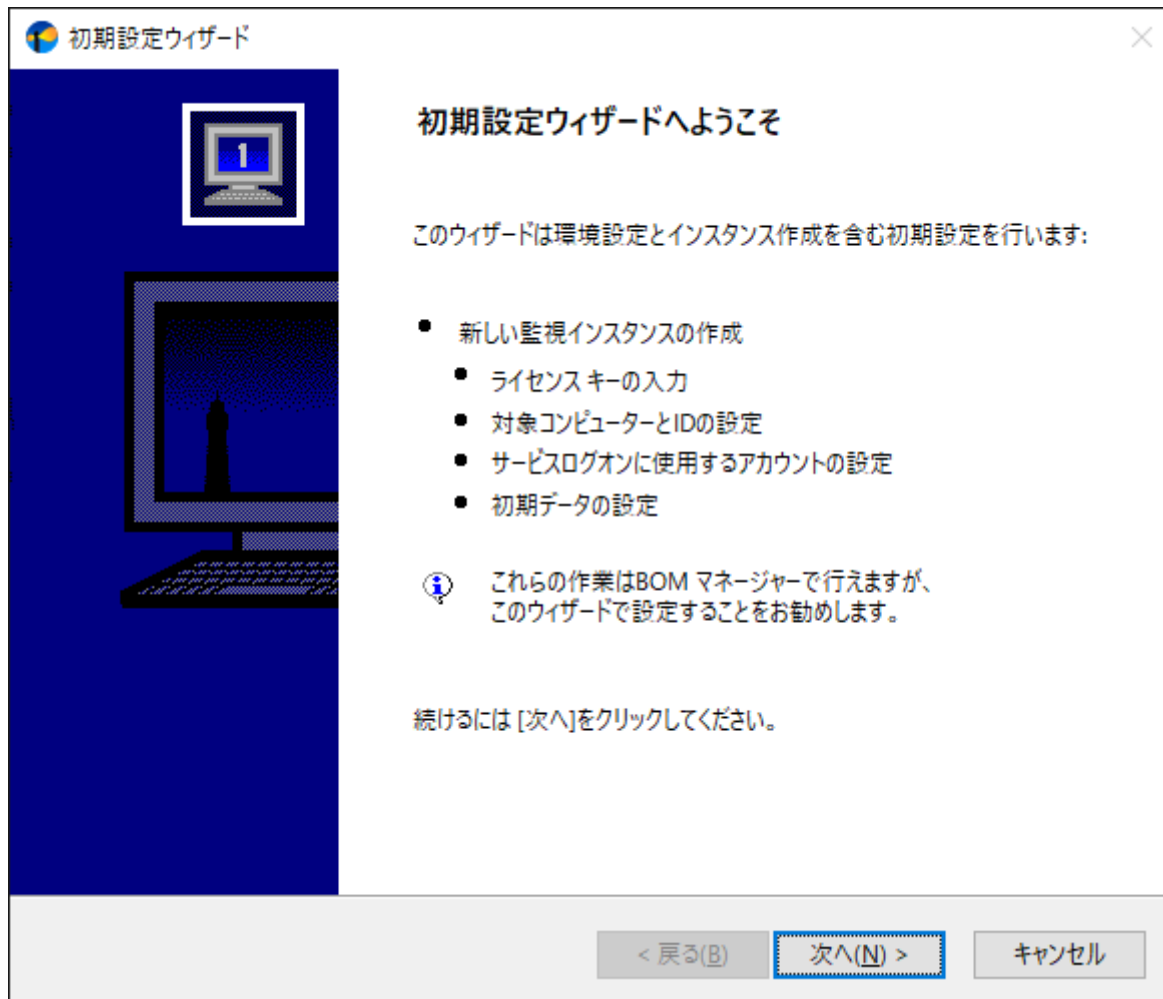
※ システム設定ウィザードの詳細については、'BOM for Windows Ver.8.0 インストールマニュアル'を参照してください。

以下の画面では、"引き続き初期設定ウィザードを実行する"チェックボックスのチェックは外さず、チェックした状態で[完了]ボタンをクリックします。



7. 初期設定ウィザードが起動します。

[次へ]ボタンをクリックし、"ライセンス"画面を表示します。




8. VMware オプションのライセンスキーを入力し、[次へ]ボタンをクリックします。

初期設定ウィザード

インスタンスの作成 - ライセンス
インスタンスの作成ごとに有効なライセンスキーを入力してください。

ライセンス キー(L):

 クライアント無償版或いは評価版ライセンス(30日間有効)を初めて利用する場合は、空白にしてください。
Windows クライアント OSはクライアント無償版を利用できますが、代理監視には利用できません。

キーの詳細情報:

< 戻る(B)

9. "コンピューター名"欄にESXホストのコンピューター名またはIPアドレスを入力します。
"インスタンスID"欄にはESXホストを識別できる名称を設定します。

初期設定ウィザード


インスタンスの作成 - 監視対象コンピューター
このインスタンスで監視するコンピューター名とインスタンスIDを入力してください。

監視対象コンピューター(I): VMware監視コンピューター

コンピューター名の後に : をつけてポート番号の指定ができます。

コンピューター名(O): 参照(W)...

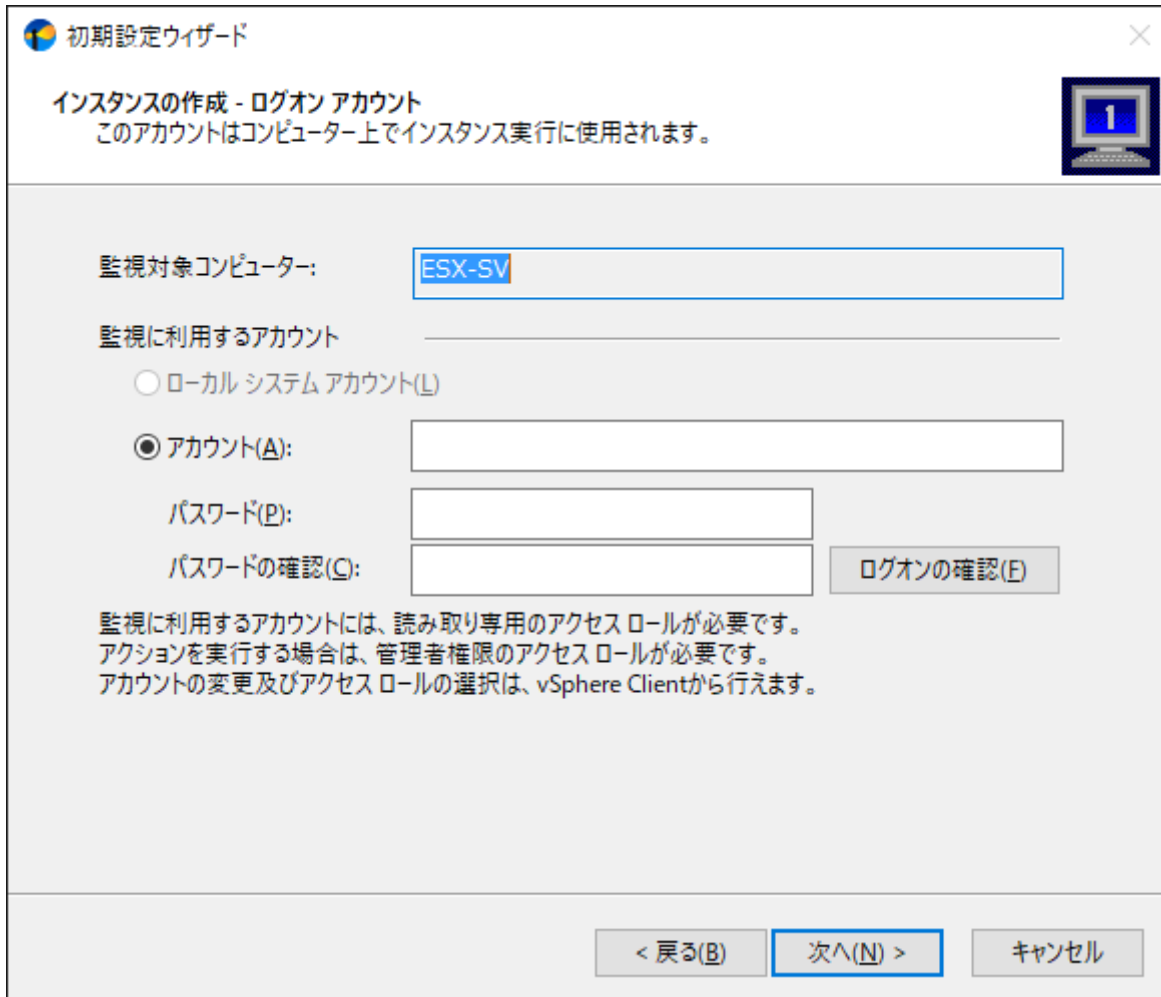
インスタンス ID(I):

 次の文字が使用できます:
a-z, A-Z, 0-9, -, _

- 設定後は、対象インスタンス、インスタンス IDの変更ができませんので注意してください。
- IPv6アドレスはブラケット("[と"]")で囲んでください。

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

10. ESXホストに接続するためのアカウント、パスワードを入力し[ログオンの確認]ボタンをクリックします。
ESXホストに接続可能なことを確認した後、[次へ]ボタンをクリックします。



The screenshot shows a Windows-style dialog box titled "初期設定ウィザード" (Initial Setup Wizard) with a close button (X) in the top right corner. The main heading is "インスタンスの作成 - ログオン アカウント" (Instance Creation - Logon Account), with a sub-note: "このアカウントはコンピューター上でインスタンス実行に使用されます。" (This account is used for instance execution on the computer). A small icon of a computer monitor with a blue '1' is in the top right. The form contains the following fields and controls:

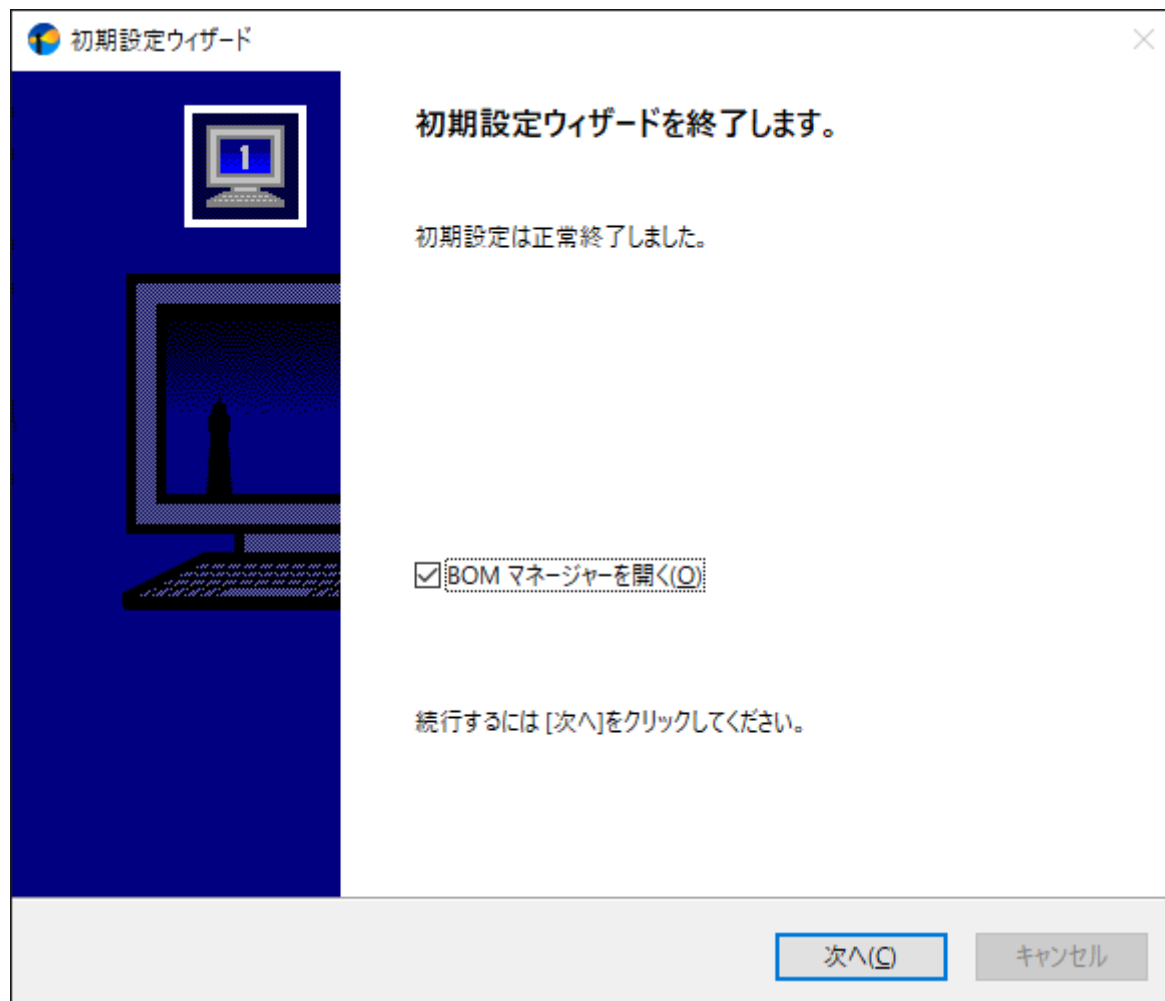
- "監視対象コンピューター:" (Target Computer): A text box containing "ESX-SV".
- "監視に利用するアカウント" (Account to use for monitoring): A section with two radio buttons:
 - ローカル システム アカウント(L) (Local System Account)
 - アカウント(A): (Account): A text box.
- "パスワード(P):" (Password): A text box.
- "パスワードの確認(C):" (Confirm Password): A text box.
- "ログオンの確認(E)" (Confirm Logon): A button.

Below the fields, there is a warning message: "監視に利用するアカウントには、読み取り専用のアクセスロールが必要です。アクションを実行する場合は、管理者権限のアクセスロールが必要です。アカウントの変更及びアクセスロールの選択は、vSphere Clientから行えます。" (The account used for monitoring requires read-only access roles. To perform actions, administrator-level access roles are required. Account changes and access role selection can be done from vSphere Client).

At the bottom, there are three buttons: "< 戻る(B)" (Back), "次へ(N) >" (Next), and "キャンセル" (Cancel). The "次へ(N) >" button is highlighted with a blue border.

- 監視を実施する場合は、指定するアカウントにはESXホストに対する読み取り権限が必要です。またアクション"VMware ステータスコントロール"のようにESXホストに接続するアクションも実行する場合は、ESXホストに対する管理者権限が必要です。
11. 以降は初期設定ウィザードに従い、VMware オプションのインストールを完了します。
- ※ 初期設定ウィザードの詳細については、'BOM for Windows Ver.8.0 インストールマニュアル'を参照してください。

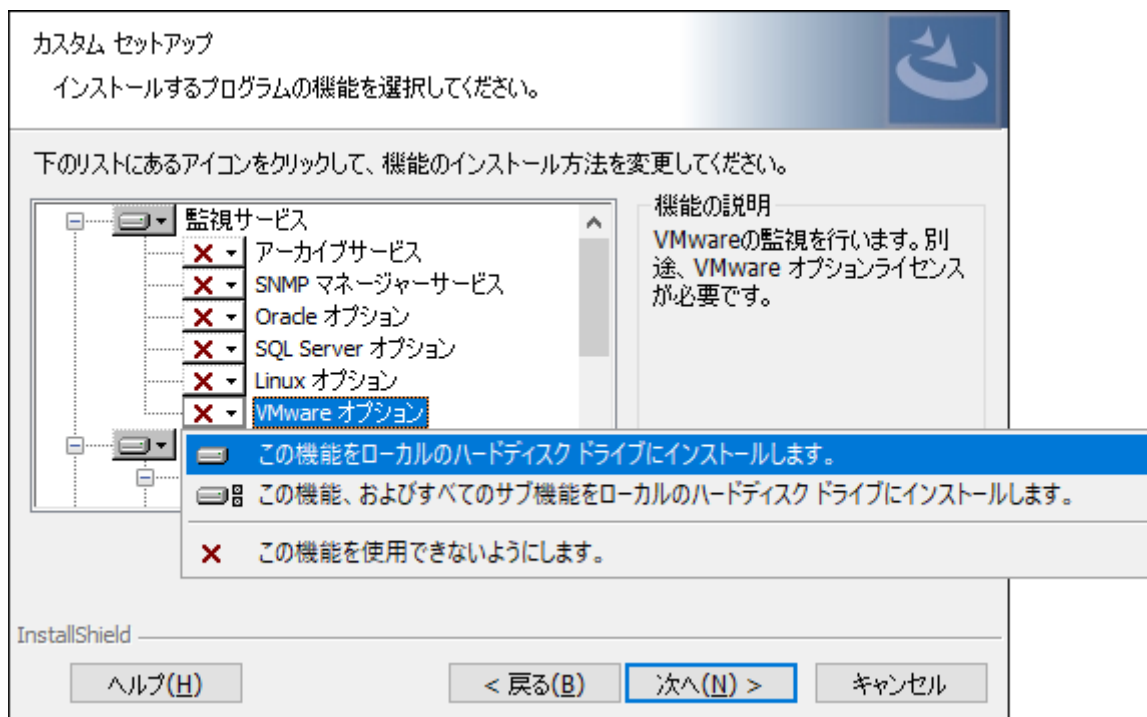
"BOMマネージャーを開く"チェックボックスにチェックを入れた状態で[完了]ボタンをクリックすると、BOM マネージャーが起動します。



(2) VMware オプションの追加インストール

監視元コンピューターに"BOM 8.0 基本パッケージ"などVMware オプション以外のBOM 8.0コンポーネントが既に導入されている場合、追加インストール方式でVMware オプションをインストールします。

1. BOM 8.0のインストールメディアをコンピューターに挿入し、インストールランチャーを起動します。
2. メニューから、"VMware オプション"をクリックし、セットアップウィザードを起動します。
3. "プログラムの保守"画面まで進め、"変更"ラジオボタンが有効になっていることを確認して[次へ]ボタンをクリックします。
4. "カスタムセットアップ"画面で"VMware オプション"のアイコンをクリックし、"この機能をローカルのハードディスク ドライブにインストールします。"を選択して、[次へ]ボタンをクリックします。



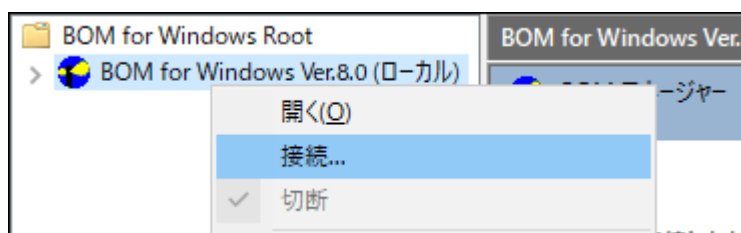
5. 以降はセットアップウィザードに従い、"VMware オプション"のインストールを完了します。
6. 引き続き'[ESXホスト用監視インスタンスの追加作成](#)'を実行します。

(3) ESXホスト用監視インスタンスの追加作成

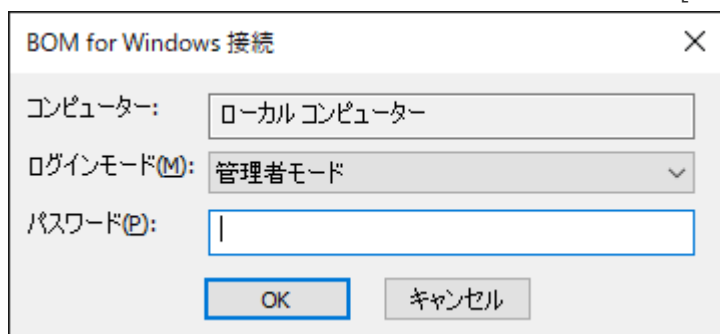
ESXホストを監視するには、ESXホスト用の監視インスタンス（ESX監視インスタンス）を作成する必要があります。

VMware オプションを新規インストールで導入し、初期設定ウィザードでインスタンスを追加している場合、本作業は不要です。VMware オプションがすでに導入されている環境にESX監視インスタンスを追加する場合や、VMware オプションを追加インストールした場合は、以下の手順でESX監視インスタンスを作成してください。

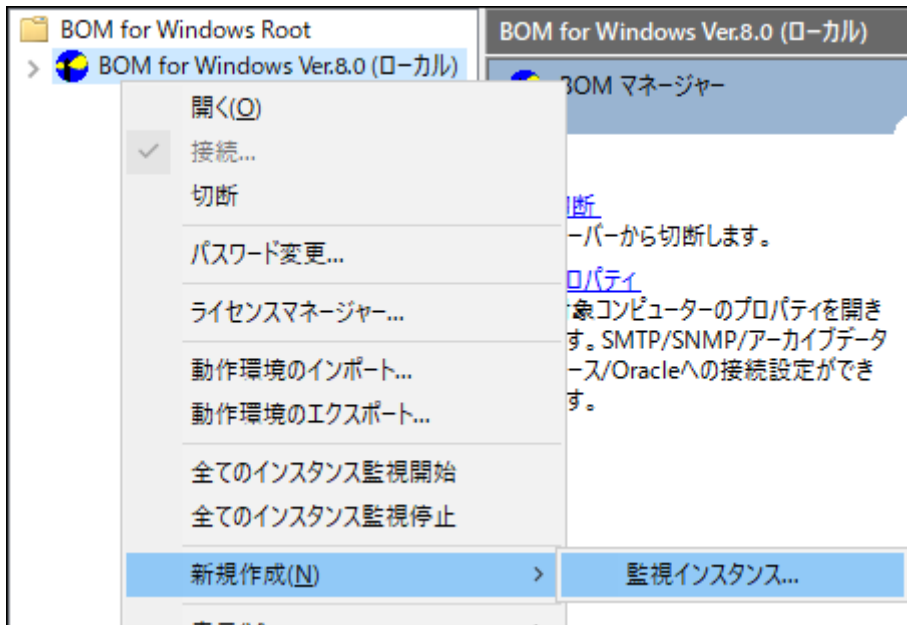
1. スタートメニューから、"BOM for Windows Ver.8.0"の"BOM 8.0 マネージャー"を選択します。
2. BOM 8.0 マネージャーが起動します。
スナップイン"BOM for Windows Ver.8.0（ローカル）"の右クリックメニューから"接続"を選択します。



3. "パスワード"に接続パスワード（既定では"bom"）を入力し、[OK]ボタンをクリックします。

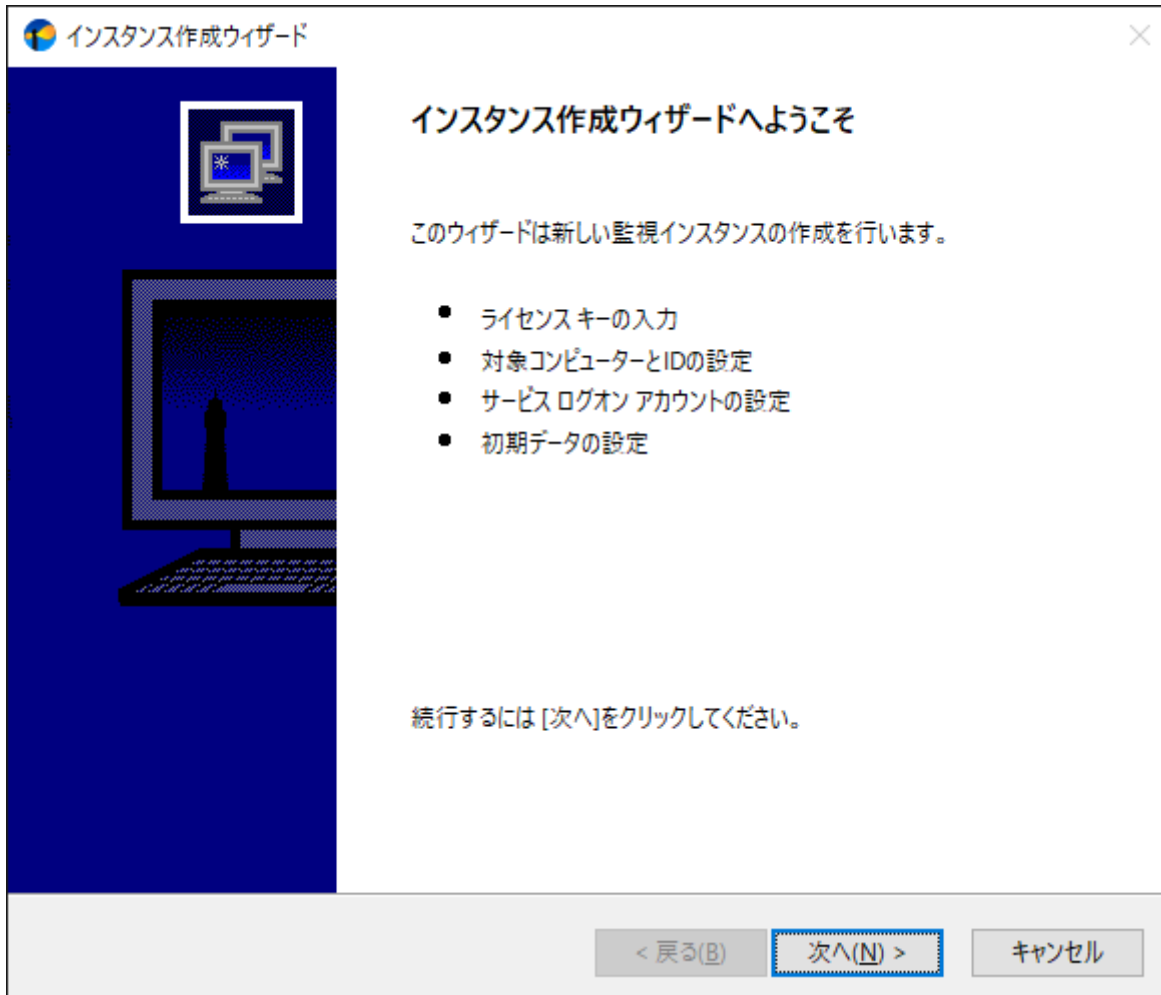


4. スナップイン"BOM for Windows Ver.8.0（ローカル）"の右クリックメニューから"新規作成"→"監視インスタンス..."を選択します。



5. インスタンス作成ウィザードが起動します。

[次へ]ボタンをクリックし、"ライセンス"画面を表示します。



6. VMware オプションのライセンスキーを入力し、[次へ]ボタンをクリックします。

The screenshot shows a window titled "インスタンス作成ウィザード" (Instance Creation Wizard) with a close button in the top right corner. The main heading is "ライセンス" (License), followed by the instruction: "インスタンスの作成ごとに有効なライセンスキーを入力してください。" (Enter a valid license key for each instance creation). Below this is a "ライセンス キー(L):" label and a series of five input boxes for the license key, with a "クリア(C)" (Clear) button to the right. An information icon (i) is followed by a message: "クライアント無償版或いは評価版ライセンス(30日間有効)を初めて利用する場合は、空白にしてください。Windows クライアント OSはクライアント無償版を利用できますが、代理監視には利用できません。" (If you are using a client free version or evaluation license (30 days valid) for the first time, please leave it blank. Windows client OS can be used with the client free version, but it cannot be used for proxy monitoring). At the bottom left, there is a "キーの詳細情報:" (Key details information) label and a text input field. At the bottom right, there are three buttons: "< 戻る(B)" (Back), "次へ(N) >" (Next), and "キャンセル" (Cancel). The "次へ(N) >" button is highlighted with a blue border.

7. "コンピューター名"欄にESXホストのコンピューター名またはIPアドレスを入力します。
"インスタンスID"欄にはESXホストを識別できる名称を設定します。

インスタンス作成ウィザード


監視対象コンピューター
このインスタンスで監視するコンピューター名とインスタンスIDを入力してください。

監視対象コンピューター(I): VMware監視コンピューター

コンピューター名の後に : をつけてポート番号の指定ができます。

コンピューター名(O): ESX-SV 参照(W)...

インスタンス ID(I): ESX-SV

 次の文字が使用できます:
a-z, A-Z, 0-9, -, _

- 設定後は、対象インスタンス、インスタンス IDの変更ができませんので注意してください。
- IPv6アドレスはブラケット("[と"]")で囲んでください。

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

8. ESXホストに接続するためのアカウント、パスワードを入力し、[ログオンの確認]ボタンをクリックします。ESXホストに接続可能なことを確認した後、[次へ]ボタンをクリックします。

インスタンス作成ウィザード

ログオン アカウント
このアカウントはコンピューター上でインスタンス実行に使用されます。

監視対象コンピューター: ESX-SV

監視に利用するアカウント

ローカル システム アカウント(L)

アカウント(A): root

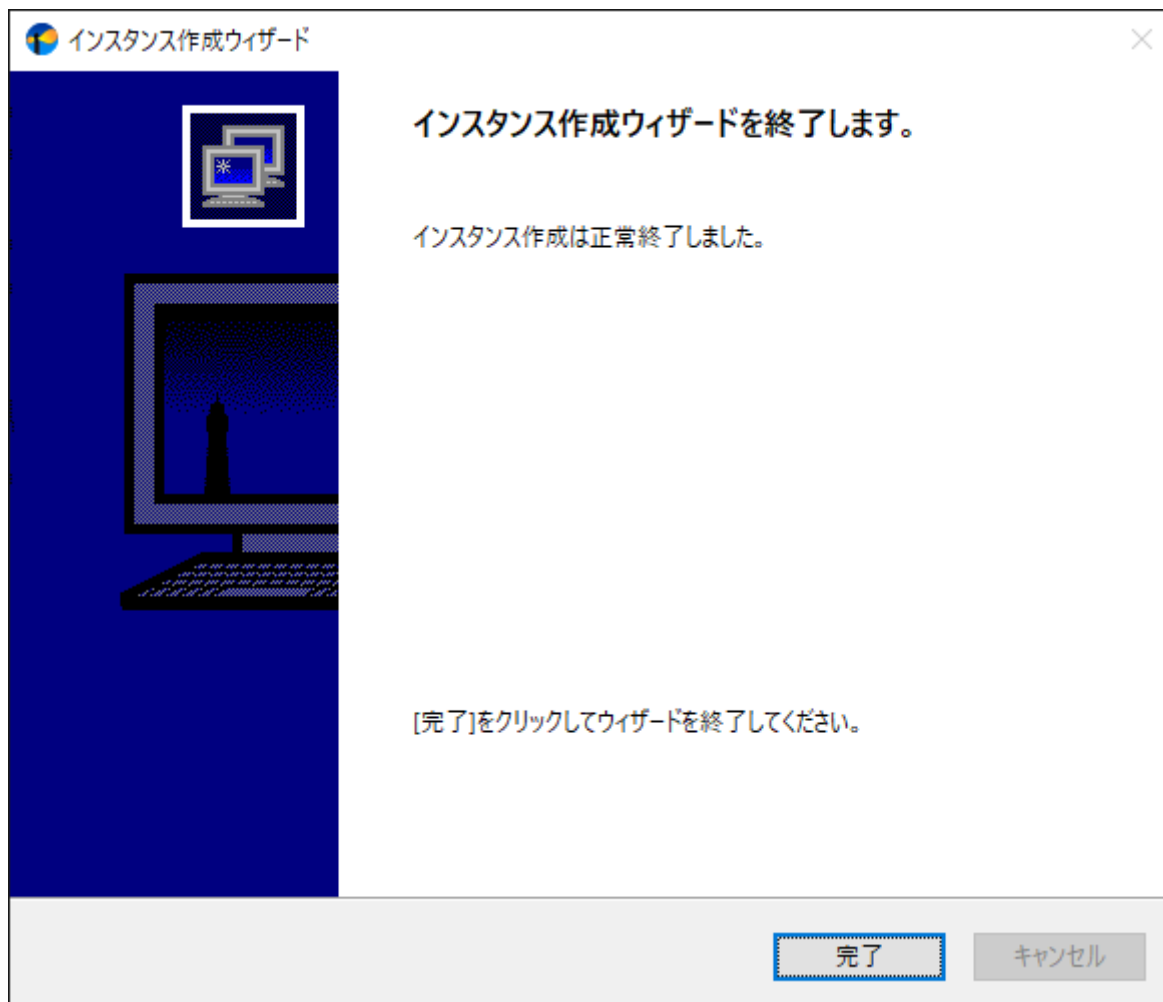
パスワード(P): ●●●●●●●●

パスワードの確認(C): ●●●●●●●● ログオンの確認(E)

監視に利用するアカウントには、読み取り専用のアクセスロールが必要です。
アクションを実行する場合は、管理者権限のアクセスロールが必要です。
アカウントの変更及びアクセスロールの選択は、vSphere Clientから行えます。

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

9. インスタンス作成ウィザードに従い、インスタンスの作成を完了します。



第3章 アンインストール

BOM 8.0および、VMware オプションのアンインストールは、以下の手順に沿って作業してください。

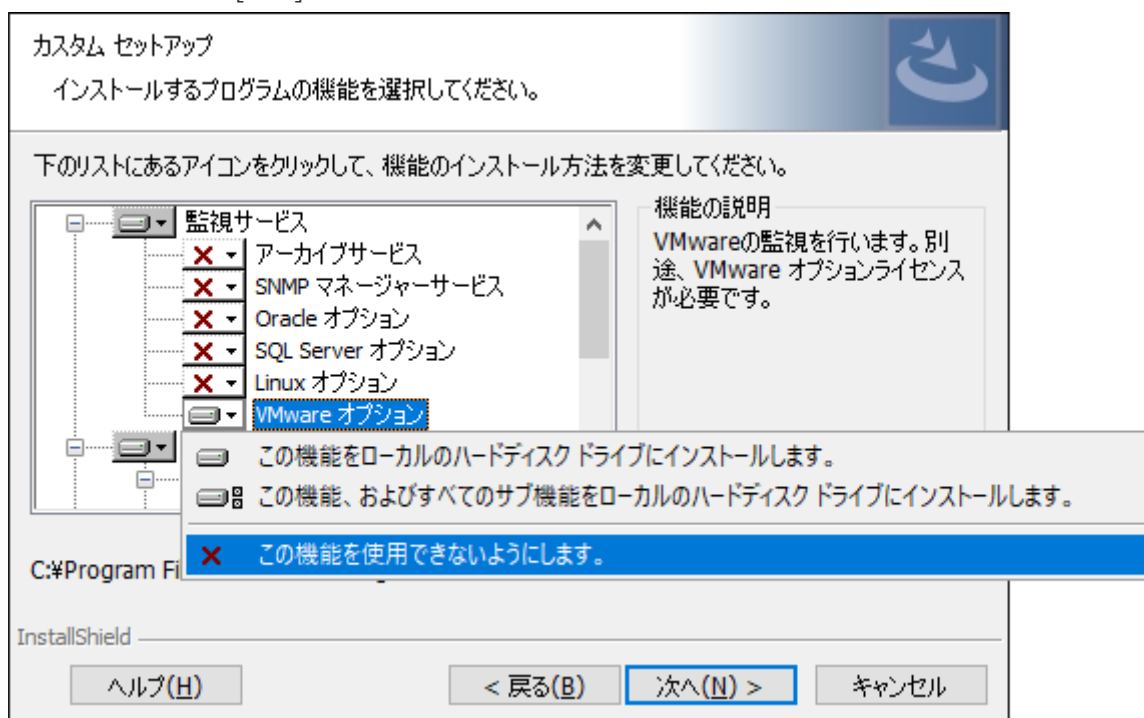
アンインストール作業は管理者権限が必要です。管理者権限を持つアカウントにてログオンの上、作業を行ってください。

- 以降の手順は必要な作業項目を抽出した概略手順です。BOM 8.0の詳細なアンインストール手順については、'BOM for Windows Ver.8.0 インストールマニュアル'を参照してください。

1. VMware オプションのみをアンインストールする

コンピューターからVMware オプションのみをアンインストールするには、以下の作業を実施してください。

- BOM 8.0のインストールメディアをコンピューターに挿入し、インストールランチャーを起動します。
- メニューから"VMware オプション"をクリックし、セットアップウィザードを起動します。
- "プログラムの保守"画面まで進め、"変更"ラジオボタンが有効になっていることを確認して[次へ]ボタンをクリックします。
- "カスタムセットアップ"画面で"VMware オプション"のアイコンをクリックし、"この機能を使用できないようにします。"を選択して、[次へ]ボタンをクリックします。



- 以降はセットアップウィザードに従い、"VMware オプション"のアンインストールを完了します。

2. BOM 8.0全体をアンインストールする

コンピューターからBOM 8.0のすべてのコンポーネントをアンインストールするには、以下の作業を実施してください。

1. BOM 8.0のインストールメディアをコンピューターに挿入し、インストールランチャーを起動します。
2. メニューから"VMware オプション"をクリックし、セットアップウィザードを起動します。
3. プログラムの保守"画面まで進め、"削除"ラジオボタンを有効にして[次へ]ボタンをクリックします。
4. 以降はセットアップウィザードに従い、BOM 8.0のアンインストールを完了します。

第4章 BOM 8.0 マネージャーの基本操作

ESXホストの監視設定やVMware ログビューアーの起動には、BOM 8.0 マネージャーを使用します。また、ESXホスト用の監視インスタンス（ESX監視インスタンス）は、BOM 8.0 集中監視コンソールを使用して一元管理できます。

以下ではVMware オプションを使用する上で必要となる、BOM 8.0 マネージャーおよび、VMware ログビューアーの基本的な操作方法を説明します。本章の説明は作業の概要のみを抽出した手順のため、BOM 8.0 マネージャーの詳細については、'BOM for Windows Ver.8.0 ユーザーズマニュアル'を参照してください。またBOM 8.0 集中監視コンソールについては'BOM for Windows Ver.8.0 集中監視コンソールユーザーズマニュアル'を参照してください。

VMware ログビューアーの詳細については'[VMware ログビューアー](#)'を確認してください。

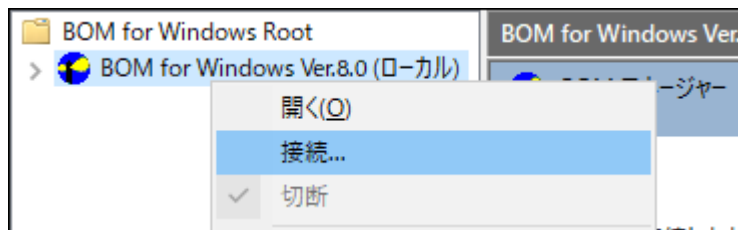
以降の作業は管理者権限が必要です。管理者権限を持つアカウントにてログオンの上、作業を行ってください。

1. BOM 8.0 マネージャーの起動と接続

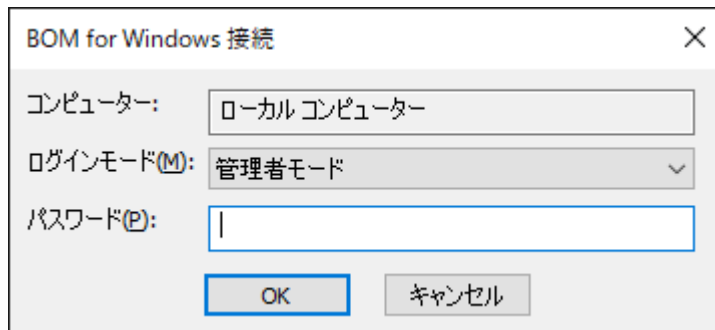
1. スタートメニューから、"BOM for Windows Ver.8.0"の"BOM 8.0 マネージャー"を選択します。

2. BOM 8.0 マネージャーが起動します。

スナップイン"BOM for Windows Ver.8.0 (ローカル)"の右クリックメニューから"接続"を選択します。



3. "パスワード"欄に接続パスワード（既定では"bom"）を入力し、[OK]ボタンをクリックします。



以上でBOMへの接続が完了し、ESX監視インスタンスが操作できる状態になります。

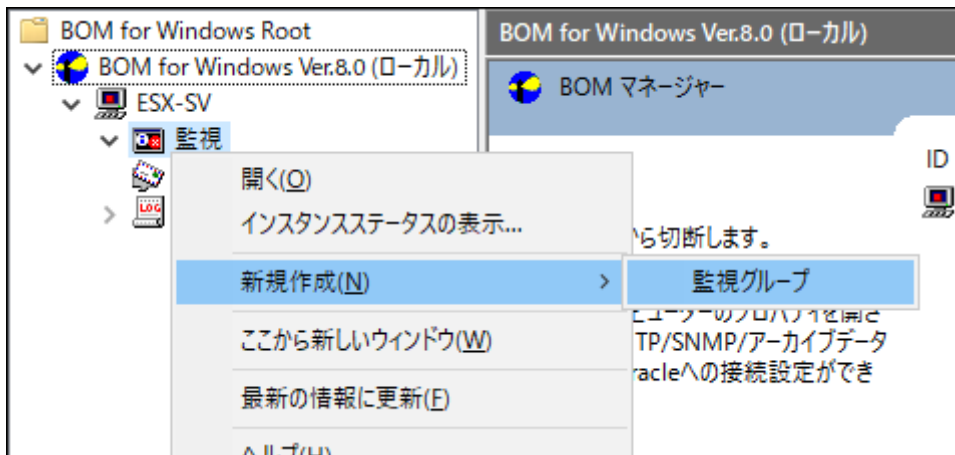
2. 監視グループの作成と設定変更

以下は監視を行うための土台となる"監視グループ"の作成手順です。

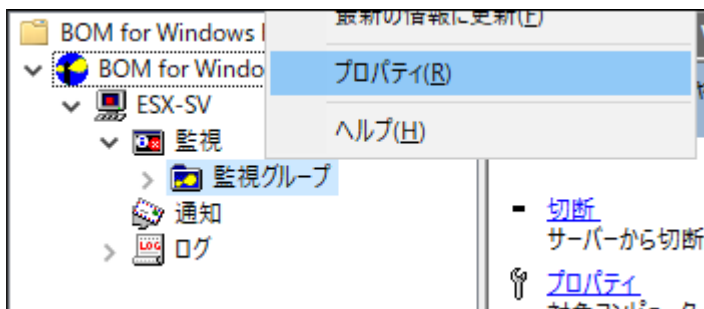
1. スコープペインより"BOM for Windows Ver.8.0(ローカル)"→" (ESX監視インスタンス名) "→"監視"を選択します。



2. 右クリックメニューから"新規作成"→"監視グループ"を選択し、監視グループを作成します。



3. 作成した監視グループをいずれかのペインで選択し、右クリックメニューから"プロパティ"を選択します。



4. 監視グループ名、監視の有効/無効など、各種設定を必要に応じて変更します。

監視グループのプロパティ

全般

名前(N): 有効(E)

監視グループ

ID: GRP01

コメント(C):

スケジュール:

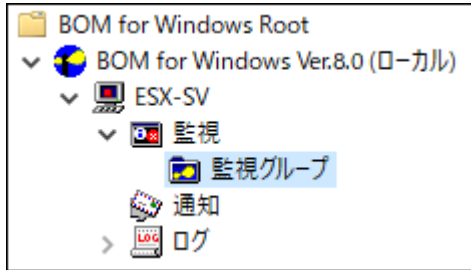
OK キャンセル 適用(A)

5. [OK]ボタンをクリックし、設定を保存します。

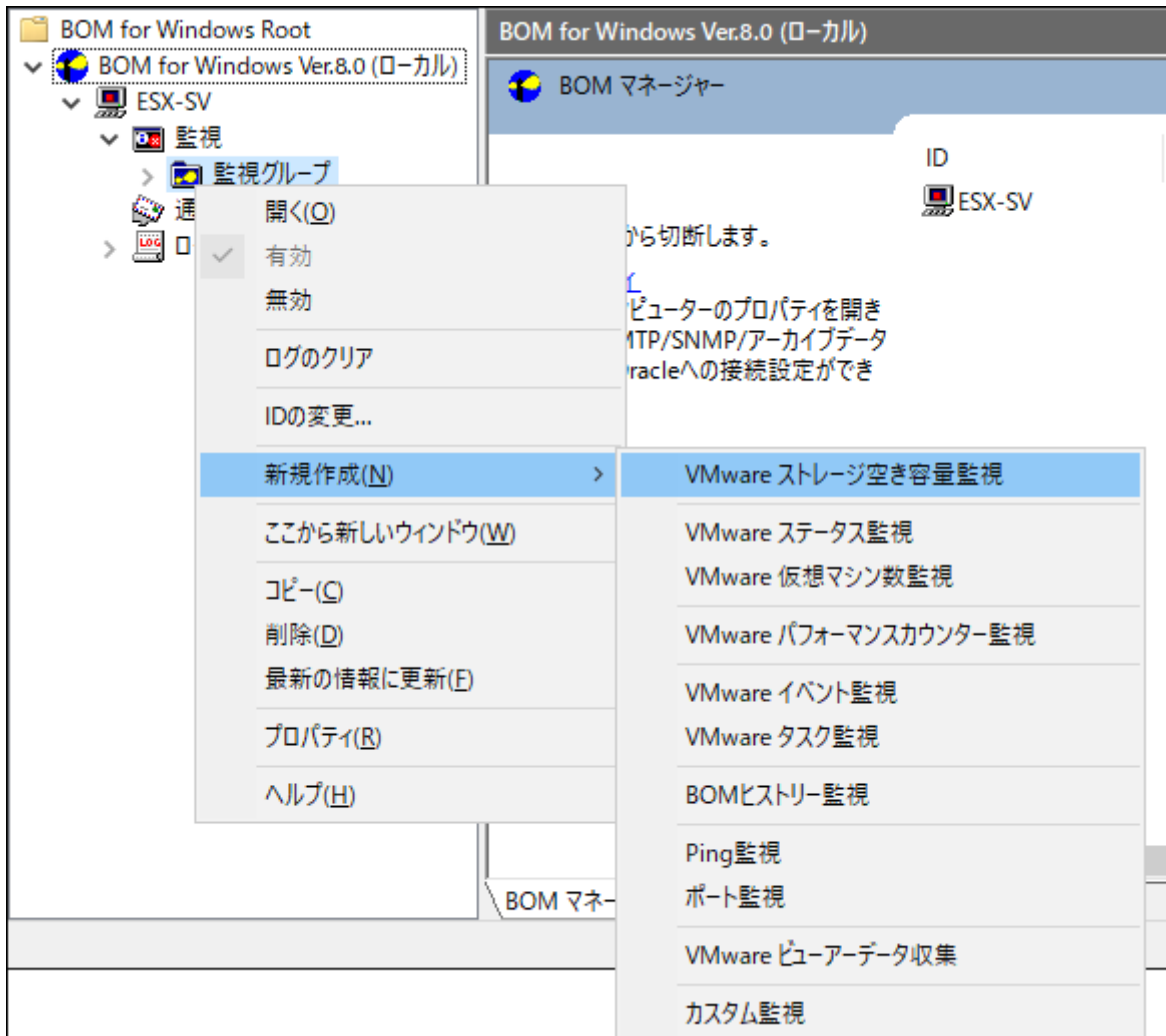
3. 監視項目の作成と設定変更

以下は、ESXホストの監視を行う際に必要な"監視項目"の作成手順です。

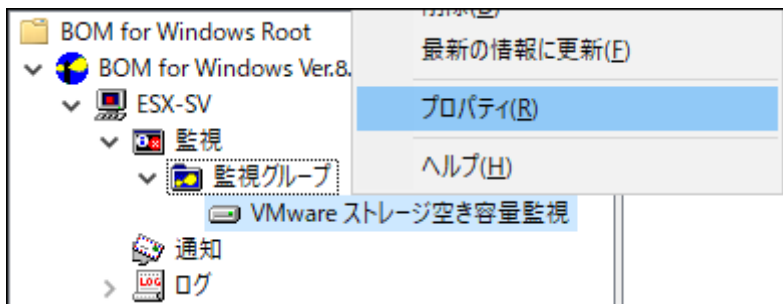
1. スコープペインより"BOM for Windows Ver.8.0(ローカル)"→" (ESX監視インスタンス名) "→"監視"→" (任意の監視グループ) "を選択します。



2. 右クリックメニューから"新規作成"→" (任意の監視項目) "を選択し、任意の監視項目を作成します。



3. 作成した監視項目をいずれかのペインで選択し、右クリックメニューから"プロパティ"を選択します。



4. 監視項目名、監視の有効/無効など、各種設定を必要に応じて変更します。

VMware ストレージ空き容量監視のプロパティ

全般 設定 しきい値

名前(N): 有効(E)
VMware ストレージ空き容量監視

ID(I): GRP01MON01

コメント(C):

間隔(I): 10 分

開始時刻: サービスの開始直後(M)
指定時刻(T): 2022/03/08 0:00:00

監視間隔を固定する(K)
監視予定時刻を過ぎた場合に臨時実行する(R)
監視予定時刻に監視サービスが停止していた場合、
監視サービス起動直後に臨時で監視を実行します。

OK キャンセル 適用(A)

◦ VMware オプション固有の監視項目設定については、'[VMware オプションの監視項目](#)'を参照してください。

5. [OK]ボタンをクリックし、設定を保存します。

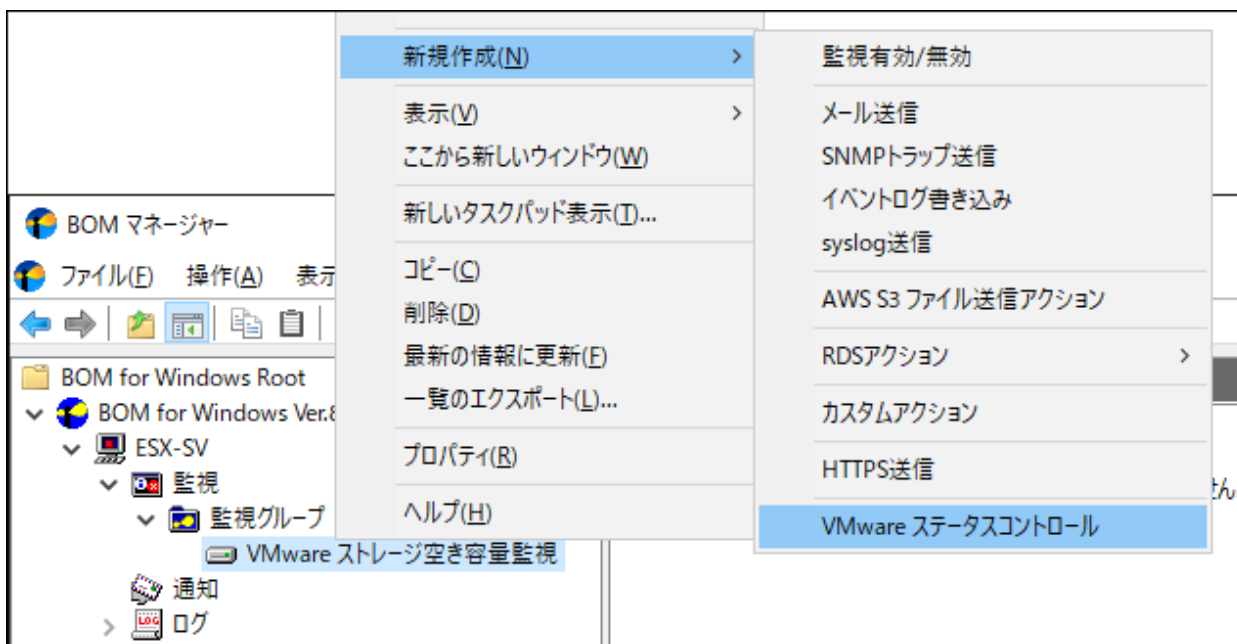
4. アクション項目の作成と設定変更

以下は、監視結果（ステータス）を元に処理を行う際に必要な"アクション項目"の作成手順です。

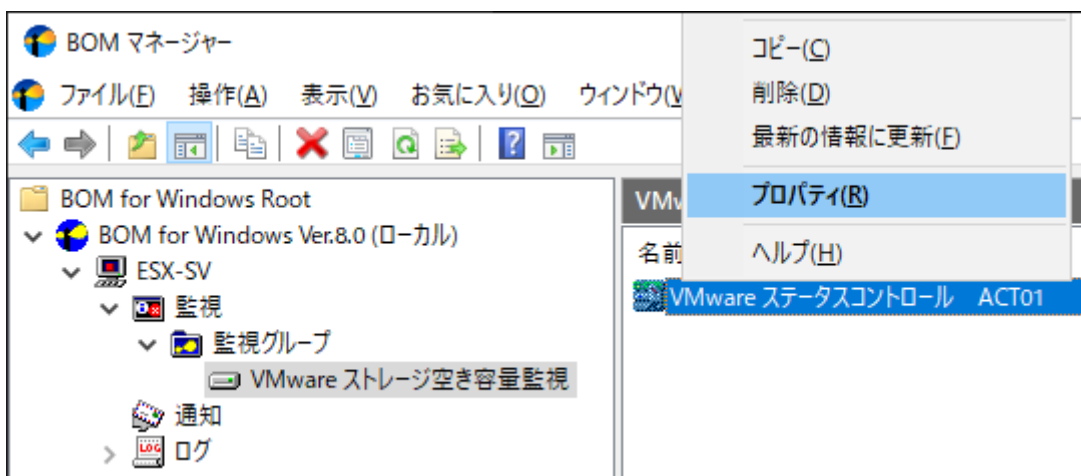
1. スコープペインより"BOM for Windows Ver.8.0(ローカル)"→"（ESX監視インスタンス名）"→"監視"→"（任意の監視グループ）"→"（任意の監視項目）"を選択します。



2. 右クリックメニューから"新規作成"→"（任意のアクション項目）"を選択し、任意のアクション項目を作成します。



3. 作成したアクション項目をリザルトペインで選択し、右クリックメニューから"プロパティ"を選択します。



4. アクション項目名、アクションの有効/無効など、各種設定を必要に応じて変更します。

VMware ステータスコントロールのプロパティ

全般 実行条件 設定

名前(N): 有効(E)
VMware ステータスコントロール

ID(I): GRP01MON01ACT01

コメント(C):

1回のみ実行(実行後、自動的にアクションが無効となります) (O)

OK キャンセル 適用(A)

- VMware オプション固有のアクション項目設定については、'[VMware オプションのアクション項目](#)'を参照してください。

5. [OK]ボタンをクリックし、設定を保存します。

5. VMware ログビューアーの起動

VMware ログビューアーを使用する際は事前に監視項目"VMware ビューアーデータ収集"を作成し、データ（監視結果）を収集しておく必要があります。詳細は'[VMware ビューアーデータ収集](#)'を参照してください。

また、VMware ログビューアーの使用方法については、'[VMware ログビューアー](#)'を参照してください。

1. BOM マネージャーのスコープペインより、"BOM for Windows Ver.8.0(ローカル)"→"（ESX監視インスタンス名）"を選択します。



2. 右クリックメニュー、またはタスクパッドのリンクから"VMware ログビューアー"を選択します。



3. VMware ログビューアーが起動し、データが閲覧可能になります。

VMware ログビューアー-[ESX-SV]

ファイル(E) 表示(V)

- ESX-SV10.say-tech.co.jp
 - E10-W19-BOM0
 - E10-W19-BOM1
 - bom-archive

サマリー パフォーマンス ハードウェア健全性

全般

ホスト種別	ESXi
ホストバージョン	6.7.0
ホスト名称	ESX-SV10.say-tech.co.jp
ベンダー名称	FUJITSU

CPU

ターゲット	使用率	使用量 (MHz 単位)
<input checked="" type="checkbox"/> ESX-SV10.say-te...	16.52 %	2505 MHz
<input checked="" type="checkbox"/> E10-W19-BOM0	0.14 %	22 MHz
<input checked="" type="checkbox"/> E10-W19-BOM1	0.40 %	60 MHz

Memory

ターゲット	使用率	割当	消費	共有
<input checked="" type="checkbox"/> ESX-SV10.say-te...	62.82 %		40.06 GB	0.00 GB
<input checked="" type="checkbox"/> E10-W19-BOM0	99.99 %	1.99 GB	1.99 GB	0.00 GB

Network I/O

ターゲット	データ受信速度	データ転送速度	使用量
<input checked="" type="checkbox"/> ESX-SV10.say-te...	1024.00 Bps	1024.00 Bps	2048.00 B
<input checked="" type="checkbox"/> E10-W19-BOM0	0.00 Bps	0.00 Bps	0.00 B

Disk Access

ターゲット	読み取り速度	書き込み速度	使用量
<input checked="" type="checkbox"/> ESX-SV10.say-te...	1.00 KBps	54.00 KBps	56.00 KB
<input checked="" type="checkbox"/> E10-W19-BOM0	0.00 KBps	0.00 KBps	0.00 KB

Data Store

データストア	使用率	容量	空き容量
<input checked="" type="checkbox"/> datastore1	8.73 %	1855.50 GB	1693.61 GB

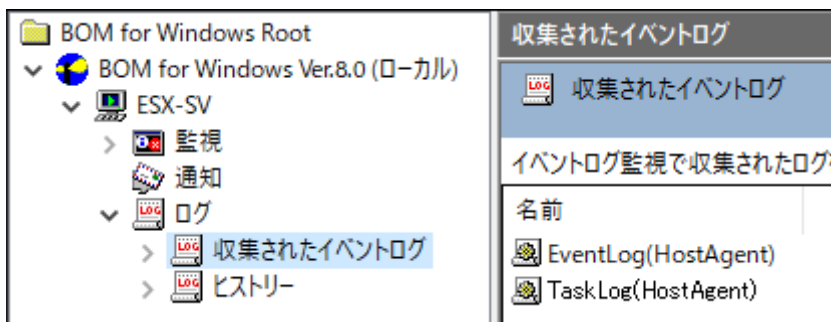
更新日時: 2022/03/08 18:48:53

6. 収集されたログの閲覧

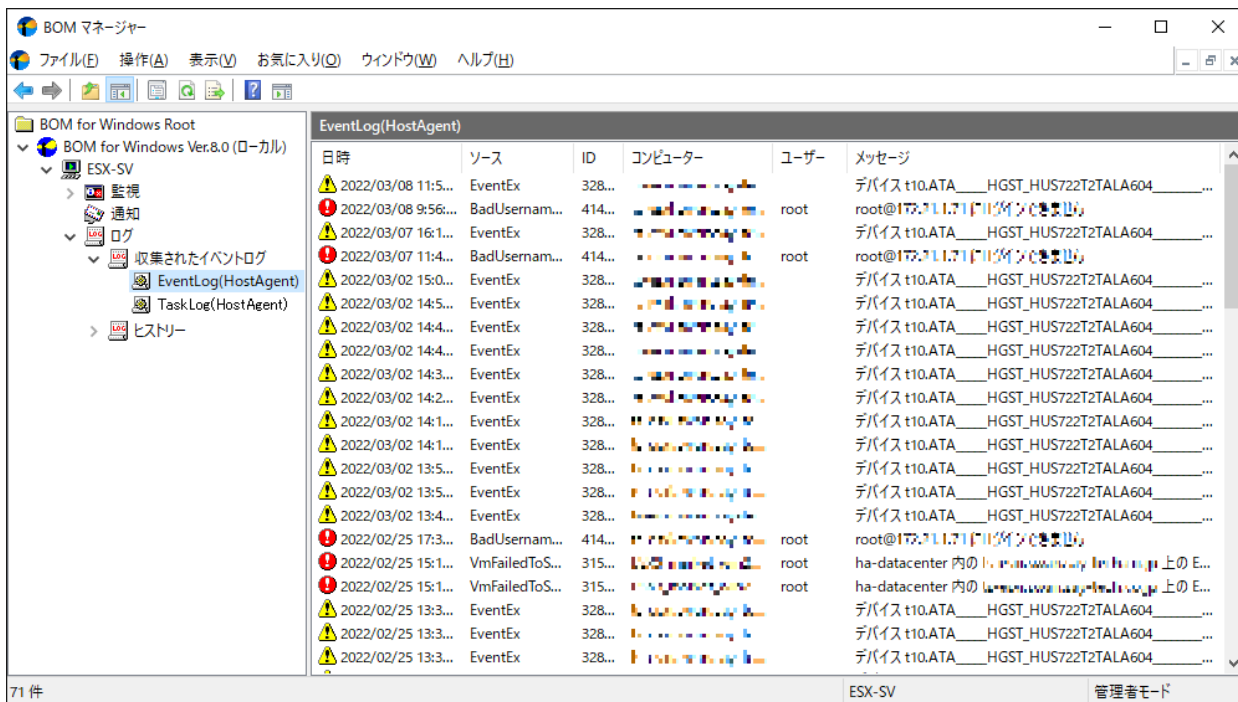
以下は、監視項目"VMware イベント監視"または"VMware タスク監視"の監視結果に基づいて蓄積された、ログを閲覧するための手順です。

- 収集されたイベントログは、100000件まで各収集されたイベントログに保存されるよう設定されており、100000件を超えると古いログから上書きされます。
- "収集されたイベントログ"ノードをクリックした際にリザルトペインに表示される件数は、最大で最新の1000件分です。すべてのログを表示したい場合には"収集されたイベントログ"配下の各ノードを右クリックし、コンテキストメニューの"すべてのレコードを表示"をクリックしてください。
- 各監視項目の詳細は'[VMware オプションの監視項目](#)'を参照してください。

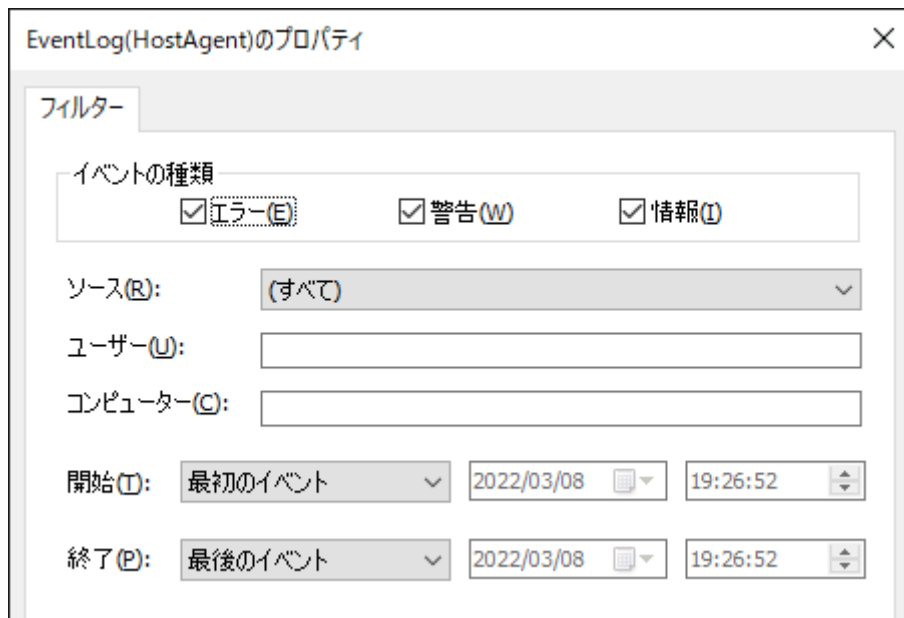
1. スコープペインより"BOM for Windows Ver.8.0(ローカル)"→"(ESX監視インスタンス名)"→"ログ"→"収集されたイベントログ"を選択します。



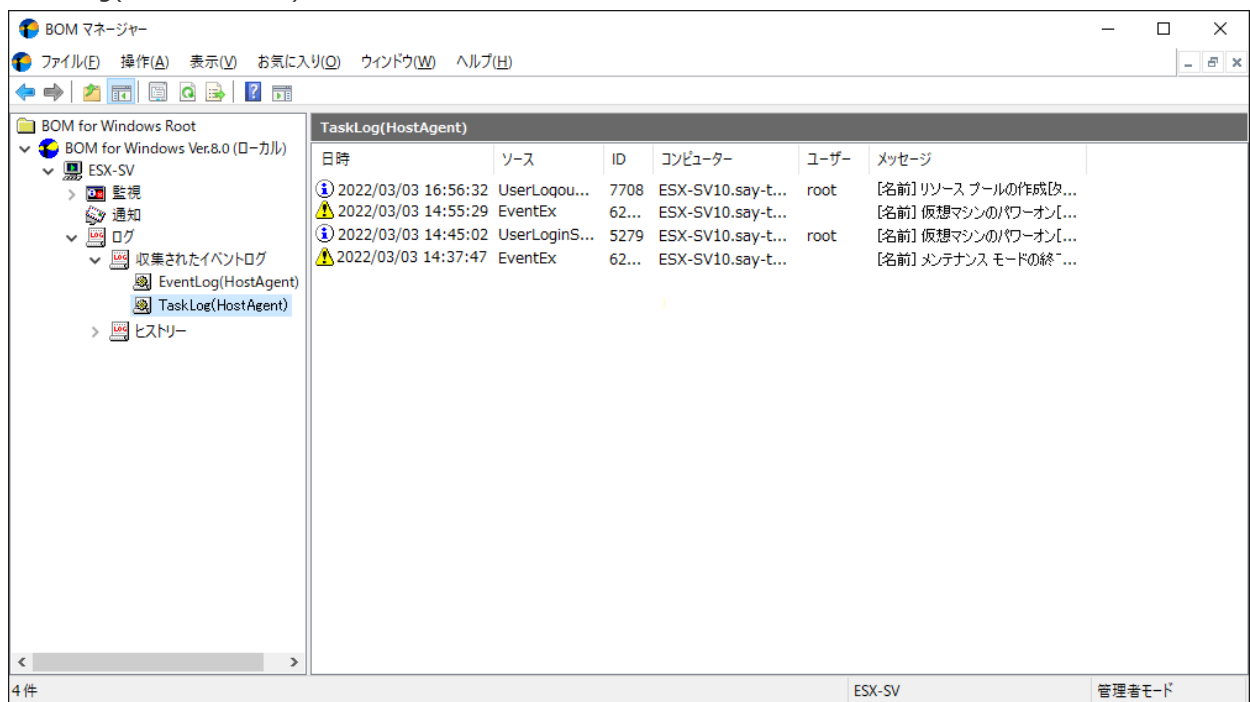
2. "EventLog(接続先名称)"では、監視項目"VMware イベント監視"で収集したログを閲覧できます。



3. "EventLog(接続先名称)"の右クリックメニューから"プロパティ"を選択すると、ログのフィルタ機能が利用できます。



4. "TaskLog((接続先名称))"では、監視項目"VMware タスク監視"で収集したログを閲覧できます。



5. "TaskLog((接続先名称))"の右クリックメニューから"プロパティ"を選択すると、ログのフィルタ機能が利用できます。

フィルター

イベントの種類

 エラー(R) 情報(I)

ソース(S): (すべて) ▼

タスクの発生原因(T): (すべて) ▼

タスクのステータス(S): (すべて) ▼

イベントID(I):

ユーザー(U):

コンピューター(P):

開始(G): 最初のイベント ▼ 2016/10/18 🗓 ▼ 09:48:11 ⌆

終了(E): 最後のイベント ▼ 2016/10/18 🗓 ▼ 09:48:11 ⌆

(1) EventLog(接続先名称)

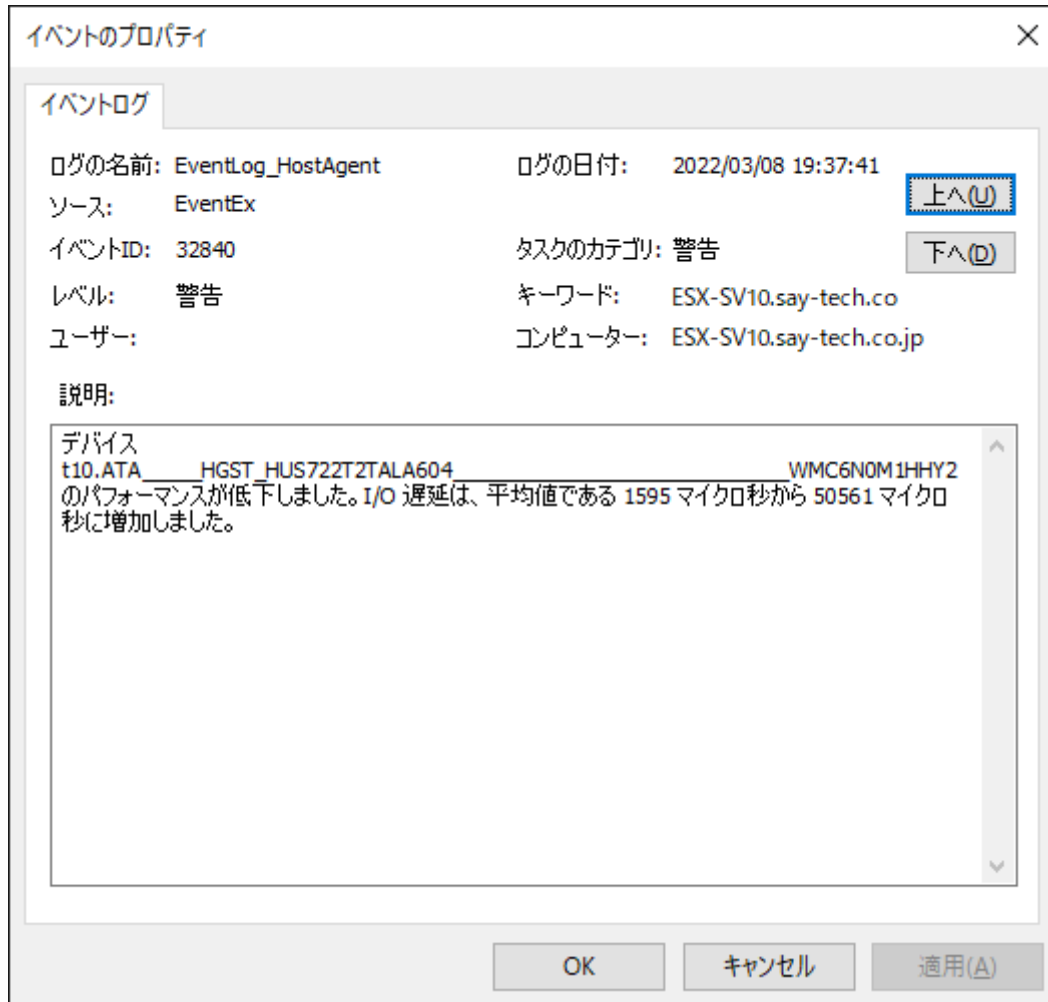
• アイコンについて

リスト表示のアイコンは、以下のイベントタイプを意味しています。



• イベントのプロパティについて

リスト表示されたイベントログは、右クリックメニューから"開く"を選択するとログの詳細画面（プロパティ）を表示することができます。



項目名	説明
レベル	イベントタイプを表示します。
ユーザー	タスクの発生がユーザー起因の場合のみ、該当のユーザー名を表示します。
タスクのカテゴリ	"レベル"と同様の、イベントタイプ情報を表示します。
キーワード	ターゲットリストのアイテムをカンマ区切りで表示します。
コンピューター	対象のコンピューター名を表示します。

(2) TaskLog((接続先名称))

- アイコンについて

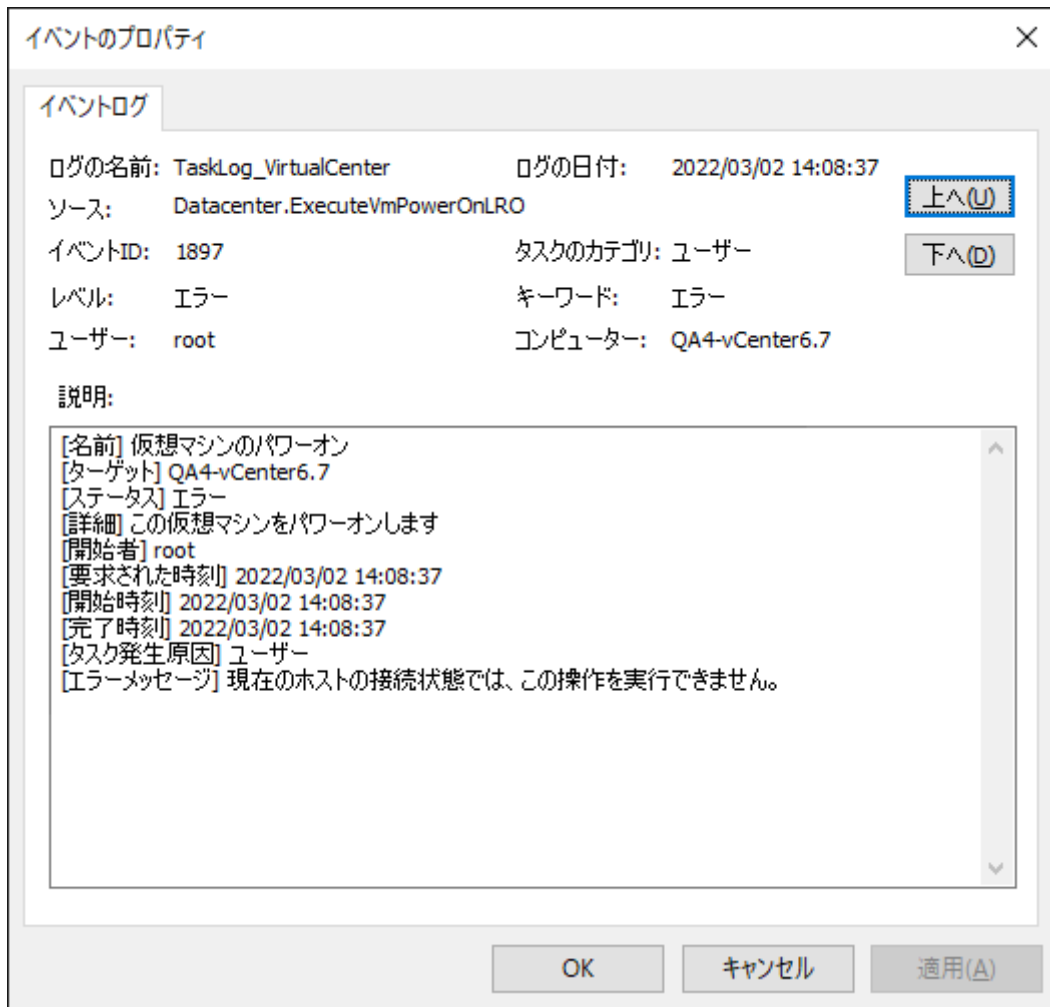
リスト表示のアイコンは、以下のタスクのステータスを意味しています。

※ イベントレベルとして、"成功"は"情報"にカテゴライズされます。



- イベントのプロパティについて

リスト表示されたタスクログについて、右クリックメニューから"開く"を選択すると、ログの詳細画面（プロパティ）を表示することができます。



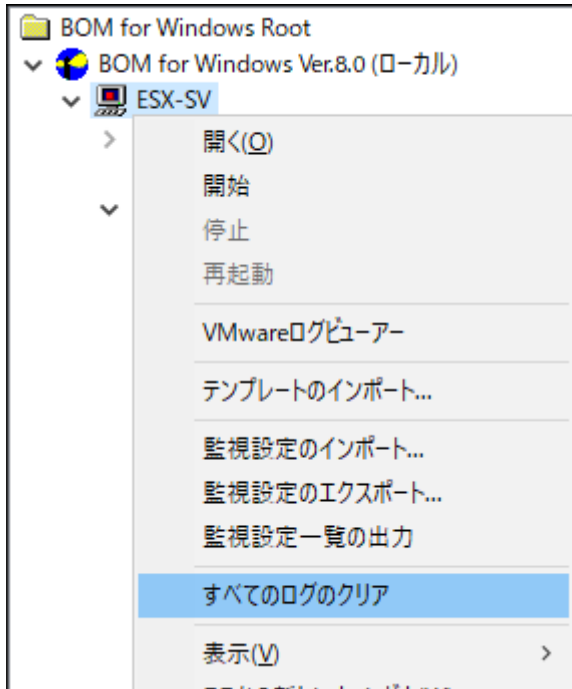
項目名	説明
レベル	イベントレベル ("エラー"および"情報") を表示します。
ユーザー	タスクの発生がユーザー起因の場合のみ、該当のユーザー名を表示します。
タスクのカテゴリ	"タスクの発生原因"を表示します。
キーワード	タスクのステータス ("エラー"および"成功") を表示します。
コンピューター	ターゲット名を表示します。

(3) インスタンスログの削除

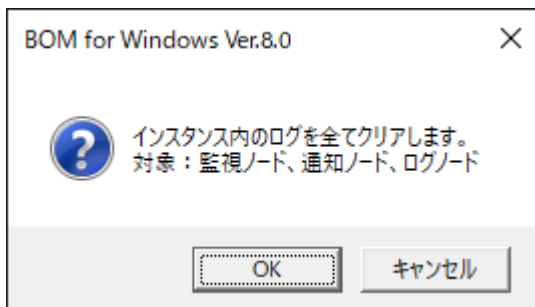
以下は、ESX監視インスタンスの全監視ログを削除する手順です。

この操作により、VMware ログビューアーの収集データ格納用データベースを含め、ESX監視インスタンス上のすべてのログが削除されます。

- "収集されたイベントログ"ノード配下のログのみを削除する場合は、"収集されたイベントログ"ノードを右クリックし、メニューから"ログのクリア"を選んでください。
1. スコープペインより"BOM for Windows Ver.8.0(ローカル)"→"(ESX監視インスタンス名)"を選択します。
 2. インスタンスが開始している場合は、右クリックメニューから"停止"をクリックします。
 3. 右クリックメニューから"すべてのログのクリア"を選択します。



4. 確認メッセージが表示されます。削除して問題ないことを確認し、[OK]ボタンをクリックします。



第5章 VMware オプションによる監視

1. 概要

VMware オプションでは、監視元コンピューター（BOM）から監視対象コンピューター（ESXホスト）に接続し、各種情報を取得して監視します。

本章では、ESXホストを監視するために必要な、監視項目およびアクション項目の情報を説明します。

なお、ESXホストを監視する際は、あらかじめESXホスト用の監視インスタンス（ESX監視インスタンス）が作成されている必要があります。ESX監視インスタンスを作成していない場合は、'[インストール手順](#)'を参照してください。

2. VMware オプションの監視項目

本項では、ESX監視インスタンスで使用できる監視項目について、使用方法を解説します。

ESX監視インスタンスで使用できる監視項目は、以下のとおりです。

アイコン	監視項目名	説明
	VMware ストレージ空き容量監視	ESXホストまたは仮想マシンのストレージ空き容量を監視
	VMware ステータス監視	ESXホストまたは仮想マシンのステータスを監視
	VMware 仮想マシン数監視	ESXホスト上に存在する仮想マシン数を監視
	VMware パフォーマンスカウンター監視	ESXホストまたは仮想マシンのパフォーマンスを監視
	VMware イベント監視	ESXホストが出力するイベントログのメッセージを監視
	VMware タスク監視	ESXホストが出力するタスクログのメッセージを監視
	BOM履歴監視	BOMが出力する履歴ログを監視
	Ping監視	Ping (ICMP ECHO) を発行し、レスポンスを監視
	ポート監視	リモートコンピューターのTCP/UDPポートの状態を監視
	VMware ビューアーデータ収集	VMwareログビューアーで表示するための各種データを収集
	カスタム監視	任意のプログラムを実行し、その出力結果を監視

(1) 監視項目の概要

各監視項目は、作成した後に監視動作の条件などを設定する必要があります。

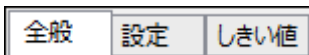
監視項目の設定は、いずれかのペインで対象の監視項目を選択し、右クリックメニューから"プロパティ"を選択することで表示されるプロパティシートから実施します。

- 監視項目の概要はBOM 8.0の基本機能と同一です。詳細については、'BOM for Windows Ver.8.0 ユーザーズマニュアル'を参照してください。以降はVMware オプションの監視設定で必要な部分に絞って説明します。

A. 基本操作

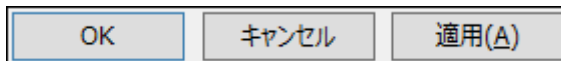
- タブ

プロパティシートは、「全般」、「設定」などのタブで構成されています。それぞれのタブをクリックすることで該当するタブが表示され、設定を変更できます。



- 変更した設定の反映と破棄

変更した設定は、[OK]ボタン、または[適用]ボタンをクリックすることでBOM 8.0に反映することができます。変更した設定を破棄する場合は[キャンセル]ボタンをクリックします。



B. 「全般」タブ

「全般」タブは、「アイコン」、「ID」、「名前」、「間隔」に設定されている値を除き、すべての監視項目で共通です。

VMware ストレージ空き容量監視のプロパティ

全般 設定 しきい値

名前(N): 有効(E)
VMware ストレージ空き容量監視

ID(D):

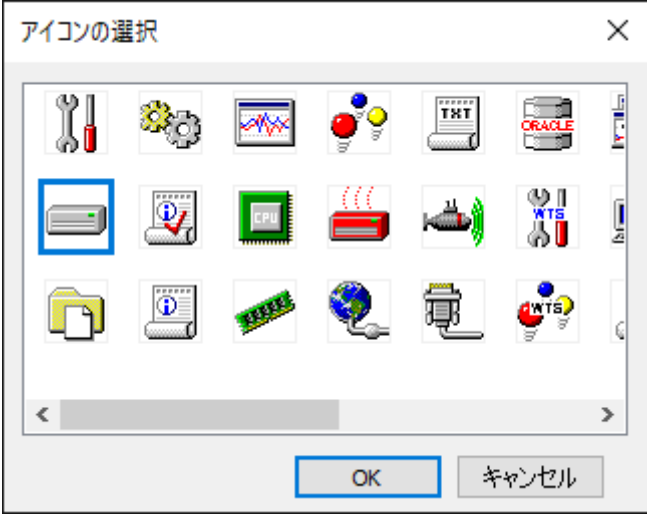
コメント(C):

間隔(V): 分

開始時刻: サービスの開始直後(M)
 指定時刻(D):

監視間隔を固定する(K)
 監視予定時刻を過ぎた場合に臨時実行する(R)
監視予定時刻に監視サービスが停止していた場合、
監視サービス起動直後に臨時で監視を実行します。

OK キャンセル 適用(A)

設定項目	説明
[アイコン]ボタン	<p>[アイコン]ボタンは監視項目で設定されているアイコンが表示され、既定では監視項目の種類に合わせたアイコンが設定されています。</p> <p>[アイコン]ボタンをクリックすることで、アイコンを変更するためのダイアログを表示できます。アイコンを変更する場合は、このダイアログで変更したいアイコンをクリックし、[OK]ボタンをクリックします。</p> 
"有効"チェックボックス	<p>チェックを入れることで監視が有効になります。</p> <p>既定ではチェックボックスにチェックが入っています。監視を実行しない場合はチェックボックスからチェックを外してください。</p>
"名前"欄	<p>監視項目名を入力します。既定値として監視項目の種類と同じ名称が入力されています。</p> <p>必要に応じてわかりやすい名称に変更してください。</p>
"ID"欄	<p>監視項目IDが表示されます。監視項目IDはインスタンス内で監視項目ごとに一意になるようにBOMが自動的に設定するため、ここでは変更できません。</p>
"コメント"欄	<p>監視項目の補足情報を入力します。既定では空白です。</p> <p>必要に応じて入力してください。</p>
"間隔"欄	<p>監視項目の監視間隔を入力します。既定値として監視項目の種類ごとに定められた推奨値が入力されています。</p> <p>入力欄には、1から9999までの整数を入力できます。単位は"秒"、"分"、"時"、または"日"から選択できます。</p>
開始時刻	<p>監視項目を開始する日時を指定します。既定では"サービスの開始直後"ラジオボタンが選択されています。なお、初回以降の監視は、指定した監視間隔ごとに行われます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - "サービスの開始直後"ラジオボタン：BOM監視サービスの起動時に初回の監視を実行します。 - "指定時刻"ラジオボタン：指定の日時に初回の監視を実行します。
"監視間隔を固定する"チェックボックス	<p>"指定時刻"ラジオボタンを選択した場合のみ利用できる機能で、チェックを入れることで指定時間を基準日時として監視間隔を固定します。</p> <p>既定ではチェックボックスのチェックは外れており、BOM監視サービスを再起動すると前回の監視時刻を無視して監視を即時実行します。監視サービス再起動によって監視間隔が変動することを防止したい場合には、チェックボックスにチェックを入れてください。</p>

設定項目	説明
"監視予定時刻を過ぎた場合に臨時実行する"チェックボックス	<p>"監視間隔を固定する"チェックボックスにチェックを入れた場合のみ利用できる機能で、チェックを入れることで監視サービス再起動などによって前回の監視から監視間隔以上を経過していた場合、臨時で監視を行います。</p> <p>既定ではチェックボックスのチェックは外れています。</p> <p>例えば、毎日10:00に監視するように設定した上で当日の10:00に監視サービスが起動していなかった場合、10:20に監視サービスを起動すると、チェックを入れた場合には、当日は10:20に臨時で監視を行い、翌日以降は10:00に監視します。</p> <p>チェックを外した場合には、当日は監視が行われず、翌日以降は10:00に監視します。</p>

C. しきい値

すべての監視項目で「しきい値」を設定する必要があります。しきい値に設定した条件に合致することで、監視ステータスが"注意"や"危険"に変化します。しきい値に設定した条件に合致しない場合には監視ステータスが"正常"になります。

しきい値の設定方法は監視項目の種類によって異なるため、各監視項目の説明を確認してください。

(2) VMware ストレージ空き容量監視

VMware ストレージ空き容量監視では、ESXホストまたは仮想マシンで使用しているストレージの空き容量を監視します。

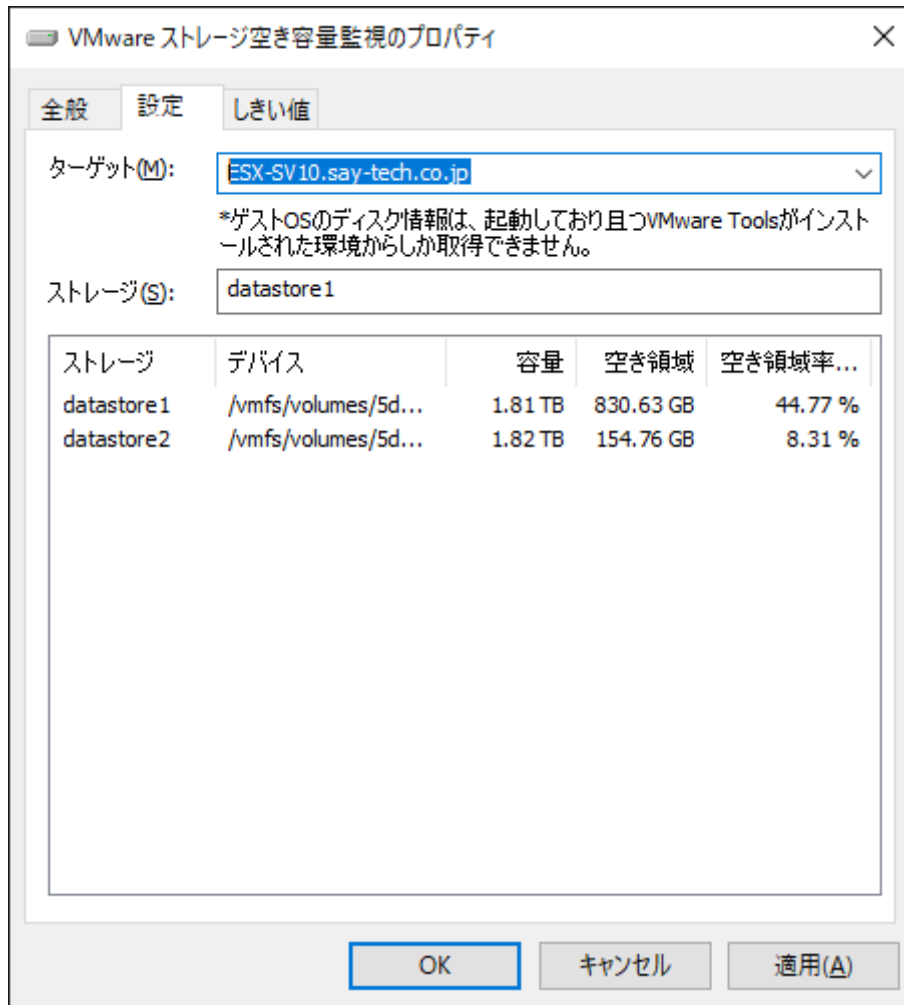
A. 「全般」タブ

「全般」タブの詳細については'監視項目の概要'の項目'[「全般」タブ](#)'を参照してください。

VMware ストレージ空き容量監視では、監視間隔の既定値が10分に指定されています。

B. 「設定」タブ

「設定」タブでは、監視を行うストレージを指定します。



- "ターゲット"欄

"ターゲット"欄では、監視を行うコンピューターを指定します。既定値としてESXホストが指定されており、プルダウンメニューにて、ESXホストおよび仮想マシンの一覧が表示されます。

なお、仮想マシンのストレージを監視するには、事前に仮想マシンへVMware Toolsを導入する必要があります。

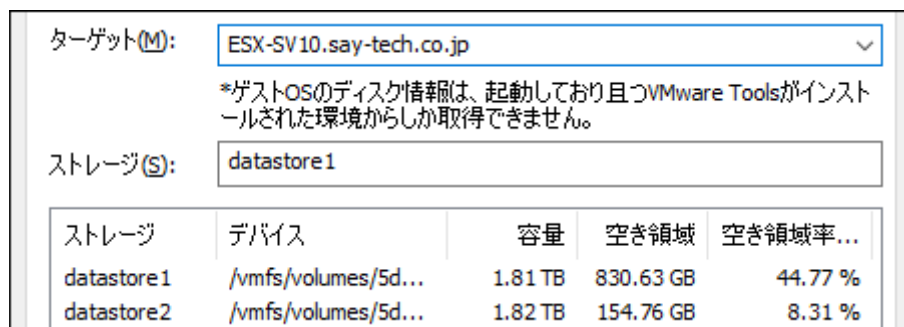
- "ストレージ"欄

"ストレージ"欄では、監視したいストレージ領域を選択します。

ストレージの指定方法は、"ターゲット"欄で選択したコンピューターのプラットフォームによって異なります。

- "ターゲット"がESXホストの場合

ESXホストに登録されているデータストアから選択します。



- "ターゲット"がWindowsコンピューターの場合

Windowsコンピューターに割り当てられているドライブから選択します。

ターゲット(M):

*ゲストOSのディスク情報は、起動しており且つVMware Toolsがインストールされた環境からしか取得できません。

ストレージ(S):

ドライブパス	容量	空き領域	空き領域率(%)
C:¥	80.00 GB	53.05 GB	66.31 %
D:¥	99.45 GB	98.57 GB	99.12 %

- "ターゲット"がLinuxコンピューターの場合

Linuxコンピューターに割り当てられているパーティションから選択します。

ターゲット(M):

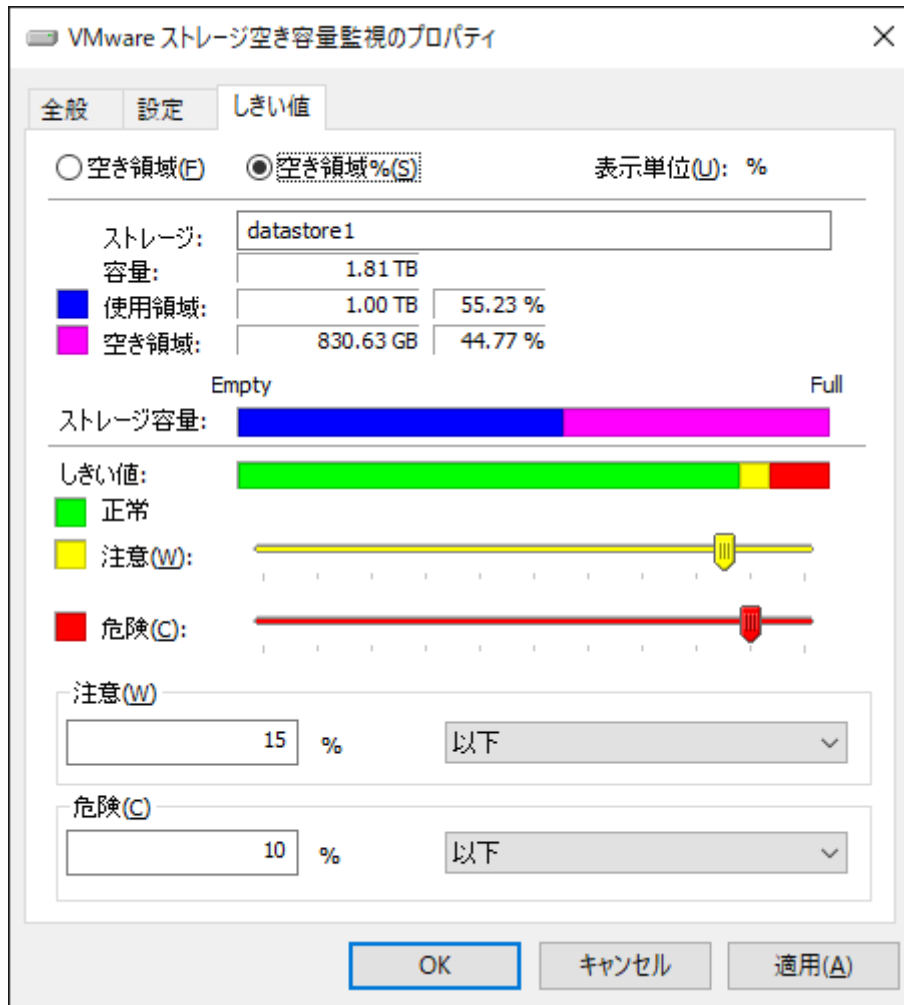
*ゲストOSのディスク情報は、起動しており且つVMware Toolsがインストールされた環境からしか取得できません。

ストレージ(S):

ドライブパス	容量	空き領域	空き領域率(%)
/	49.98 GB	44.79 GB	89.63 %
/boot	975.90 MB	776.29 MB	79.55 %
/home	46.90 GB	46.54 GB	99.22 %

C. 「しきい値」タブ

「しきい値」タブでは、監視項目のしきい値を指定します。



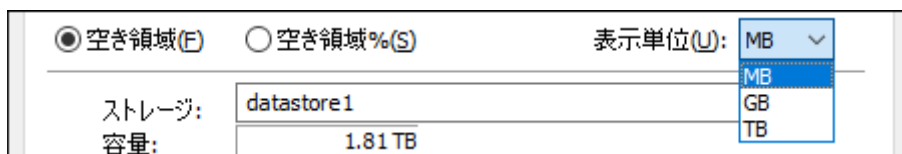
- 空き領域

空き領域では、空き領域の取得方法を選択します。既定では"空き領域%"ラジオボタンが選択されています。

- "空き領域"ラジオボタンを選択した場合には、空き領域をバイト単位で監視します。
- "空き領域%"ラジオボタンを選択した場合には、空き領域を全容量からの割合で監視します。

- 表示単位

示単位は、しきい値を指定する際の単位です。"空き領域%"ラジオボタンを選択した場合には、表示単位は"%"固定です。"空き領域"ラジオボタンを選択した場合には、"MB"、"GB"、または"TB"から選択できます。



- ストレージ容量

ストレージ容量では、選択したストレージの"ストレージ" (名称)、"容量" (全容量)、"使用領域"、"空き領域"を確認できます。

- しきい値

しきい値では、"注意"および"危険"のしきい値条件を指定します。

既定では"注意"しきい値が15 % 以下、"危険"しきい値が10 %以下に設定されています。

- "注意"しきい値

全容量よりも小さい0以上の整数を指定します。容量はスライドバーで指定することもできます。また、"注意"しきい値の条件指定は、"より小さい"、"以下"から選択できます。

- "危険"しきい値

"注意"しきい値と同様に設定できます。それに加え、条件指定では"注意"しきい値の条件を連続して満たすことを条件にする"連続したN回目の注意から"を選択できます。

"連続したN回目の注意から"を使用する場合には、入力欄には1から99までの整数を入力できます。

(3) VMware ステータス監視

VMware ステータス監視では、ESXホストまたは仮想マシンの実行ステータスを監視します。

A. 「全般」タブ

「全般」タブの詳細については'監視項目の概要'の項目'[「全般」タブ](#)'を参照してください。

VMwareステータス監視では、監視間隔の既定値は1分に指定されています。

B. 「設定」タブ

「設定」タブでは、実行ステータスを指定します。

VMware ステータス監視のプロパティ

全般 設定

ターゲット(M): ESX-SV10.say-tech.co.jp

ステータス: メンテナンスモード

現在のステータス: normal

注意(W)

ターゲットのステータスが以下のいずれかである場合

ステータス

normal

in maintenance

危険(C)

ターゲットのステータスが以下のいずれかである場合

ステータス

normal

in maintenance

OK キャンセル 適用(A)

- "ターゲット"欄

"ターゲット"欄では、監視を行うコンピューターを指定します。

既定値としてESXホストが指定されており、プルダウンメニューにてESXホストおよび仮想マシンの一覧が表示されます。

- "ステータス"欄

"ステータス"欄には、監視を行うステータスモードが表示されます。

"ターゲット"欄にてESXホストを選択した場合には"メンテナンスモード"、仮想マシンを選択した場合には"パワーステータス"と表示されます。

- "現在のステータス"欄

"現在のステータス"欄には、ターゲットの現在のステータスが表示されます。

- "ターゲット"欄でESXホストを選択した場合

メンテナンスモードの実行ステータスを確認できます。

ターゲット(M):	ESX-SV10.say-tech.co.jp
ステータス:	メンテナンスモード
現在のステータス:	normal

- "ターゲット"欄で仮想マシンを選択した場合
仮想マシンの電源ステータスを確認できます。

ターゲット(M):	ESX3RHEL7.6
ステータス:	パワーステータス
現在のステータス:	poweredOn

- しきい値

しきい値では、"注意"および"危険"のしきい値条件を指定します。

既定では、"危険"しきい値の"in maintenance"のみチェックが入っています。また、"ターゲット"欄でターゲットをESXホストから仮想マシンへ変更した場合と、仮想マシンからESXホストへ変更した場合には、すべてのチェックボックスのチェックが外れます。

しきい値に表示される一覧は、ターゲットでESXホストを選択した場合と仮想マシンを選択した場合で異なります。

- "ターゲット"欄でESXホストを選択した場合

メンテナンスモードの実行ステータス一覧から監視したいステータスのチェックボックスにチェックを入れます。

<p>危険(C)</p> <p>ターゲットのステータスが以下のいずれかである場合</p> <p>ステータス</p> <p><input type="checkbox"/> normal</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> in maintenance</p>

- "ターゲット"欄で仮想マシンを選択した場合

電源ステータス一覧から監視したいステータスのチェックボックスにチェックを入れます。

<p>危険(C)</p> <p>ターゲットのステータスが以下のいずれかである場合</p> <p>ステータス</p> <p><input type="checkbox"/> poweredOff</p> <p><input type="checkbox"/> poweredOn</p> <p><input type="checkbox"/> suspended</p>

(4) VMware 仮想マシン数監視

VMware 仮想マシン数監視では、ESXホスト上に存在する仮想マシンの数を監視します。

A. 「全般」タブ

「全般」タブの詳細については'監視項目の概要'の項目'[「全般」タブ](#)'を参照してください。

VMware 仮想マシン数監視では、監視間隔の既定値は1分に指定されています。

B. 「設定」タブ

「設定」タブでは、カウントする仮想マシンの種類を指定します。

VMware 仮想マシン数監視のプロパティ

全般 設定

電源ステータス指定

パワーオン(N) パワーオフ(E) サスペンド(S)

現在の値の取得(V) 個

注意(W)

個

危険(C)

個

OK キャンセル 適用(A)

- 電源ステータス指定

電源ステータス指定には、「パワーオン」、「パワーオフ」および「サスペンド」の3つのチェックボックスがあり、既定では「パワーオン」チェックボックスのみチェックが入っています。

チェック状態	動作
"パワーオン"チェックボックスにチェックが入っている	電源が入っている仮想マシンの数をカウントします。
"パワーオフ"チェックボックスにチェックが入っている	電源が入っていない仮想マシンの数をカウントします。
"サスペンド"チェックボックスにチェックが入っている	サスペンド状態にある仮想マシンの数をカウントします。
複数のチェックボックスにチェックが入っている	それぞれの状態の仮想マシン数を合算して表示します。

- [現在の値の取得]ボタン

[現在の値の取得]ボタンをクリックした場合、パワーステータス指定でチェックを入れたステータスを条件として、クリック時点で条件に合致する仮想マシンの件数をカウントします。

- しきい値

しきい値では、"注意"および"危険"のしきい値条件を指定します。

既定では"注意"しきい値、"危険"しきい値ともに0個以上に設定されています。

- "注意"しきい値

数値は0から999999999までの整数を入力でき、条件指定は"と等しい"、"と等しくない"、"より大きい"、"以上"、"より小さい"、または"以下"から選択できます。

- "危険"しきい値

"注意"しきい値と同様に設定できます。それに加え、条件指定では"注意"しきい値の条件を連続して満たすことを条件にする"連続したN回目の注意から"を選択できます。

"連続したN回目の注意から"を使用する場合には、入力欄には1から99までの整数を入力できます。

(5) VMware パフォーマンスカウンター監視

VMware パフォーマンスカウンター監視では、ESXホストまたは仮想マシンのパフォーマンスを監視します。

A. 「全般」タブ

「全般」タブの詳細については'監視項目の概要'の項目'[「全般」タブ](#)'を参照してください。

VMware パフォーマンスカウンター監視では、監視間隔の既定値は1分に指定されています。

B. 「設定」タブ

「設定」タブでは、監視を行うパフォーマンスカウンターを指定します。

VMware パフォーマンスカウンター監視のプロパティ

全般 設定 しきい値

ターゲット(M): ESX-SV10.say-tech.co.jp

グループ(G): CPU

カウンター(C): アイドル

ロールアップタイプ(R): summation

CPU がアイドル状態であった合計時間

集計に利用する関数(F): (None)

インスタンス(I):

表示スケール(D): 1 / 1 表示単位(U): %

現在値の取得(V) %

すべてのパフォーマンスカウンターを表示する(P)

OK キャンセル 適用(A)

- "ターゲット"欄

"ターゲット"欄では、監視を行うコンピューターを指定します。

既定値としてESXホストが指定されており、プルダウンでESXホストおよび仮想マシンを一覧から選択できます。

- "グループ"欄

"グループ"欄では、取得したいパフォーマンスカウンターの分類であるグループを指定します。

プルダウンメニューにてグループの一覧が表示されます。

グループ(G): CPU

カウンター(C):

ロールアップタイプ(R):

CPU がアイドル状態である

集計に利用する関数(F):

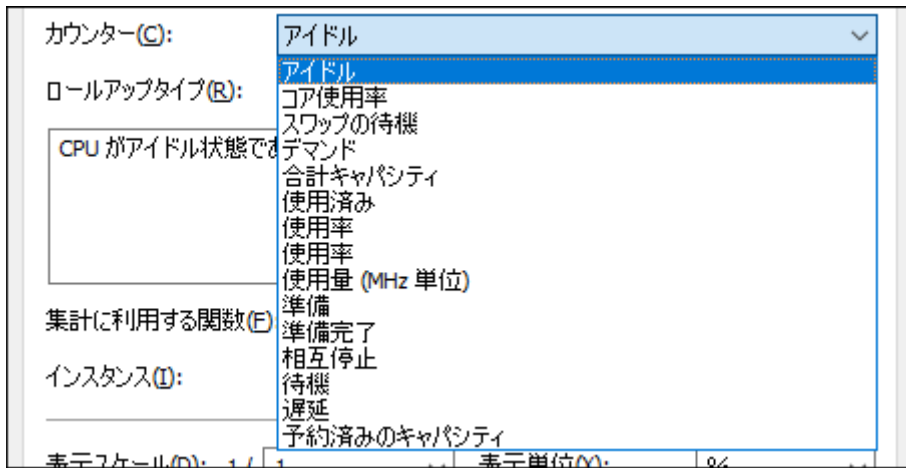
CPU
vSphere Replication
システム
ストレージ アダプタ
ストレージ パス
ディスク
データストア
ネットワーク
メモリ
仮想フラッシュ
電源

- "カウンター"欄

"カウンター"欄では、取得したいパフォーマンスカウンターを指定します。

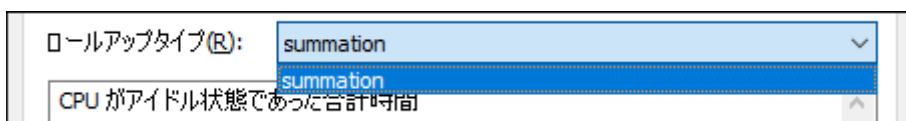
プルダウンメニューにてパフォーマンスカウンターの一覧が表示されます。

- 表示されるパフォーマンスカウンターは、"グループ"欄で選択した項目によって異なります。



- "ロールアップタイプ"欄

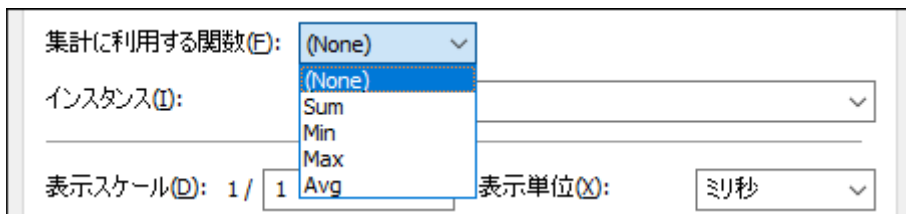
"ロールアップタイプ"欄では、パフォーマンスカウンターに設定されているロールアップの種類を指定します。通常は、該当のパフォーマンスカウンターで情報の取得が可能なロールアップが自動設定されます。



- "集計に利用する関数"欄

"集計に利用する関数"欄では、複数インスタンスのパフォーマンスカウンターのデータを、集計関数を使用して算出できます。既定では"(None)"が選択されています。

プルダウンメニューで集計関数の一覧が表示され、"Sum"、"Min"、"Max"、または"Avg"から選択できます。"(None)"は集計関数を使用しないことを示しています。



- 集計関数"Sum"は、全インスタンスの値を加算した値を監視結果として出力します。
- 集計関数"Min"は、全インスタンスの値の中で一番小さい値を監視結果として出力します。
- 集計関数"Max"は、全インスタンスの値の中で一番大きい値を監視結果として出力します。
- 集計関数"Avg"は、全インスタンスの値の平均値を監視結果として出力します。

例えば、複数のCPUを搭載している場合に、"CPU"の"コア使用率"にて、集計関数"Max"を使用した場合、搭載されているすべてのCPUの中で一番使用率の高い値を監視結果として出力します。

- "インスタンス"欄

"インスタンス"欄では、監視を行うインスタンスを指定します。

表示されるインスタンスは、"グループ"や"カウンター"欄で選択した項目によって異なります。

- インスタンス"Total"は、該当カウンターの値について、"ターゲット"がESXホストの場合にはESXホスト自身が保持している全リソースから、"ターゲット"が仮想マシンの場合には仮想マシンに割り当てたリソースの総量から算出します。例えば、"ターゲット"にてESXホストを選択した場合、グループ"メモリ"、カウンター"使用量"のカウンターは、ESXホストに搭載されている全メモリ容量から、割り当てられているリソースの使用量を取得します。
- "ターゲット"にて仮想マシンを選択した場合、グループ"メモリ"、カウンター"使用量"のカウンターは、仮想マシンに割り当てられたメモリの総量から、仮想マシンでの実際の使用量を取得します。

- "表示スケール"欄

"表示スケール"欄では、パフォーマンスカウンターの監視結果に対するスケールを指定します。

パフォーマンスカウンターの監視結果は、小数点以下を切り捨てて報告されます。監視するパフォーマンスカウンターの値が小さい場合には、スケールを指定することによって監視結果の小数点以下の値を取得できます。

- "表示単位"欄

"表示単位"欄では、監視結果の単位を指定します。既定値は監視するパフォーマンスカウンターによって異なります。

- [現在の値の取得]ボタン

クリックすると、指定されたパフォーマンスカウンターの現在の値を臨時取得し、結果を表示します。

- 「しきい値」タブの"N回平均値を使用する"チェックボックスにチェックが入っている場合でも、[現在の値の取得]ボタンは現在の値のみを表示します。

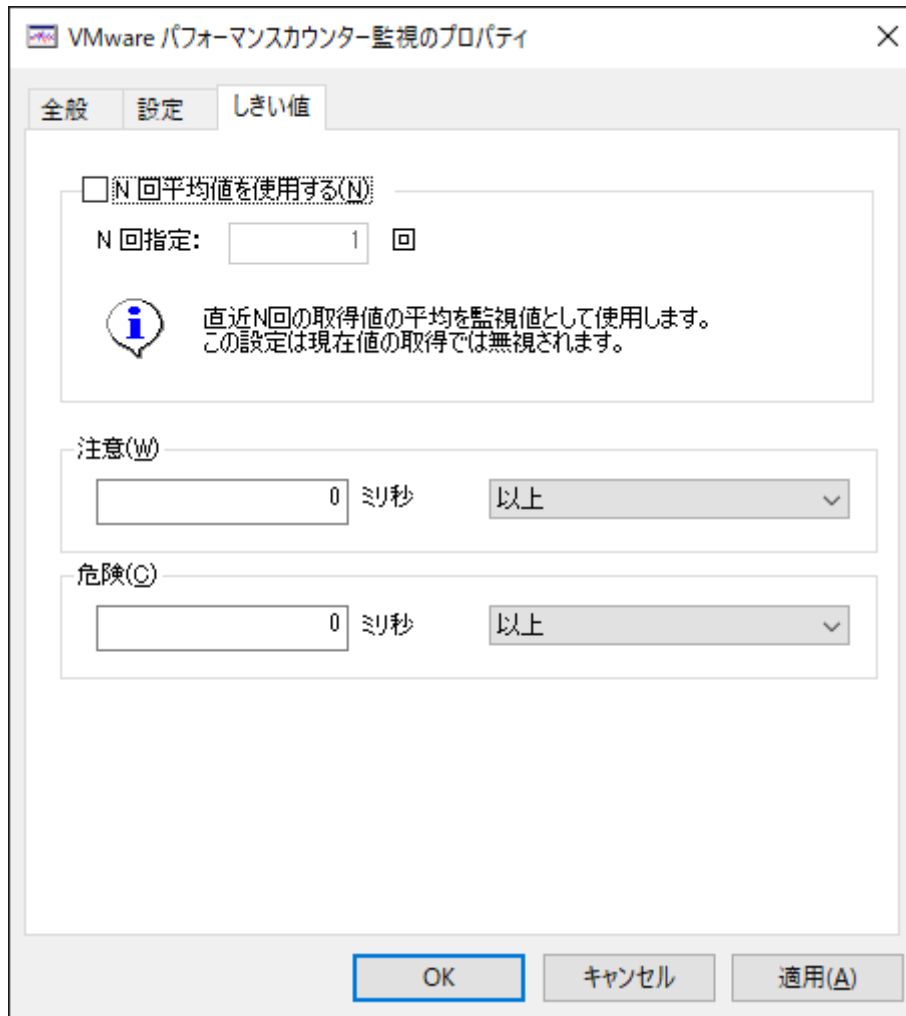
- "すべてのパフォーマンスカウンターを表示する"チェックボックス

VMware パフォーマンスカウンター監視では、重複している、値が取れないなどで、実質的に機能しない一部のパフォーマンスカウンターについては、あらかじめフィルタリングを行っているためカウンターの一覧には表示されませんが、"すべてのパフォーマンスカウンターを表示する"チェックボックスにチェックを入れると、すべてのカウンターおよびロールアップタイプを表示します。

既定ではチェックボックスにはチェックが入っていません。

C. 「しきい値」タブ

「しきい値」タブでは、監視項目のしきい値を指定します。



- "N回平均値を使用する"チェックボックス

"N回平均値を使用する"チェックボックスでは、パフォーマンスカウンターの監視結果を複数の監視間隔で平均を算出する機能を提供します。既定ではチェックボックスのチェックは外れていますが、"N回平均値を使用する"チェックボックスにチェックを入れると"N回指定"欄が入力できるようになります。

"N回指定"欄には1から99までの整数を入力できます。

- "N回指定"欄に2以上の値を指定すると、パフォーマンスカウンターの値を取得した後、過去N回分の値との平均値を算出し、監視結果として出力します。
- BOM監視サービス開始後、N回に達するまでは平均値が存在しないため、監視結果は(N/A)になります。

- しきい値

しきい値では、"注意"および"危険"のしきい値条件を指定します。

既定では"注意"しきい値、"危険"しきい値ともに0（表示単位）以上に設定されています。

- "注意"しきい値

数値は0から999999999までの整数を入力でき、条件指定では"と等しい"、"と等しくない"、"より大きい"、"以上"、"より小さい"、または"以下"から選択できます。

- "危険"しきい値

"注意"しきい値と同様に設定できます。それに加え、条件指定では"注意"しきい値の条件を連続して満たすことを条件にする"連続したN回目の注意から"を選択できます。

"連続したN回目の注意から"を使用する場合には、入力欄には1から99までの整数を入力できます。

(6) VMware イベント監視

VMware イベント監視では、ESXホストまたはVMware vCenter Serverが出力するイベントログのメッセージを監視します。

また、検出したログは"EventLog(接続先名称)"で閲覧することができます。ログの閲覧手順は'[収集されたログの閲覧](#)'を参照してください。

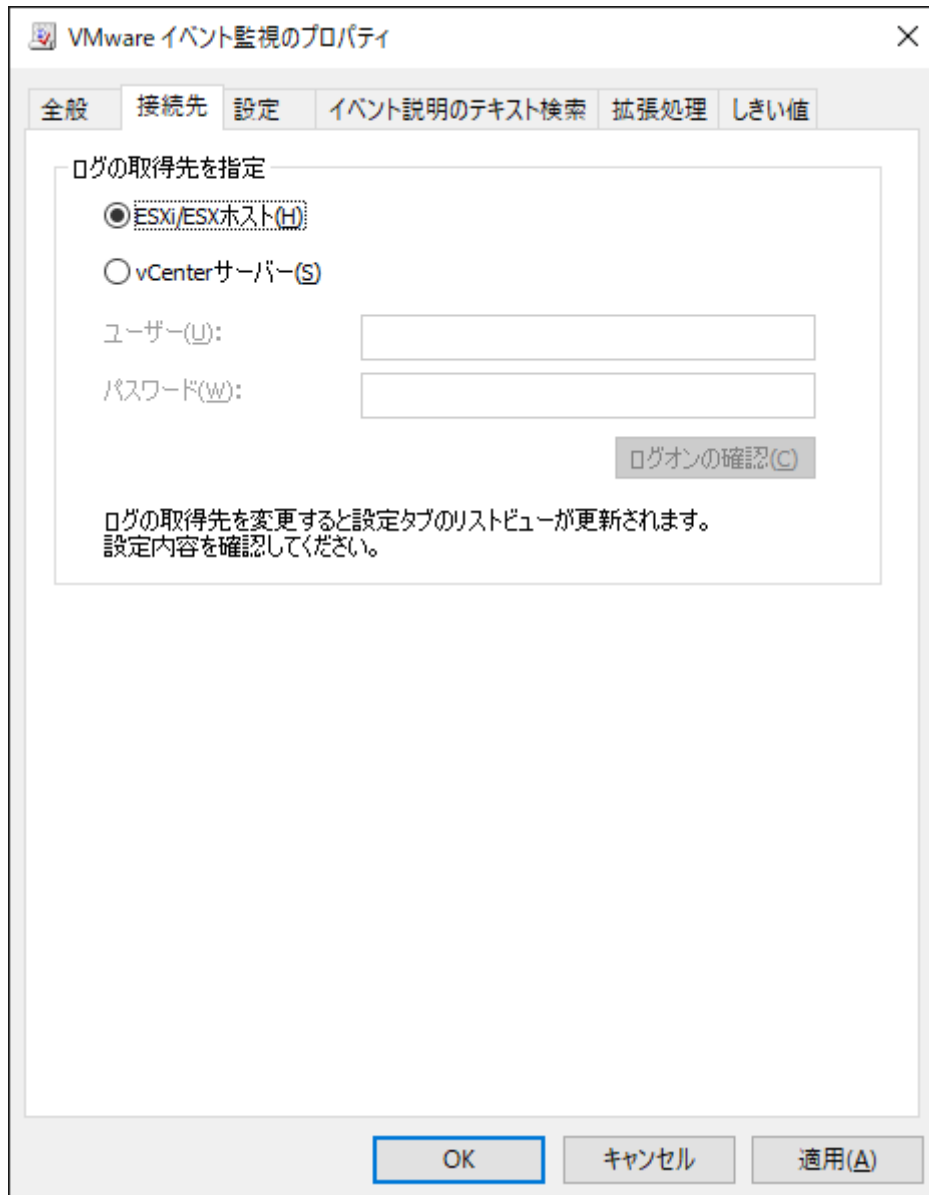
A. 「全般」タブ

「全般」タブの詳細については'監視項目の概要'の項目'[「全般」タブ](#)'を参照してください。

VMware イベント監視では、監視間隔の既定値は5分に指定されています。

B. 「接続先」タブ

「接続先」タブでは、イベントログを取得するためのログサーバーを指定します。



- ログサーバーの指定

ログの取得先を指定では、初めにイベントログを取得するためのログサーバーを指定します。既定では"ESXi/ESXホスト"ラジオボタンが選択されています。

- "ESXi/ESXホスト"ラジオボタンを選択した場合

ESXホストに直接接続してイベントログを監視します。

- "vCenterサーバー"ラジオボタンを選択した場合

ESXホストを管理しているVMware vCenter Serverに接続し、イベントログを監視します。このオプションを使用する場合には、事前にVMware vCenter ServerにてESXホストを登録し、リンクを構成しておきます。

- VMware vCenter Serverアカウント

"vCenterサーバー"ラジオボタンを選択した場合には、"ユーザー"欄および"パスワード"欄を入力する必要があります。

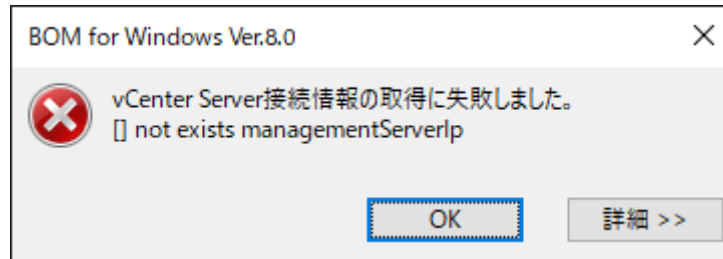
- VMware vCenter Serverに接続するためのユーザー名およびパスワードを入力します。
- 指定するアカウントは、VMware vCenter Serverに対する読み取り権限が必要です。

- [ログオンの確認]ボタン

[ログオンの確認]ボタンにて、"ユーザー"欄および"パスワード"欄に入力した値で接続できるか否かを確認できます。

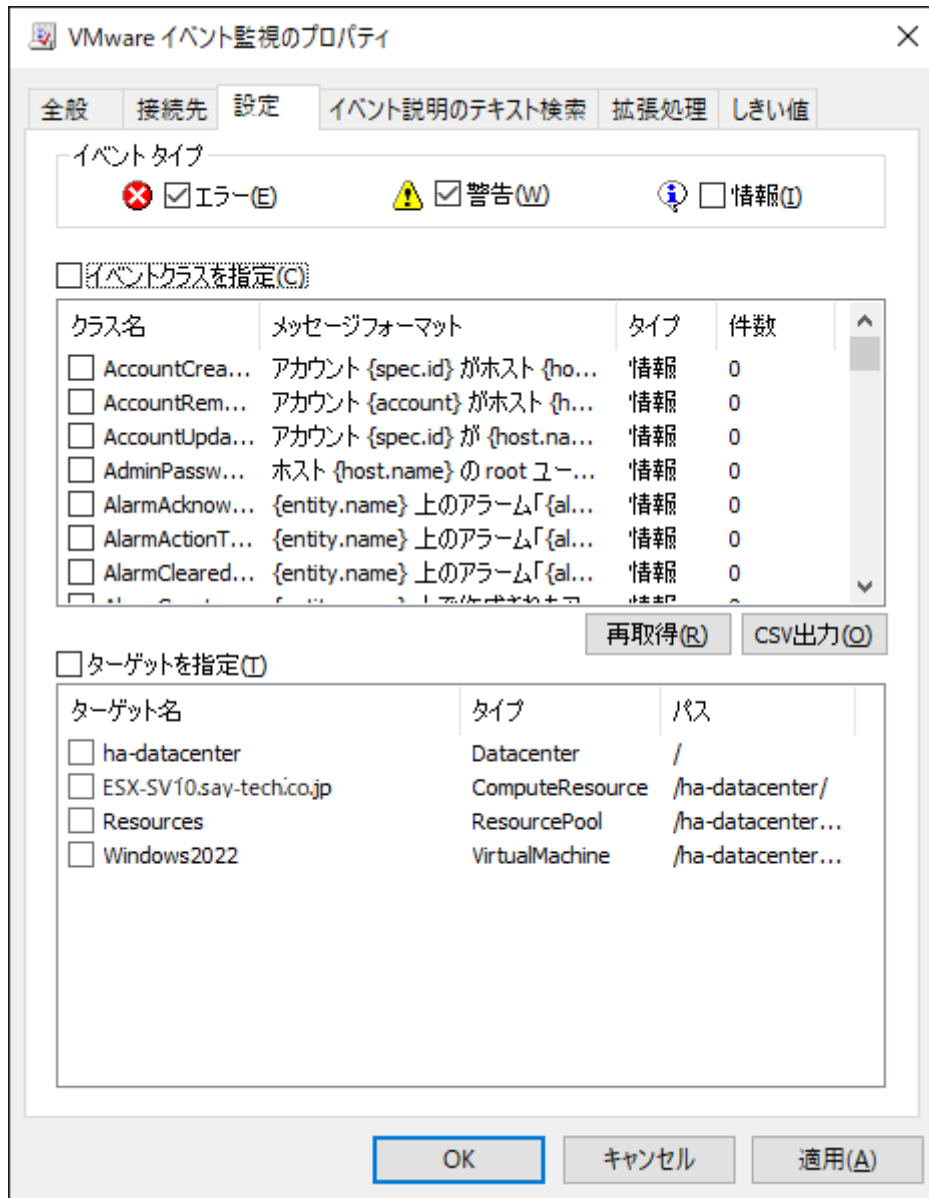
結果に応じて成功または失敗のメッセージを表示します。

- 成功時の表示メッセージ：「ログオンに成功しました。」
- 失敗時の表示例：以下のようなエラーを表示します。



C. 「設定」タブ

「設定」タブでは、監視を行うイベントログメッセージの種類を指定します。



- イベントタイプ

イベントタイプでは、監視を行うイベントタイプを指定します。

イベントタイプには"エラー"、"警告"および"情報"の3つのチェックボックスがあり、既定では"エラー"および"警告"チェックボックスがチェックされています。

監視したいイベントタイプにチェックを入れ、監視不要なイベントタイプからはチェックを外してください。また、すべてのチェックボックスのチェックが外れている場合には、すべてのイベントタイプを監視します。

- "イベントクラスを指定"チェックボックス

"イベントクラスを指定"チェックボックスは、イベントクラスごとに監視の有無を設定したい場合に指定します。既定ではチェックボックスのチェックは外れています。

チェックボックスにチェックが入っている状態では、イベントクラスのチェックボックスにチェックが入っているものだけを監視します。また、チェックボックスのチェックが外れている状態では、すべてのイベントクラスを監視します。

"イベントクラスを指定"チェックボックスは、直接チェックボックスを操作した時と、イベントクラスのチェックボックスと連動する時の2種類の挙動があります。

"イベントクラスを指定"チェックボックスを直接操作した時

リスト表示されたイベントクラスのチェックボックスを一括操作します。

- "イベントクラスを指定"チェックボックスにチェックを入れると、すべてのイベントクラスのチェックボックスにチェックが入ります。
- "イベントクラスを指定"チェックボックスのチェックを外すと、すべてのイベントクラスのチェックボックスからチェックが外れます。

イベントクラスリストのチェックボックスと連動する時

リスト表示されたイベントクラスのチェックボックスにチェックを入れると、"イベントクラスを指定"チェックボックスが連動します。

- イベントクラスのチェックボックスに1つでもチェックを入れると、自動的に"イベントクラスを指定"チェックボックスにチェックが入ります。

※ すべてのイベントクラスのチェックボックスからチェックを外しても、"イベントクラスを指定"チェックボックスのチェックは外れません。その状態では条件が存在しないため、一切のメッセージが検出されなくなります。

• イベントクラス

イベントクラスのチェックボックスにて、監視したいイベントクラスを指定します。

- このチェックボックスは、"イベントクラスを指定"チェックボックスのチェックが入っている場合のみ動作します。
 - イベントクラスのチェックボックスにチェックが入っている状態では、そのイベントクラスを監視します。
 - イベントクラスのチェックボックスのチェックが外れている状態では、そのイベントクラスは監視しません。

- イベントクラスのチェックボックスにチェックを入れることで、連動して"イベントクラスを指定"チェックボックスにもチェックが入ります。

また、すべてのイベントクラスのチェックボックスからチェックを外しても"イベントクラスを指定"チェックボックスのチェックは外れません。その状態では条件が存在しないため、一切のメッセージが検出されなくなります。

※ イベントクラス指定時の注意事項

イベントクラス"EventEx"、"ExtendedEvent"といった一部のイベントは、イベントタイプやメッセージを自由に定義できるため、以下の挙動を示す可能性があります。

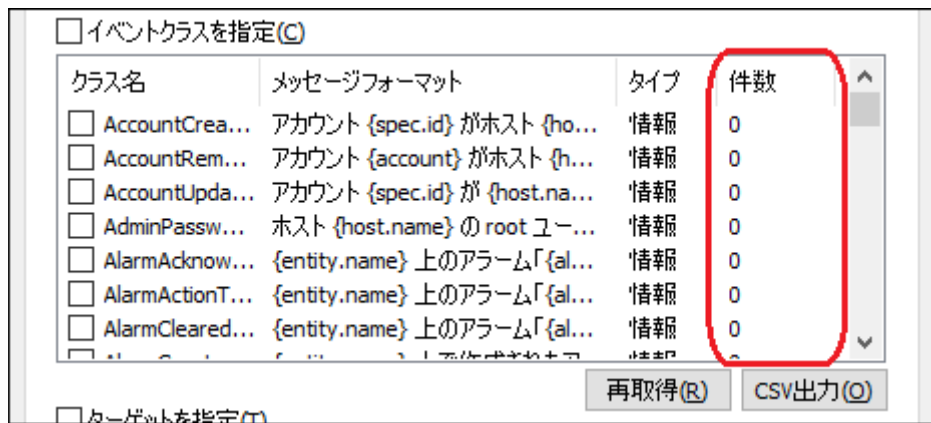
- メッセージフォーマットに表示される内容と、実際に出力されるメッセージが一致しない。
- タイプに表示される内容と、実際に出力されるタイプが一致しない。

事前に出力されるイベントタイプを確認し、出力されるイベントタイプを指定してください。

また、メッセージを指定して検出あるいは除外したい場合、「イベント説明のテキスト検索」タブにて、検索するメッセージを指定してください。

• [再取得]ボタン

[再取得]ボタンをクリックすると、イベントクラスのログをログサーバーから取得して件数を更新します。

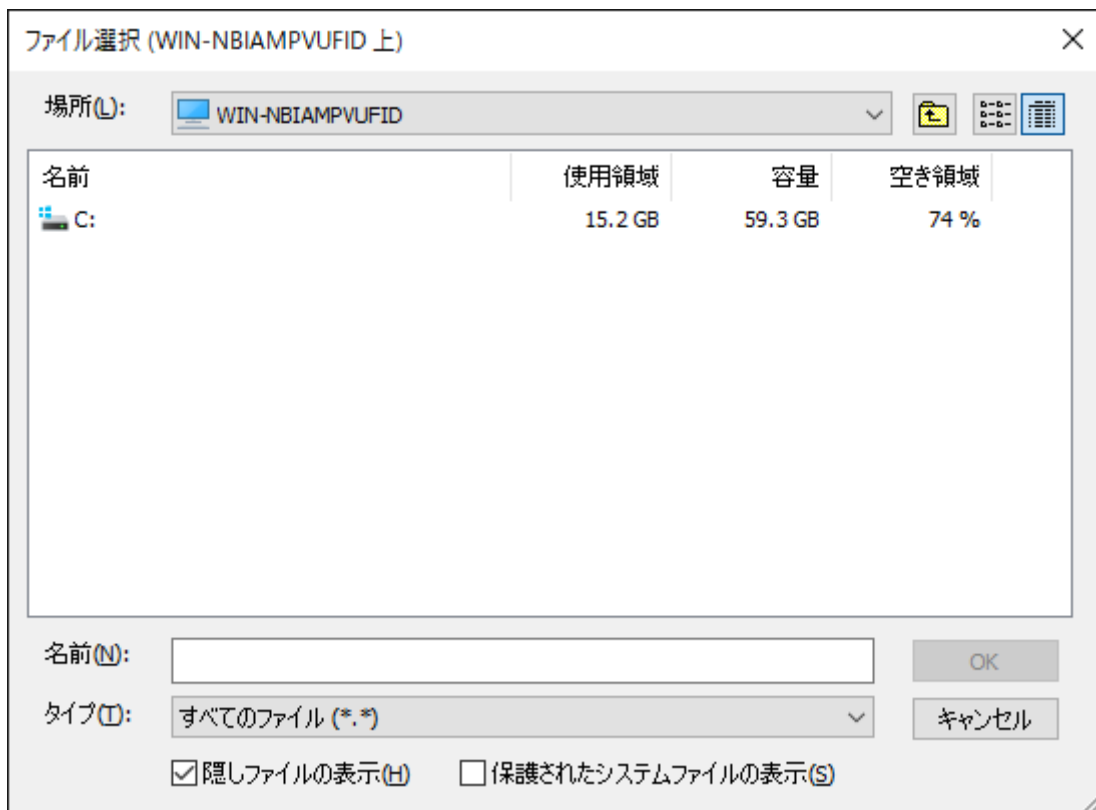


- [CSV出力]ボタン

[CSV出力]ボタンをクリックすると、イベントクラスの一覧をCSVファイルとして出力できます。

- "イベントクラスを指定"チェックボックスにチェックを入れた際は、イベントクラスのチェックボックスを使用して個別のイベントを監視するか否かを選択しますが、メッセージ件数が多いことにより設定画面だけでは不便な場合があります。その場合、メッセージ全体をCSVファイルとして出力し、Microsoft Excelなどに取り込むことで、監視したいメッセージを確認できます。

1. [CSV出力]ボタンをクリックすると、CSVファイルの保存ダイアログが表示されます。



2. ファイルの格納フォルダー先を指定して、任意のファイル名を入力します。

3. [OK]ボタンをクリックし、CSVファイルを保存します。この際、出力されるCSVファイルは以下の形式で保存されます。

- 1行目：CSVヘッダーがカンマ区切りで出力されます。
- 2行目以降：イベントクラス名、イベントの種類、イベントのメッセージの順に、カンマ区切りで出力されます。

【CSVファイル出力例（一部抜粋）】

クラス名,タイプ,メッセージフォーマット
AccountCreatedEvent,情報,アカウントがホスト {host.name} に作成されました
AccountRemovedEvent,情報,アカウント {account} がホスト {host.name} から削除されました
AccountUpdatedEvent,情報,アカウントがホスト {host.name} で更新されました
AdminPasswordNotChangedEvent,情報,ホスト {host.name} のルート ユーザーのデフォルト パスワードが変更されていません

なお、上記の出力例は以下のテーブルと同じ意味を示します。

クラス名	タイプ	メッセージフォーマット
AccountCreatedEvent	情報	アカウントがホスト {host.name} に作成されました
AccountRemovedEvent	情報	アカウント {account} がホスト {host.name} から削除されました
AccountUpdatedEvent	情報	アカウントがホスト {host.name} で更新されました
AdminPasswordNotChangedEvent	情報	ホスト {host.name} のルート ユーザーのデフォルトパスワードが変更されていません

- "ターゲットを指定"チェックボックス

"ターゲットを指定"チェックボックスは、ターゲット（ESXホスト、仮想マシン、リソースプールなど）ごとに監視の有無を設定したい場合に指定します。

このチェックボックスにチェックが入っている状態ではターゲットのチェックボックスにチェックが入っているものだけを監視し、チェックが外れている状態ではすべてのターゲットを監視します。

既定ではチェックボックスのチェックは外れています。

"ターゲットを指定"チェックボックスは、直接チェックボックスを操作した時と、ターゲットのチェックボックスと連動する時の2種類の挙動があります。

"ターゲットを指定"チェックボックスを直接操作した時

ターゲットのチェックボックスを一括操作します。

- "ターゲットを指定"チェックボックスにチェックを入れると、すべてのターゲットのチェックボックスにチェックが入ります。
- "ターゲットを指定"チェックボックスのチェックを外すと、すべてのターゲットのチェックボックスからチェックが外れます。

ターゲットリストのチェックボックスと連動する時

リスト表示されたターゲットのチェックボックスにチェックを入れると、"ターゲットを指定"チェックボックスが連動します。

- リスト表示されたターゲットのチェックボックスに1つでもチェックを入れると、自動的に"ターゲットを指定"チェックボックスのチェックが入ります。

※ すべてのターゲットのチェックボックスからチェックを外しても、"ターゲットを指定"チェックボックスのチェックは外れません。その状態では条件が存在しないため、一切のメッセージが検出されなくなります。

- ターゲット

ターゲット（ESXホスト、仮想マシン、リソースプールなど）のチェックボックスにて、監視したいターゲットを指定します。

- ターゲットのチェックボックスは、"ターゲットを指定"チェックボックスのチェックが入っている場合のみ動作します。
 - ターゲットのチェックボックスにチェックを入れた場合には、そのターゲットを監視します。
 - ターゲットのチェックボックスのチェックが外れている場合には、そのターゲットは監視しません。
- ターゲットのチェックボックスにチェックを入れることで、連動して"ターゲットを指定"チェックボックスにもチェックが入ります。
- ターゲット名が同名の場合、重複するターゲット名はまとめてチェックされますが、本動作はVMware オプションの仕様です。本動作により問題が発生する場合には、ESXホスト上の名称の変更を検討してください。

D. 「イベント説明のテキスト検索」タブ

「イベント説明のテキスト検索」タブでは、監視を行うメッセージの条件となる文字列を指定します。

The screenshot shows the 'VMware イベント監視のプロパティ' dialog box with the 'イベント説明のテキスト検索' tab selected. The 'イベント説明のテキスト検索(E)' checkbox is checked. Under '通常検索(B)', the '通常検索(B)' radio button is selected. There are five '条件' (Condition) checkboxes, each with a text input field and a 'NOT' checkbox. Below these are three more radio buttons: '条件をOR検索する(いずれかの条件に合致するものが見つかるまで評価)(R)', '条件をAND検索する(すべての条件に合致するものが見つかるまで評価)(N)', and '大文字小文字を区別する(M)'. There is also a checkbox for '一致しないイベント説明の件数だけを数える(C)'. Below this is a section for '正規表現による検索(G)' with a text input field and a 'NOT' checkbox. At the bottom is a 'テスト用テキスト' section with a 'テキスト入力(X):' label, a text input field, and a 'テスト(S)...' button. The dialog has 'OK', 'キャンセル', and '適用(A)' buttons at the bottom.

- "イベント説明のテキスト検索"チェックボックス

"イベント説明のテキスト検索"チェックボックスは、ESXホストが出力するイベントログのメッセージから特定の文字列に合致することを条件として、BOM監視サービスの監視結果として検出したい場合に使用します。

既定ではチェックボックスのチェックは外れており、チェックを入れた場合は"通常検索"ラジオボタン、"正規表現による検索"ラジオボタンが有効になります。

- "通常検索"ラジオボタン

"通常検索"ラジオボタンでは、検出したいメッセージを通常の検索方法で指定する場合に選択します。

"イベント説明のテキスト検索"チェックボックスにチェックを入れた場合には、既定で選択されています。

- "条件"チェックボックス

通常検索を実行するための文字列を指定する場合は、"条件"チェックボックスにチェックを入れることで"検索テキスト"欄が入力できるようになります。

"条件"チェックボックスは"条件1"~"条件5"まであり、これらの数字以外はすべて同じように動作します。

- "検索テキスト"欄

"検索テキスト"欄には、検出したいメッセージを特定するための文字列を入力します。

- "NOT"チェックボックス ("通常検索"エリア)

"NOT"チェックボックスは、"検索テキスト"欄に入力した文字列を除外する場合に使用します。既定ではチェックボックスのチェックは外れています。

- **チェックボックスにチェックが入っている場合**

ESXホストが出力するイベントログのメッセージに"検索テキスト"欄に記載した文字列が含まれていない場合に、監視結果として検出します。

- **チェックボックスのチェックが外れている場合**

ESXホストが出力するイベントログのメッセージに"検索テキスト"欄に記載した文字列が含まれている場合に、監視結果として検出します。

- 論理式

検索方法として、"条件をOR検索する"ラジオボタン、"条件をAND検索する"ラジオボタンの2つの論理式から選択できます。既定では"条件をOR検索する"ラジオボタンが選択されています。

- "条件をOR検索する"ラジオボタンを選択した場合

"検索テキスト"欄に入力した文字列のうちいずれか1つが見つかった場合に、監視結果として検出します。

- "条件をAND検索する"ラジオボタンを選択した場合

"検索テキスト"欄に入力したすべての文字列が見つかった場合に、監視結果として検出します。

- "大文字小文字を区別する"チェックボックス

"大文字小文字を区別する"チェックボックスでは、英字の大文字小文字の判定を指定します。既定ではチェックボックスのチェックは外れています。

例えば"検索テキスト"欄に"error"と入力した場合、チェックボックスのチェックが外れている状態では"ERROR"を監視結果として検出しますが、チェックボックスにチェックが入っている状態では"ERROR"を監視結果として検出しません。

- "一致しないイベント説明の件数だけを数える"チェックボックス

"一致しないイベント説明の件数だけを数える"チェックボックスでは、通常検索における判定条件を反転できます。既定ではチェックボックスのチェックは外れています。

条件、論理式、大文字小文字の区別について設定された状態に対して、

- チェックボックスのチェックが外れている状態では、これらの設定に一致したものを監視結果として検出します。
- チェックボックスにチェックが入っている状態では、これらの設定に一致しないものを監視結果として検出します。

- "正規表現による検索"ラジオボタン

"正規表現による検索"ラジオボタンでは、検出したいメッセージを正規表現で指定する場合に選択します。

"正規表現による検索"ラジオボタンを選択すると正規表現の入力欄に文字列が入力できるようになり、正規表現による検索が行えます。

- "正規表現"入力欄

"正規表現による検索"ラジオボタンした場合に、検索用の正規表現文字列を入力します。

- 入力可能な文字列は1024文字までです。
- 正規表現の詳細については'[正規表現](#)'を参照してください。
なお、正規表現の構文に関してはサポート対象外です。

- "NOT"チェックボックス ("正規表現"エリア)

"NOT"チェックボックスは、正規表現による検索結果を反転できます。既定ではチェックボックスのチェックは外れています。

- **チェックボックスにチェックが入っている場合**

ESXホストが出力するイベントログのメッセージに、正規表現による検索結果が含まれていない場合に、監視結果として検出します。

- **チェックボックスのチェックが外れている場合**

ESXホストが出力するイベントログのメッセージに、正規表現による検索結果が含まれている場合に、監視結果として検出します。

- **テスト用テキスト**

"通常検索"ラジオボタンまたは"正規表現による検索"ラジオボタンにて設定した検索条件をテストできます。

"テキスト入力"欄に検出させたいメッセージを入力し、[テスト]ボタンをクリックすると、検索結果に応じて以下のメッセージを表示します。

- テキストが検出された時

「テストテキスト内に、検索テキストを発見しました。」

- テキストが検出されなかった時

「テストテキスト内に、検索テキストが見つかりませんでした。」

E. 「拡張処理」タブ

「拡張処理」タブでは、監視設定の補助機能を指定します。

The screenshot shows the 'VMware イベント監視のプロパティ' dialog box with the '拡張処理' (Advanced) tab selected. The '検出されたイベントログをファイルへエクスポート(E)' checkbox is checked. The file name field contains '\$(DetectedDataDir)¥\$(MonitorID).txt'. Below it, a note states that exported logs can be attached to emails. The '出力文字コード' (Output Character Code) section has 'UNICODE (Windows (UTF-16 little endian))(U)' selected, with a warning for Shift JIS. The 'ログを追記する(P)' checkbox is unchecked, with a note about overwriting and character encoding. The 'イベントログの監視範囲' (Event Log Monitoring Scope) section has '監視サービス停止中に記録されたイベントログをサービス再開後に監視する(N)' selected, with an unchecked option for initial monitoring and a warning about time consumption.

- "検出されたイベントログをファイルへエクスポート"チェックボックス
"検出されたイベントログをファイルへエクスポート"チェックボックスは、ESXホストが出力するイベントログのメッセージから、BOM監視サービスの監視結果として検出メッセージを抽出し、ファイルに出力する場合に指定します。このチェックボックスは主にメール送信時に検出メッセージを添付ファイルとして使用する場合に使用します。既定ではチェックボックスのチェックは外れており、チェックを入れた場合には、指定のエクスポートファイル"\$(DetectedDataDir)¥\$(MonitorID).txt"として保存されます。
 - "\$(DetectedDataDir)"や"\$(MonitorID)"は、BOM 8.0およびVMware オプションの予約済み変数です。予約済み変数の詳細については'[BOM 8.0の予約済み変数](#)'を参照してください。
- 出力文字コード
ファイルへ出力する際の文字コードを、UNICODE/Shift JISから指定できます。
 - Shift JISを選択した場合、文字化けが発生する場合があります。
- "ログを追記する"チェックボックス
"ログを追記する"チェックボックスでは、エクスポートファイル"\$(DetectedDataDir)¥\$(MonitorID).txt"への追記機能を提供します。

BOM監視サービスがメッセージを検知した際、"ログを追記する"チェックボックスのチェックが外れている場合は、エクスポートファイルへ上書き保存します。チェックボックスにチェックが入っている場合は、エクスポートファイルへ追記します。

チェックを入れた場合、別途削除処理を行わないとエクスポートファイルの容量が肥大化するため注意が必要です。

- イベントログの監視範囲

イベントログの監視範囲では、監視するイベントログの範囲を選択します。既定では"監視サービス停止中に記録されたイベントログをサービス再開後に監視する"ラジオボタンが選択されています。

- "監視サービス停止中に記録されたイベントログを監視から除外する"ラジオボタンを選択した場合には、BOM監視サービスが停止していた時に記録されたイベントログは監視せず、サービス起動中のイベントログのみを監視します。
- "監視サービス停止中に記録されたイベントログをサービス再開後に監視する"ラジオボタンを選択した場合には、BOM監視サービスが停止していた時に記録されたイベントログはサービス再開後に監視します。

- "初回監視時に過去に記録されたイベントログも監視する"チェックボックス

"初回監視時に過去に記録されたイベントログも監視する"チェックボックスは、初回監視時に過去に記録されたイベントログも監視する機能です。

チェックボックスにチェックが入っている状態では、監視項目作成直後の監視時に、いままでに記録されたすべてのイベントログを監視範囲に含めます。ログサーバーに記録されたイベントログの量によっては初回監視時に実行時間が掛かるため、注意が必要です。

F. 「しきい値」タブ

「しきい値」タブでは、監視項目のしきい値を指定します。

The screenshot shows the 'VMware イベント監視のプロパティ' dialog box with the 'しきい値' (Threshold) tab selected. The dialog has several tabs: '全般' (General), '接続先' (Destination), '設定' (Settings), 'イベント説明のテキスト検索' (Event description text search), '拡張処理' (Extension processing), and 'しきい値' (Threshold). Under the 'しきい値' tab, there are two sections: '注意(W)' (Warning) and '危険(C)' (Critical). Each section has a label 'イベントログの検出件数:' (Number of event logs detected:), a text input field, the unit '件' (items), and a dropdown menu for the condition. In the '注意(W)' section, the input field contains '1' and the dropdown is set to '以上' (Above). In the '危険(C)' section, the input field contains '1' and the dropdown is set to '以上' (Above). At the bottom of the dialog are three buttons: 'OK', 'キャンセル' (Cancel), and '適用(A)' (Apply).

- しきい値

しきい値では、「注意」および「危険」のしきい値条件を指定します。

既定では「注意」しきい値、「危険」しきい値ともに1件以上に設定されています。

- 「注意」しきい値

数値は、0から999までの整数を入力でき、条件指定は「より大きい」、「以上」、「より小さい」、または「以下」から選択できます。

条件指定で「より小さい」を選択した場合には、数値には0を入力することができません。

- 「危険」しきい値

「注意」しきい値と同様に設定できます。それに加え、条件指定では「注意」しきい値の条件を連続して満たすことを条件にする「連続したN回目の注意から」を選択できます。

「連続したN回目の注意から」を使用する場合には、入力欄には1から99までの整数を入力できます。

(7) VMware タスク監視

VMware タスク監視では、ESXホストまたはVMware vCenter Serverが出力するタスクログのメッセージを監視します。

また、検出したログは"TaskLog((接続先名称))"で閲覧することができます。ログの閲覧手順は'[収集されたログの閲覧](#)'を参照してください。

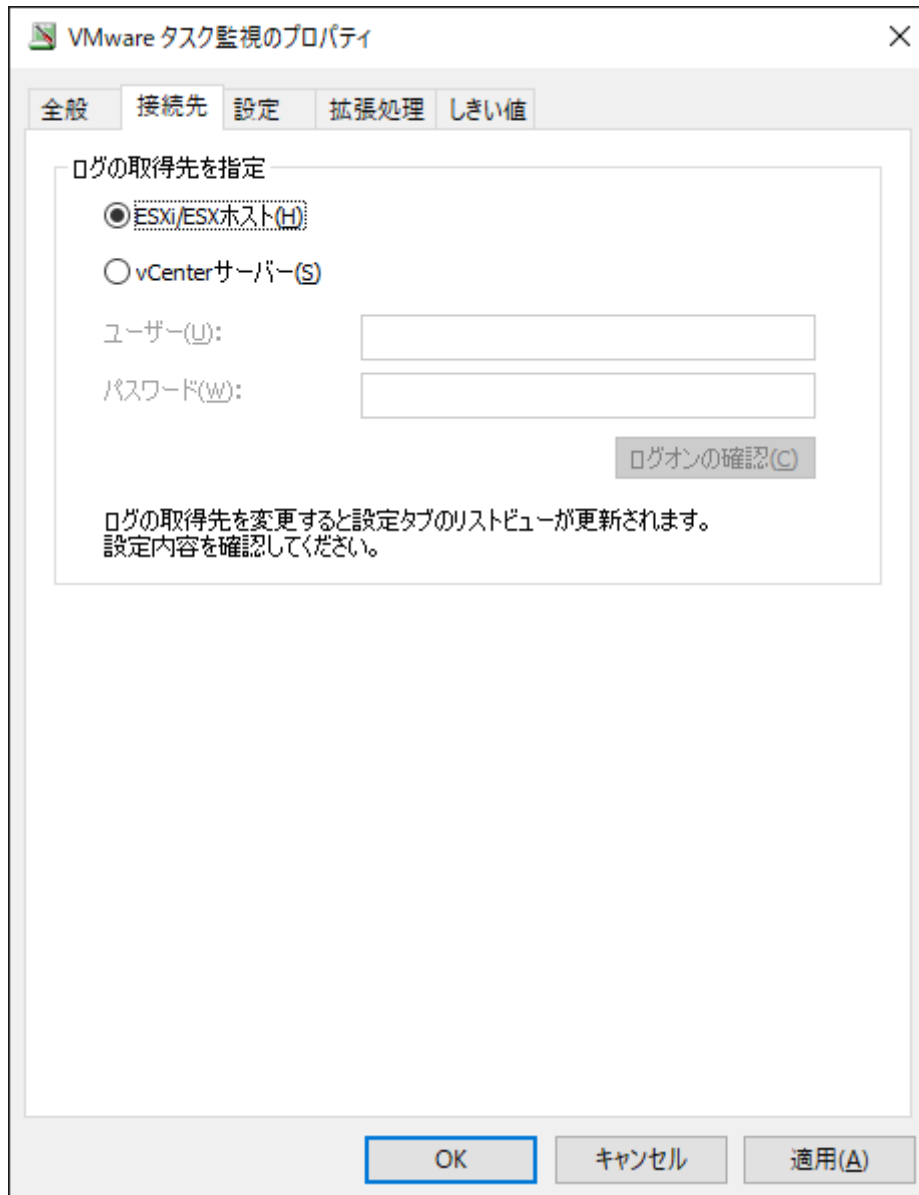
A. 「全般」タブ

「全般」タブの詳細については'監視項目の概要'の項目'[「全般」タブ](#)'を参照してください。

VMware タスク監視では、監視間隔の既定値は1分に指定されています。

B. 「接続先」タブ

「接続先」タブでは、イベントログを取得するためのログサーバーを指定します。



- ログサーバーの指定

ログの取得先を指定では、初めにイベントログを取得するためのログサーバーを指定します。既定では"ESXi/ESXホスト"ラジオボタンが選択されています。

- "ESXi/ESXホスト"ラジオボタンを選択した場合

ESXホストに直接接続してイベントログを監視します。

- "vCenterサーバー"ラジオボタンを選択した場合

ESXホストを管理しているVMware vCenter Serverに接続し、イベントログを監視します。このオプションを使用する場合には、事前にVMware vCenter ServerにてESXホストを登録し、リンクを構成しておきます。

- VMware vCenter Serverアカウント

"vCenterサーバー"ラジオボタンを選択した場合には、"ユーザー"欄および"パスワード"欄を入力する必要があります。

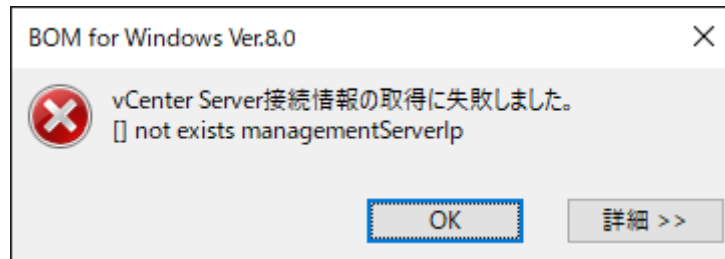
- VMware vCenter Serverに接続するためのユーザー名およびパスワードを入力します。
- 指定するアカウントは、VMware vCenter Serverに対する読み取り権限が必要です。

- [ログオンの確認]ボタン

[ログオンの確認]ボタンにて、"ユーザー"欄および"パスワード"欄に入力した値で接続できるか否かを確認できます。

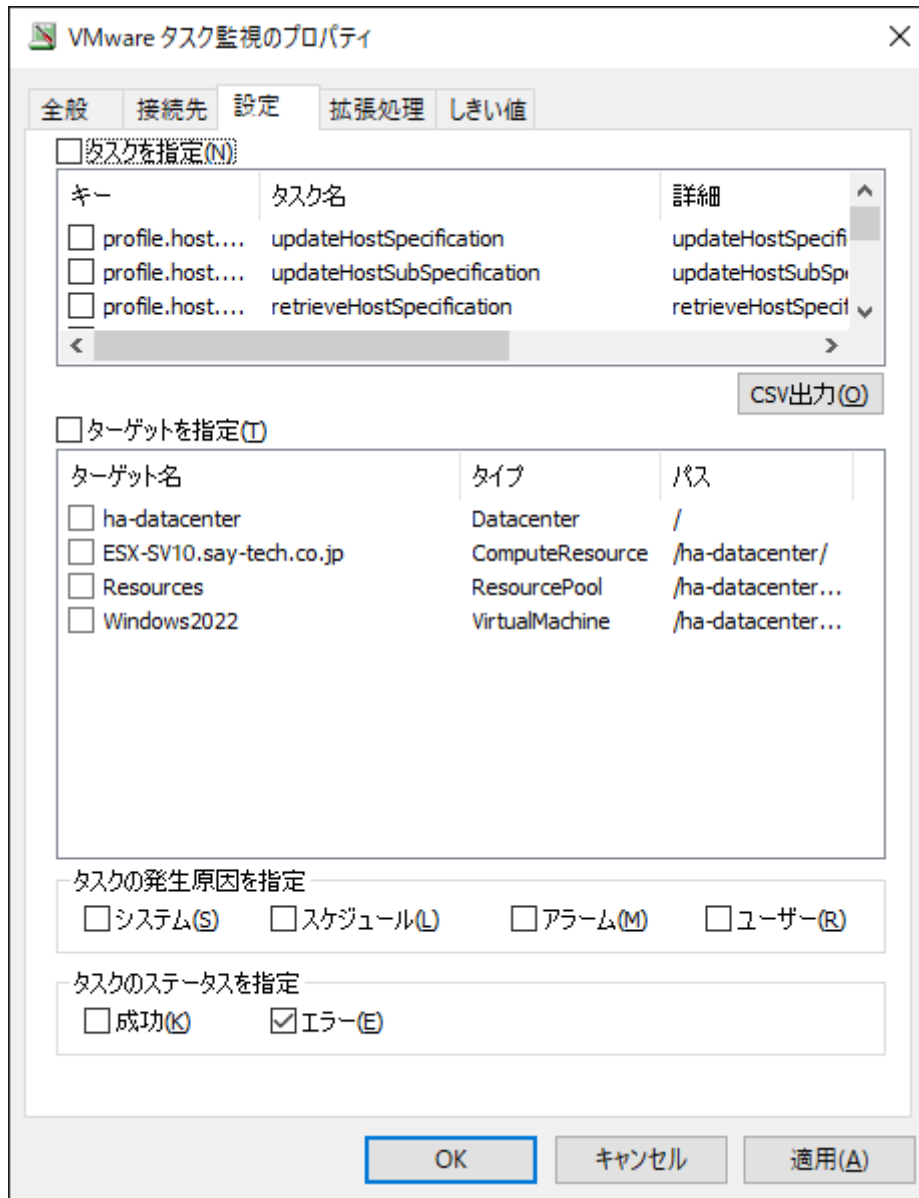
結果に応じて成功または失敗のメッセージを表示します。

- 成功時の表示メッセージ：「ログオンに成功しました。」
- 失敗時の表示例：以下のようなエラーを表示します。



C. 「設定」タブ

「設定」タブでは、監視を行うタスクログメッセージの種類を指定します。



- "タスクを指定"チェックボックス

"タスクを指定"チェックボックスでは、タスクごとに監視の有無を設定したい場合に指定します。既定でチェックボックスのチェックは外れており、この状態ではすべてのタスクを監視します。チェックが入っている状態では、タスクのチェックボックスにチェックが入っているものだけを監視します。

"タスクを指定"チェックボックスは、直接チェックボックスを操作した時と、タスクのチェックボックスと連動する時の2種類の挙動があります。

直接チェックボックスを操作した時

リスト表示されたタスクのチェックボックスを一括操作します。

- "タスクを指定"チェックボックスにチェックを入れると、すべてのタスクのチェックボックスにチェックが入ります。
- "タスクを指定"チェックボックスのチェックを外すと、すべてのタスクのチェックボックスからチェックが外れます。

タスクのチェックボックスと連動する時

リスト表示されたタスクのチェックボックスにチェックを入れると、"タスクを指定"チェックボックスが連動します。

- タスクのチェックボックスのうち、いずれか1つにチェックを入れると、自動的に"タスクを指定"チェックボックスのチェックが入ります。

※ すべてのタスクのチェックボックスからチェックを外しても、"タスクを指定"チェックボックスのチェックは外れません。その状態では条件が存在しないため、一切のメッセージが検出されなくなります。

• タスク

タスクのチェックボックスにて、監視したいタスクを指定します。

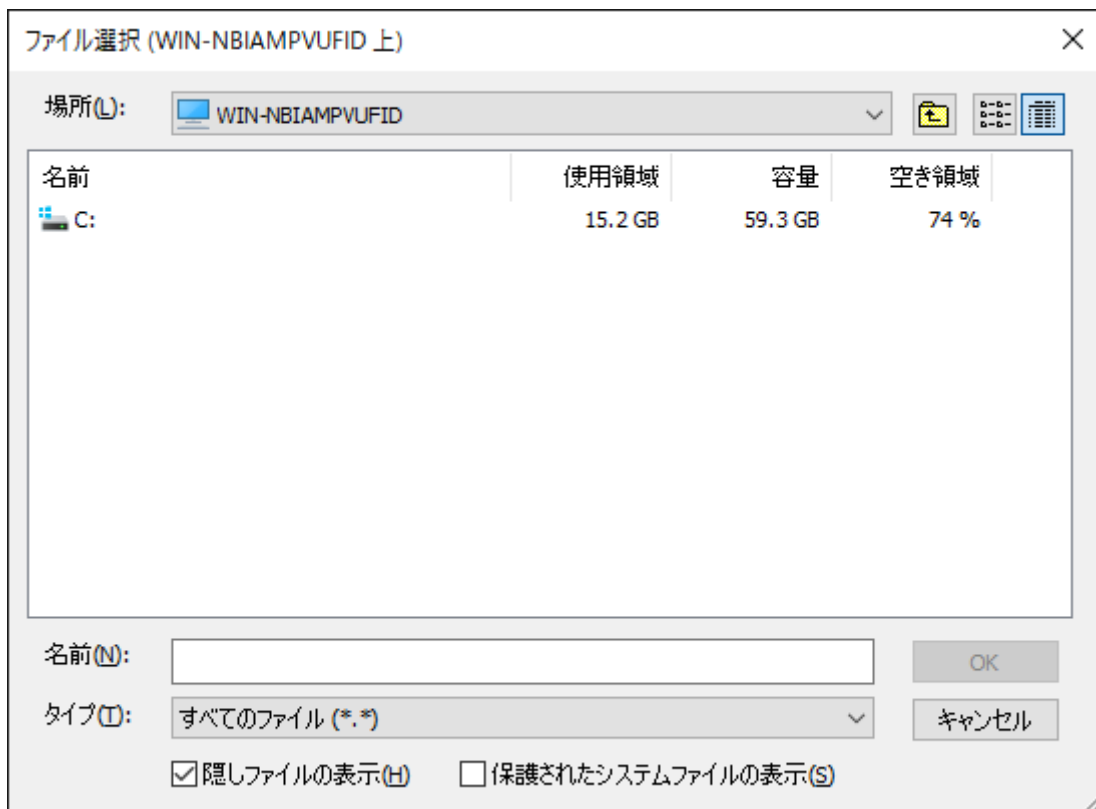
- このチェックボックスは、"タスクを指定"チェックボックスのチェックが入っている場合のみ動作します。
 - タスクのチェックボックスにチェックが入っている状態では、そのタスクを監視します。
 - タスクのチェックボックスにチェックが外れている状態では、そのタスクを監視しません。
- タスクのチェックボックスにチェックを入れることで、連動して"タスクを指定"チェックボックスにもチェックが入ります。
また、すべてのタスクのチェックボックスからチェックを外しても"タスクを指定"チェックボックスのチェックは外れません。その状態では条件が存在しないため、一切のメッセージが検出されなくなります。

• [CSV出力]ボタン

[CSV出力]ボタンをクリックすると、タスクの一覧をCSVファイルとして出力できます。

- "タスクを指定"チェックボックスにチェックを入れた際は、タスクのチェックボックスを使用して個別のイベントを監視するか否かを選択しますが、メッセージ件数が多いため設定画面だけでは不便な場合があります。その場合、メッセージ全体をCSVファイルとして出力し、Microsoft Excelなどに取り込むことで、監視したいメッセージを確認できます。

1. [CSV出力]ボタンをクリックすることで、CSVファイルの保存ダイアログが表示されます。



2. ファイルの格納フォルダー先を指定して、任意のファイル名を入力します。
3. [OK]ボタンをクリックし、CSVファイルを保存します。この際、出力されるCSVファイルは以下の形式で保存されます。

- 1行目：CSVヘッダーがカンマ区切りで出力されます。
- 2行目以降：タスクキー、タスク名、タスクの詳細メッセージの順に、カンマ区切りで出力されます。

【CSVファイル出力例】

```

キー,タスク名,詳細
event.EventManager.postEvent,イベントの送信,特定のイベントを送信します
Folder.reload,フォルダーの再ロード,フォルダーを再ロードします
Folder.rename,フォルダー名の変更,フォルダーの名前を変更します。
Folder.addTag,タグの追加,タグー式をフォルダーに追加します

```

なお、先に挙げたCSVファイルの出力例は以下のテーブルと同じ意味を示します。

キー	タスク名	詳細
event.EventManager.postEvent	イベントの送信	特定のイベントを送信します
Folder.reload	フォルダーの再ロード	フォルダーを再ロードします
Folder.rename	フォルダー名の変更	フォルダーの名前を変更します
Folder.addTag	タグの追加	タグー式をフォルダーに追加します

- "ターゲットを指定"チェックボックス

"ターゲットを指定"チェックボックスは、ターゲット（ESXホスト、仮想マシン、リソースプールなど）ごとに監視の有無を設定したい場合に指定します。

このチェックボックスにチェックが入っている状態ではターゲットのチェックボックスにチェックが入っているものだけを監視し、チェックが外れている状態ではすべてのターゲットを監視します。

既定ではチェックボックスのチェックは外れています。

"ターゲットを指定"チェックボックスは、直接チェックボックスを操作した時と、ターゲットのチェックボックスと連動する時の2種類の挙動があります。

"ターゲットを指定"チェックボックスを直接操作した時

ターゲットのチェックボックスを一括操作します。

- "ターゲットを指定"チェックボックスにチェックを入れると、すべてのターゲットのチェックボックスにチェックが入ります。
- "ターゲットを指定"チェックボックスのチェックを外すと、すべてのターゲットのチェックボックスからチェックが外れます。

ターゲットリストのチェックボックスと連動する時

リスト表示されたターゲットのチェックボックスにチェックを入れると、"ターゲットを指定"チェックボックスが連動します。

- リスト表示されたターゲットのチェックボックスに1つでもチェックを入れると、自動的に"ターゲットを指定"チェックボックスのチェックが入ります。

※ すべてのターゲットのチェックボックスからチェックを外しても、"ターゲットを指定"チェックボックスのチェックは外れません。その状態では条件が存在しないため、一切のメッセージが検出されなくなります。

- ターゲット

ターゲット（ESXホスト、仮想マシン、リソースプールなど）のチェックボックスにて、監視したいターゲットを指定します。

- ターゲットのチェックボックスは、"ターゲットを指定"チェックボックスのチェックが入っている場合のみ動作します。
 - ターゲットのチェックボックスにチェックを入れた場合には、そのターゲットを監視します。
 - ターゲットのチェックボックスのチェックが外れている場合には、そのターゲットは監視しません。
- ターゲットのチェックボックスにチェックを入れると、連動して"ターゲットを指定"チェックボックスにもチェックが入ります。

- タスクの発生原因を指定

タスクの発生原因を指定では"システム"、"スケジュール"、"アラーム"および"ユーザー"の4つのチェックボックスがあり、すべてのチェックボックスのチェックが外れている場合、すべての発生原因を監視します。既定ではすべてのチェックボックスのチェックが外れています。

いずれかのチェックボックスにチェックを入れた場合には、チェックが入っている発生原因のみを監視します。発生原因を指定する場合には、監視したい発生原因にチェックを入れ、監視不要な発生原因からはチェックを外してください。

- タスクのステータスを指定

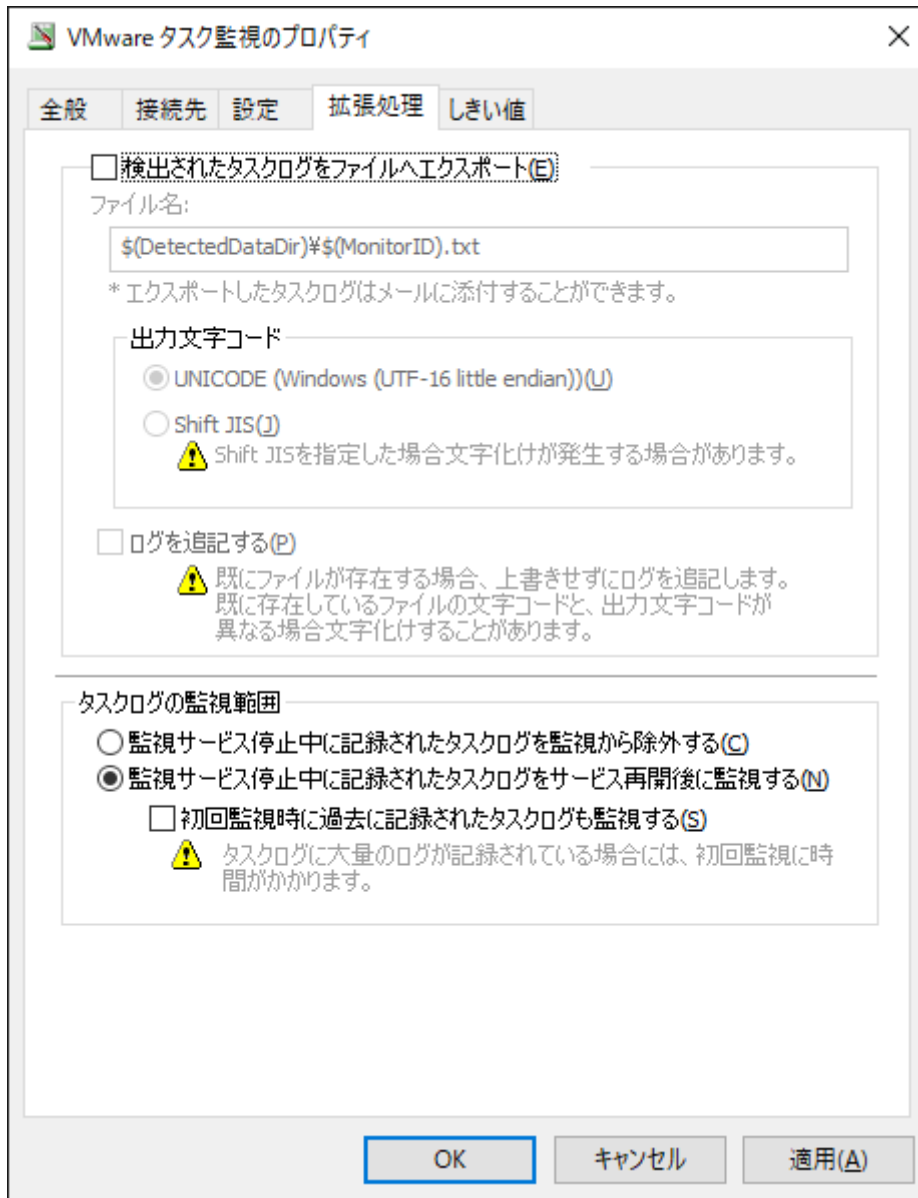
タスクのステータスを指定では"成功"および"エラー"の2つのチェックボックスがあり、既定では"エラー"チェックボックスのみにチェックが入っています。

すべてのチェックボックスのチェックが外れている場合には、すべてのステータスを監視します。

いずれかのチェックボックスにチェックを入れた場合には、チェックが入っているステータスのみを監視します。ステータスを指定する場合には、監視したいステータスにチェックを入れ、監視不要なステータスからはチェックを外してください。

D. 「拡張処理」タブ

「拡張処理」タブでは、監視設定の補助機能を指定します。

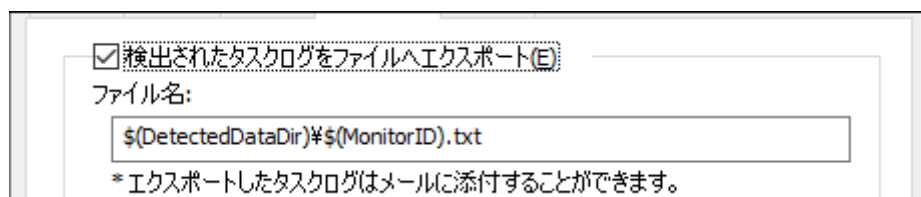


- "検出されたタスクログをファイルへエクスポート"チェックボックス

"検出されたタスクログをファイルへエクスポート"チェックボックスは、ESXホストが出力するタスクログのメッセージから、BOM監視サービスの監視結果として検出メッセージを抽出し、ファイルに出力する場合に指定します。このチェックボックスは主にメール送信時に検出メッセージを添付ファイルとして使用する場合に使用します。

既定ではチェックボックスのチェックは外れており、チェックを入れた場合には、指定のエクスポートファイル"\$(DetectedDataDir)%(MonitorID).txt"として保存されます。

- "\$(DetectedDataDir)"や"\$(MonitorID)"は、BOM 8.0およびVMware オプションの予約済み変数です。予約済み変数の詳細については'[BOM 8.0の予約済み変数](#)'を参照してください。



- 出力文字コード

ファイルへ出力する際の文字コードを、UNICODE/Shift JISから指定できます。

- Shift JISを選択した場合、文字化けが発生する場合があります。

- "ログを追記する"チェックボックス

"ログを追記する"チェックボックスでは、エクスポートファイル"%\$(DetectedDataDir)¥\$(MonitorID).txt"への追記機能を提供します。

BOM監視サービスがメッセージを検知した際、"ログを追記する"チェックボックスのチェックが外れている場合は、エクスポートファイルへ上書き保存します。チェックボックスにチェックが入っている場合は、エクスポートファイルへ追記します。

チェックを入れた場合、別途削除処理を行わないとエクスポートファイルの容量が肥大化するため注意が必要です。

- タスクログの監視範囲

タスクログの監視範囲では、監視するタスクログの範囲を選択します。既定では"監視サービス停止中に記録されたタスクログをサービス再開後に監視する"ラジオボタンが選択されています。

- "監視サービス停止中に記録されたタスクログを監視から除外する"ラジオボタンを選択した場合には、BOM監視サービスが停止していた時に記録されたタスクログは監視せず、サービス起動中のタスクログのみを監視します。
- "監視サービス停止中に記録されたタスクログをサービス再開後に監視する"ラジオボタンを選択した場合には、BOM監視サービスが停止していた時に記録されたタスクログはサービス再開後に監視します。

- "初回監視時に過去に記録されたタスクログも監視する"チェックボックス

"初回監視時に過去に記録されたタスクログも監視する"チェックボックスは、初回監視時に過去に記録されたタスクログも監視する機能です。

チェックボックスにチェックが入っている状態では、監視項目作成直後の監視時に、いままでに記録されたすべてのタスクログを監視範囲に含めます。ログサーバーに記録されたタスクログの量によっては初回監視時に実行時間が掛かるため、注意が必要です。

E. 「しきい値」タブ

「しきい値」タブでは、監視項目のしきい値を指定します。



- しきい値

しきい値では、「注意」および「危険」のしきい値条件を指定します。

既定では「注意」しきい値、「危険」しきい値ともに1件以上に設定されています。

- 「注意」しきい値

数値は、0から999までの整数を入力でき、条件指定は、「より大きい」、「以上」、「より小さい」、または「以下」から選択できます。

条件指定で「より小さい」を選択した場合には、数値には0を入力することができません。

- 「危険」しきい値

「注意」しきい値と同様に設定できます。それに加え、条件の指定方式は「注意」しきい値の条件を連続して満たすことを条件にする「連続したN回目の注意から」を選択できます。

「連続したN回目の注意から」を使用する場合には、入力欄には1から99までの整数を入力できます。

(8) BOM履歴監視

BOM履歴監視では、BOMが出力する履歴ログを監視します。

BOM履歴監視はBOM 8.0の標準監視項目です。設定の詳細は、'BOM for Windows Ver.8.0 ユーザーズマニュアル'をご参照ください。

(9) Ping監視

Ping監視では、リモートコンピューターに対しPing (ICMP ECHO) を発行し、レスポンスを監視します。

Ping監視はBOM 8.0の標準監視項目です。設定の詳細は、'BOM for Windows Ver.8.0 ユーザーズマニュアル'を参照してください。

(10) ポート監視

ポート監視では、リモートコンピューターのTCP/UDPポートの状態を監視します。

ポート監視はBOM 8.0の標準監視項目です。設定の詳細は、'BOM for Windows Ver.8.0 ユーザーズマニュアル'を参照してください。

(11) VMware ビューアーデータ収集

VMware ビューアーデータ収集では、VMware ログビューアーで表示するための各種データを収集します。

データ収集専用のモジュールであり、監視機能はありません。VMware ログビューアーを使用する際、1インスタンスに1つだけ作成する必要があります。

※ 2つ以上作成した場合にはパフォーマンスに影響がでる場合があります。2つ以上は作成しないように注意してください。

VMware ログビューアーの詳細については'[VMware ログビューアー](#)'を参照してください。

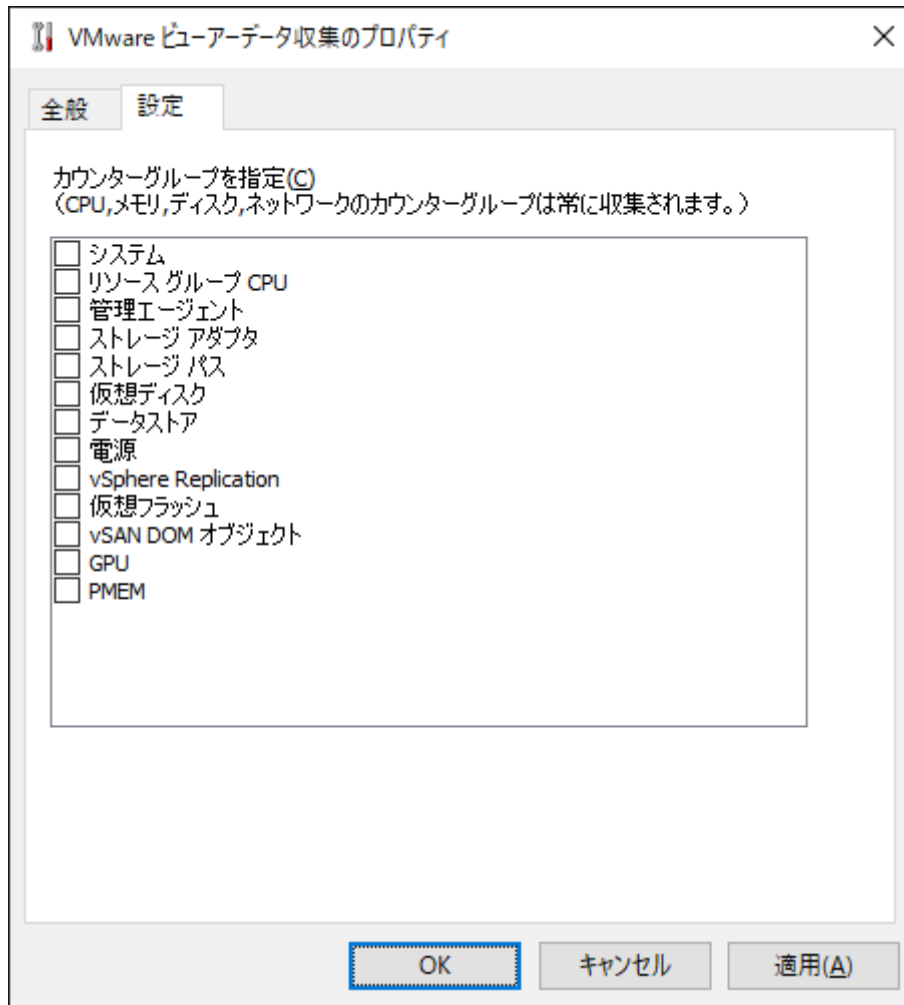
A. 「全般」タブ

「全般」タブの詳細については'監視項目の概要'の項目'[「全般」タブ](#)'を参照してください。

VMware ビューアーデータ収集では、監視間隔の既定値は10分に指定されています。

B. 「設定」タブ

「設定」タブでは、監視を行うカウンターグループの種類を指定します。



- "カウンターグループ"チェックボックス

各カウンターグループのチェックボックスにて、収集したいカウンターグループを指定します。

各カウンターグループのチェックボックスにチェックを入れた場合、そのカウンターグループのデータを収集します。チェックボックスのチェックが外れている場合は、そのカウンターグループのデータを収集しません。

(12) カスタム監視

カスタム監視では任意のコマンドラインプログラム、またはコマンドラインスクリプトを実行し、その戻り値を監視します。

カスタム監視はBOM 8.0の標準監視項目です。設定の詳細は、'BOM for Windows Ver.8.0 ユーザーズマニュアル'を参照してください。

3. VMware オプションのアクション項目

本項では、ESX監視インスタンスで使用できるアクション項目を解説します。

ESX監視インスタンスで使用できるアクション項目は以下のとおりです。

アイコン	アクション項目名	説明
	監視有効/無効	監視グループ/監視項目の有効化/無効化制御
	メール送信	SMTP形式のメール通知
	SNMPトラップ送信	SNMP (v1/v2c/v3) 形式のトラップ送信による通知
	イベントログ書き込み	Windowsイベントログへの書き込みによる通知
	syslog送信	syslogサーバーへ監視結果を送信
	AWS S3 ファイル送信アクション	Amazon S3および、Amazon S3互換ストレージ（※）へ、任意のファイルを送信
	カスタムアクション	外部アプリケーションを利用した制御/通知
	VMware ステータスコントロール	ESXホストまたは仮想マシンのステータス制御

※ Amazon S3互換ストレージについて、API準拠をうたうすべてのストレージでの動作を保証するものではありません。

弊社では、クラウドファン株式会社のCLOUDIAN HYPERSTOREについて動作確認を取っており、今後の対応確認情報は弊社ウェブサイトですぐ公開します。

上記アクション項目について、「VMware ステータスコントロール」以外はBOM 8.0の標準アクション項目です。そのため、以降では「VMware ステータスコントロール」の使用方法和設定方法についてのみ解説します。

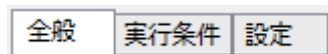
その他、BOM 8.0の標準アクション項目については、「BOM for Windows Ver.8.0 ユーザーズマニュアル」を参照してください。

(1) VMware ステータスコントロール

A. 基本操作

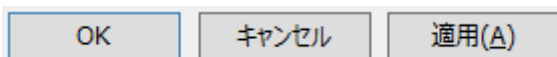
- タブ

プロパティシートは、「全般」、「実行条件」、「設定」などのタブで構成されています。それぞれのタブをクリックすることで、該当するタブが表示され、設定を変更できます。



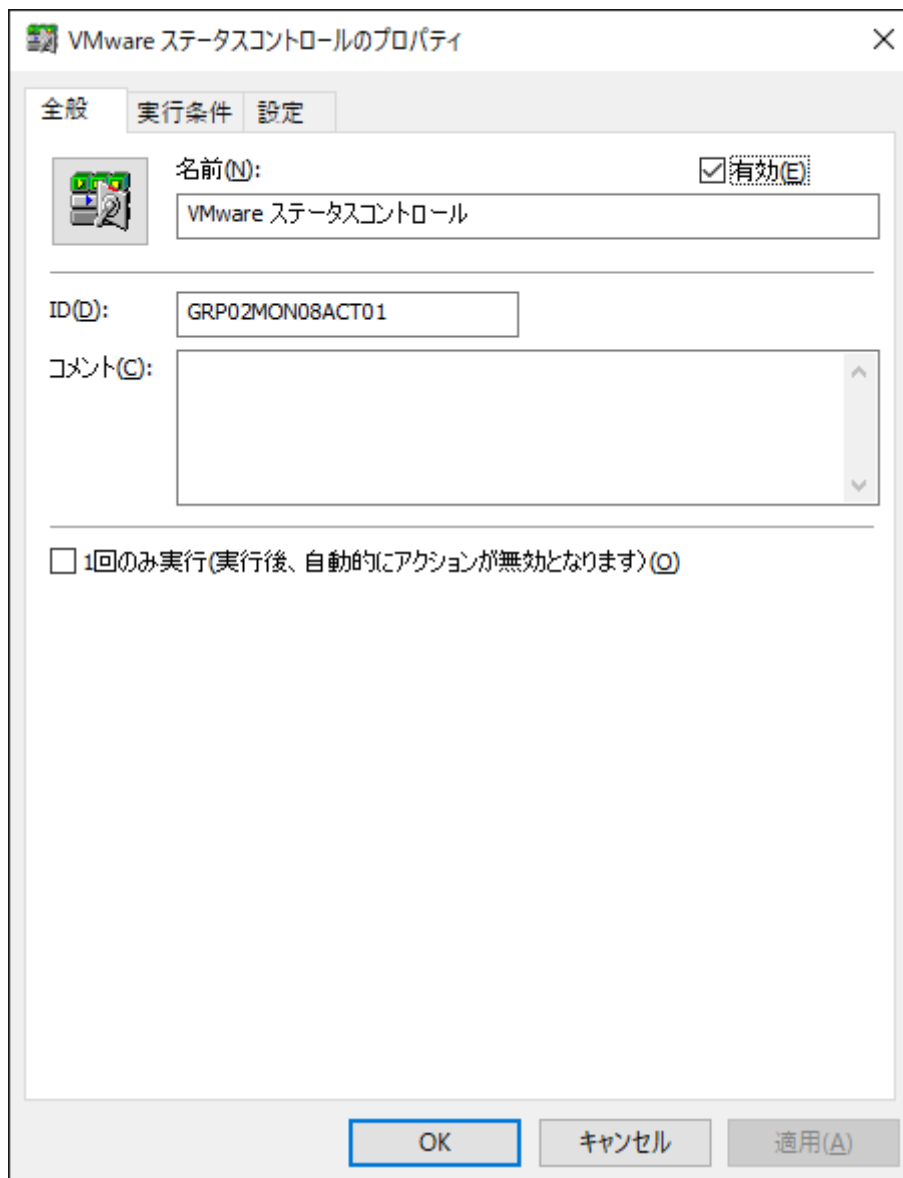
- 変更した設定の反映と破棄

変更した設定は、[OK]ボタン、または[適用]ボタンをクリックすることでBOM 8.0に反映できます。変更した設定を破棄したい場合には[キャンセル]ボタンをクリックします。



B. 「全般」タブ

「全般」タブは、「アイコン」、「ID」、「名前」に設定されている値を除き、すべてのアクション項目で共通です。



The screenshot shows a dialog box titled "VMware ステータスコントロールのプロパティ" (VMware Status Control Properties). It has three tabs: "全般" (General), "実行条件" (Execution Conditions), and "設定" (Settings). The "全般" tab is selected. It contains the following fields and options:

- 名前(N):** A text box containing "VMware ステータスコントロール". To its right is a checked checkbox labeled "有効(E)" (Enabled).
- ID(D):** A text box containing "GRP02MON08ACT01".
- コメント(C):** A large empty text area with a vertical scrollbar on the right.
- 1回のみ実行(実行後、自動的にアクションが無効となります)(O)**: An unchecked checkbox.

At the bottom of the dialog are three buttons: "OK", "キャンセル" (Cancel), and "適用(A)" (Apply).

設定項目	説明
------	----

設定項目	説明
<p>[アイコン]ボタン</p>	<p>[アイコン]ボタンはアクション項目で設定されているアイコンが表示され、既定ではアクション項目の種類に合わせたアイコンが設定されています。</p> <p>[アイコン]ボタンをクリックすることで、アイコンを変更するためのダイアログを表示することができます。アイコンを変更する場合には、ダイアログにて変更したいアイコンをクリックし、[OK]ボタンをクリックします。</p> 
<p>"有効"チェックボックス</p>	<p>チェックを入れることでアクションを実行します。</p> <p>既定ではチェックボックスにチェックが入っています。アクションを実行したくない場合にはチェックボックスからチェックを外してください。</p>
<p>"名前"欄</p>	<p>アクション項目名を入力します。既定値としてアクション項目の種類と同じ名称が入力されています。</p> <p>必要に応じて、わかりやすい名称に変更してください。</p>
<p>"ID"欄</p>	<p>アクション項目IDが表示されます。アクション項目IDは、インスタンス内でアクション項目ごとに一意になるようにBOMが自動的に設定するため、ここでは変更できません。</p>
<p>"コメント"欄</p>	<p>アクション項目の補足情報を入力します。既定では空白です。必要に応じて入力してください。</p>
<p>"1回のみ実行"チェックボックス</p>	<p>"1回のみ実行"チェックボックスでは、アクション項目の実行時に無効化する機能を提供します。</p> <p>既定ではチェックボックスからチェックが外れており、この状態では、アクション項目には何も起こりません。</p> <p>チェックボックスにチェックが入っている状態では、アクション項目が実行された時、自動的に"有効"チェックボックスからチェックを外します。対象のアクション項目は、再び手動で"有効"チェックボックスにチェックを入れるまで無効（実行されない状態）になります。</p>

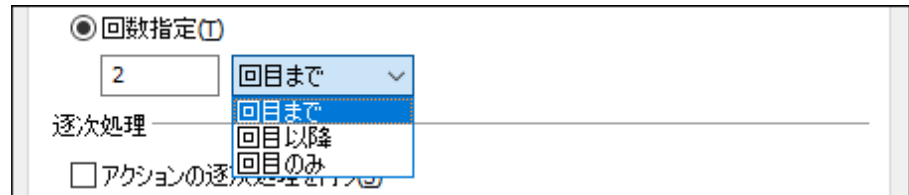
C. 「実行条件」タブ

「実行条件」タブは、アクション項目を実行するための条件を設定します。

「実行条件」タブは、監視ステータス、実行頻度の既定値を除き、すべてのアクション項目で共通です。

設定項目	説明
監視するステータス	監視するステータスでは、監視項目の監視結果（ステータス）に応じて実行するか否かを指定します。 監視するステータスには"正常"、"注意"、"危険"および"失敗"の4つのチェックボックスがあり、既定では、"注意"、"危険"チェックボックスにチェックが入っています。 実行したいステータスにチェックを入れ、実行不要なステータスからはチェックを外してください。
実行頻度	実行頻度では、同一の監視結果（ステータス）が連続した時の動作基準を指定します。 実行頻度には"毎回"、"変化時のみ"および"回数指定"の3つのラジオボタンがあり、既定では、"毎回"が選択されています。
毎回	監視するステータスの条件に合致した時に毎回実行します。
変化時のみ	前回の監視結果（ステータス）と同一であった時には実行しません。

さらに指定方式を指定方式を"N"回目まで"、N"回目以降"またはN"回目のみ"から選択します。



回数指定

- N"回目まで" : カウントした値がN回に達するまでアクション項目を実行します。
- N"回目以降" : カウントした値がN回を超えた場合にアクション項目を実行します。
- N"回目のみ" : カウントした値がN回と一致した場合にのみアクション項目を実行します。

"アクションの逐次処理を行う"チェックボックス

"アクションの逐次処理を行う"チェックボックスでは、複数のアクションを逐次処理する機能を提供します。

既定ではチェックボックスからチェックが外れています。

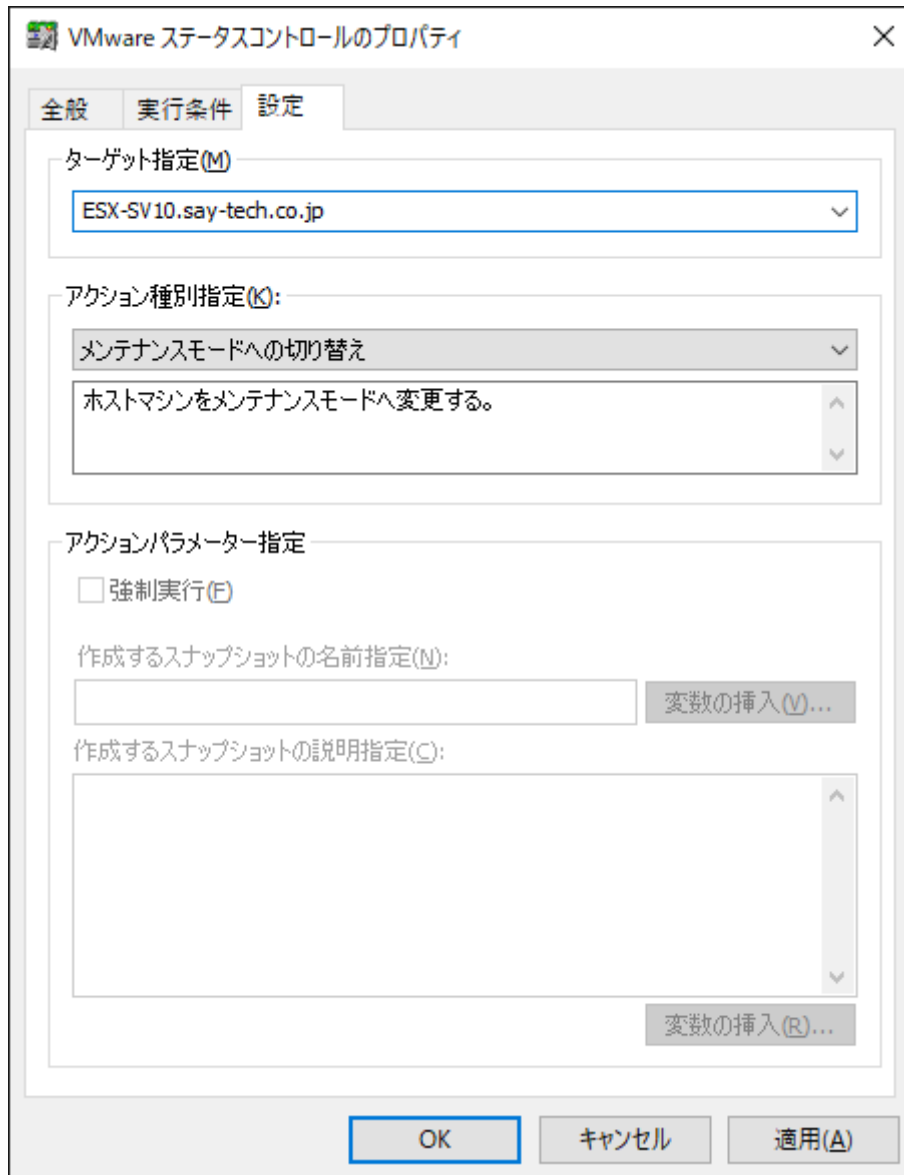
1つの監視項目に対し複数のアクション項目が作成されている場合において、このチェックボックスのチェックが外れている状態では、他のアクション項目の実行状況を確認せずアクション項目は並列に処理されます。

チェックボックスにチェックが入っている状態では、まず同一監視項目に作成されている他のアクション項目でもチェックボックスにチェックが入っているか否かを確認し、チェックボックスにチェックが入っているすべてのアクション項目をアクション項目ID順（昇順）で逐次実行します。

- "アクションの逐次処理を行う"チェックボックスを指定する場合、監視するステータスおよび実行頻度は、アクション項目ID順（昇順）で先頭（1番目）のアクション項目でのみ有効となり、2番目以降に実行されるアクション項目の該当設定は無効かつ、先頭のアクション項目と同じ設定とみなされます。
- 2番目以降の逐次処理は、前のアクション項目が成功した場合のみ実行されます。前のアクションの結果が失敗だった場合、処理はそこで止まります。

D. 「設定」タブ

「設定」タブは、コントロール対象とコントロール方法を設定します。



- "ターゲット指定"欄

コントロールするコンピューターを指定します。

既定値としてESXホストが指定されており、プルダウンメニューにて、ESXホストおよび仮想マシンの一覧が表示されます。

- "アクション種別指定"欄

コンピューターのコントロール方法を指定します。

"ターゲット指定"欄にてESXホストを選択した場合と、仮想マシンを選択した場合でコントロール方法が異なり、指定できるコントロール方法は以下のとおりです。

ターゲット	コントロール方法
ESXホスト	メンテナンスモードへの切り替え
	メンテナンスモードの終了
	スタンバイへの切り替え
	ホストの再起動

	ホストのシャットダウン
仮想マシン	仮想マシンのパワーオン
	仮想マシンのパワーオフ
	仮想マシンのサスペンド
	仮想マシンのリセット
	仮想マシンのゲストOSの再起動
	仮想マシンのゲストOSのシャットダウン
	仮想マシンのスナップショット作成

- "アクションパラメーター指定"欄

"アクションパラメーター指定"欄では、コントロール時のパラメーターを指定できます。

"アクション種別指定"欄で"仮想マシンのスナップショット作成"を選択した場合には、スナップショットの名前とスナップショットの説明文を指定できます。

また、"アクション種別指定"欄で"ホストの再起動"または"ホストのシャットダウン"を選択した場合には、"強制実行"チェックボックスを使用できます。

- チェックを入れた場合には、仮想マシンの状態や実行中のオペレーションを問わず、強制的にシャットダウンを実行します。
- チェックを外した場合には、メンテナンスモードに移行している場合のみシャットダウンを実行します。

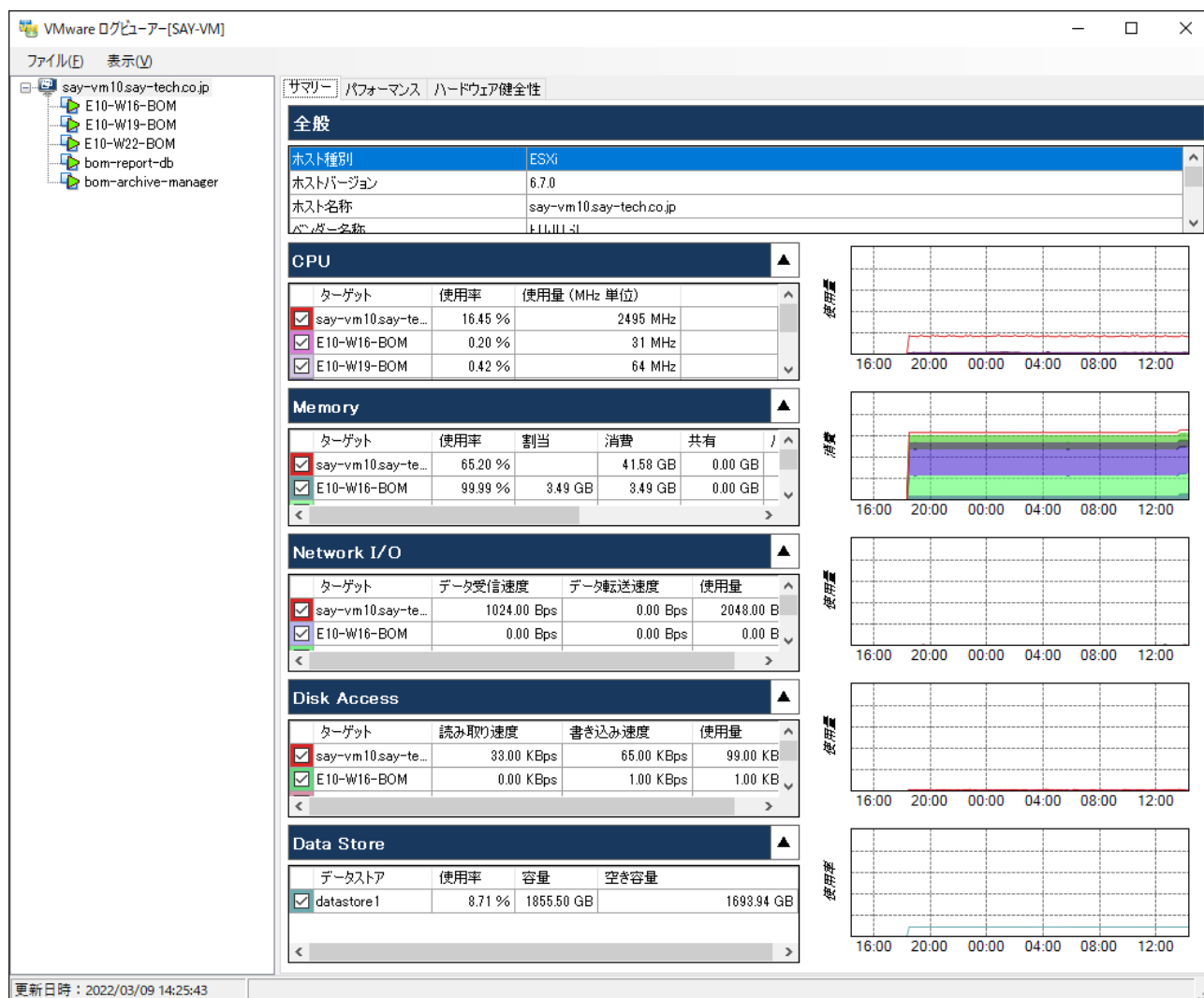
第6章 VMware ログビューアー

1. 概要

VMware ログビューアーは、監視項目"VMware ビューアーデータ収集"で収集したデータを確認するためのビューアーです。

BOM 8.0 マネージャーなどのVMware監視インスタンスから起動でき、ESXホスト全体、または個別の仮想マシンのリソースについて、収集したデータをリスト、グラフ形式で表示します。

また、VMware ログビューアーは、レポートを作成するための"レポート出力ウィザード"を起動することができます。



2. コンピュータツリービュー領域

ウィンドウ左側は、コンピューターのツリービューを表示する領域です。ESXホストおよび仮想マシンの一覧が表示されます。

既定ではESXホストが選択されています。

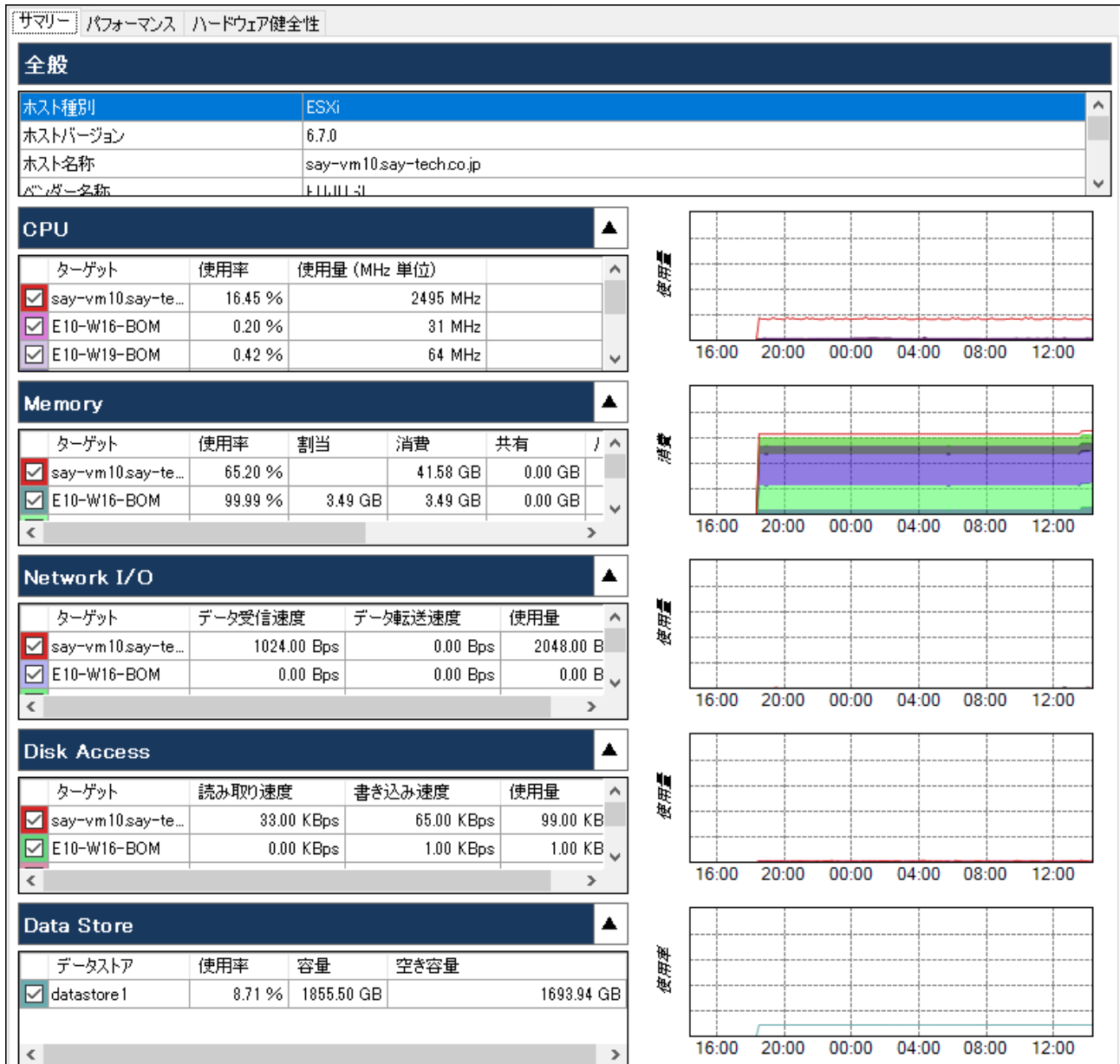
- ESXホストを選択した場合、収集データ表示領域にはESXホストの統合データが表示されます。
- 仮想マシンを選択した場合、収集データ表示領域には仮想マシンの個別データが表示されます。

3. 収集データ表示領域

ウィンドウ右側は、収集したデータを表示する領域です。コンピューターツリービュー領域にて選択したコンピューターのデータを表示します。

収集データ表示領域には、「サマリー」、「パフォーマンス」および「ハードウェア健全性」の3つのタブがあります。

※ コンピューターツリービュー領域で仮想マシンを選択した場合には、「ハードウェア健全性」タブが表示されません。



(1) 「サマリー」タブ

「サマリー」タブでは、コンピューターのデータ収集結果をリスト表およびグラフにて確認できます。

The screenshot displays the VMware vSphere Summary page for a virtual machine. The interface is in Japanese and shows various performance metrics for the VM 'say-vm10.say-tech.co.jp'.

VMware ログビューア-[SAY-VM]

ファイル(E) 表示(V)

say-vm10.say-tech.co.jp

- E10-W16-BOM
- E10-W19-BOM
- E10-W22-BOM
- bom-report-db
- bom-archive-manager

サマリー パフォーマンス ハードウェア健全性

全般

ホスト種別	ESXi
ホストバージョン	6.7.0
ホスト名称	say-vm10.say-tech.co.jp
ゲスト名称	E10-W16-BOM

CPU

ターゲット	使用率	使用量 (MHz 単位)
<input checked="" type="checkbox"/> say-vm10.say-te...	16.45 %	2495 MHz
<input checked="" type="checkbox"/> E10-W16-BOM	0.20 %	31 MHz
<input checked="" type="checkbox"/> E10-W19-BOM	0.42 %	64 MHz

Memory

ターゲット	使用率	割当	消費	共有
<input checked="" type="checkbox"/> say-vm10.say-te...	65.20 %		41.58 GB	0.00 GB
<input checked="" type="checkbox"/> E10-W16-BOM	99.99 %	3.49 GB	3.49 GB	0.00 GB

Network I/O

ターゲット	データ受信速度	データ転送速度	使用量
<input checked="" type="checkbox"/> say-vm10.say-te...	1024.00 Bps	0.00 Bps	2048.00 B
<input checked="" type="checkbox"/> E10-W16-BOM	0.00 Bps	0.00 Bps	0.00 B

Disk Access

ターゲット	読み取り速度	書き込み速度	使用量
<input checked="" type="checkbox"/> say-vm10.say-te...	33.00 KBps	65.00 KBps	99.00 KB
<input checked="" type="checkbox"/> E10-W16-BOM	0.00 KBps	1.00 KBps	1.00 KB

Data Store

データストア	使用率	容量	空き容量
<input checked="" type="checkbox"/> datastore1	8.71 %	1855.50 GB	1693.94 GB

更新日時：2022/03/09 14:25:43

The right side of the page features five line graphs showing usage over time (16:00 to 12:00):

- 使用量 (CPU):** Shows a sharp spike at 18:00, reaching approximately 2500 MHz.
- 消費 (Memory):** Shows a sharp spike at 18:00, reaching approximately 42 GB.
- 使用量 (Network I/O):** Shows a sharp spike at 18:00, reaching approximately 1000 Bps.
- 使用量 (Disk Access):** Shows a sharp spike at 18:00, reaching approximately 70 KBps.
- 使用率 (Data Store):** Shows a sharp spike at 18:00, reaching approximately 9%.

A. "全般"欄

"全般"欄では、コンピューターの基本情報を確認できます。

全般	
ホスト種別	ESXi
ホストバージョン	6.7.0
ホスト名称	say-vm10.say-tech.co.jp
ベンダー名称	FUJITSU

- 右端のスクロールバーを下にスライドすることで、すべての基本情報を確認できます。
- "全般"欄と"リソース"領域の境界にカーソルを移動させると、マウスカーソルがリサイズカーソルに変わり、ドラッグアンドドロップで上下方向に領域の表示サイズを変更できます。これにより、以下のように全般欄をすべて表示することも可能です。

全般	
ホスト種別	ESXi
ホストバージョン	6.7.0
ホスト名称	say-vm10.say-tech.co.jp
ベンダー名称	FUJITSU
モデル	FUJITSU RACKTOP V14
CPUモデル名	Intel(R) Xeon(R) E-2174G CPU @ 3.80GHz
CPU周波数	3792 Mhz
CPUソケット数	1
CPUコア数	4
論理プロセッサ数	8
NIC数	2
メンテナンスモード	OFF
搭載メモリ量	64 GB
IPアドレス 1	172.21.1.80
IPアドレス 2	10.10.10.10

- "全般"欄に表示される情報
 - ESXホスト

コンピューターツリービュー領域にてESXホストを選択している場合、"全般"欄には以下の項目を表示します。

項目名	説明
ホスト種別	ESXホストの製品種別
ホストバージョン	ESXホストの製品バージョン
ホスト名称	ESXホストのホスト名（コンピューター名）
ベンダー名称	ハードウェアベンダーの名称
モデル	ハードウェア機種
CPUモデル名	搭載されているCPUの製品名
CPU周波数	搭載されているCPUの周波数
CPUソケット数 [※1]	ハードウェア（マザーボード）に搭載されているCPUソケット数
CPUコア数 [※1]	搭載されているCPUの合計コア数

項目名	説明
論理プロセッサ数 [※1]	搭載されているCPUの論理プロセッサ数
NIC数	搭載されているネットワークインターフェース数
メンテナンスモード	メンテナンスモードへの移行状況
搭載メモリ量	搭載されている物理メモリ量
IPアドレス [※2]	設定されているIPアドレス（設定IPアドレス分）

※1 Hyper-Threading対応の4コアCPUを2個搭載していた場合、CPUソケット数は2、CPUコア数は8、論理プロセッサ数は16となります。

※2 IPv6のみが設定されているNICについては、IPv4に対応するIPアドレス欄が空白となります。

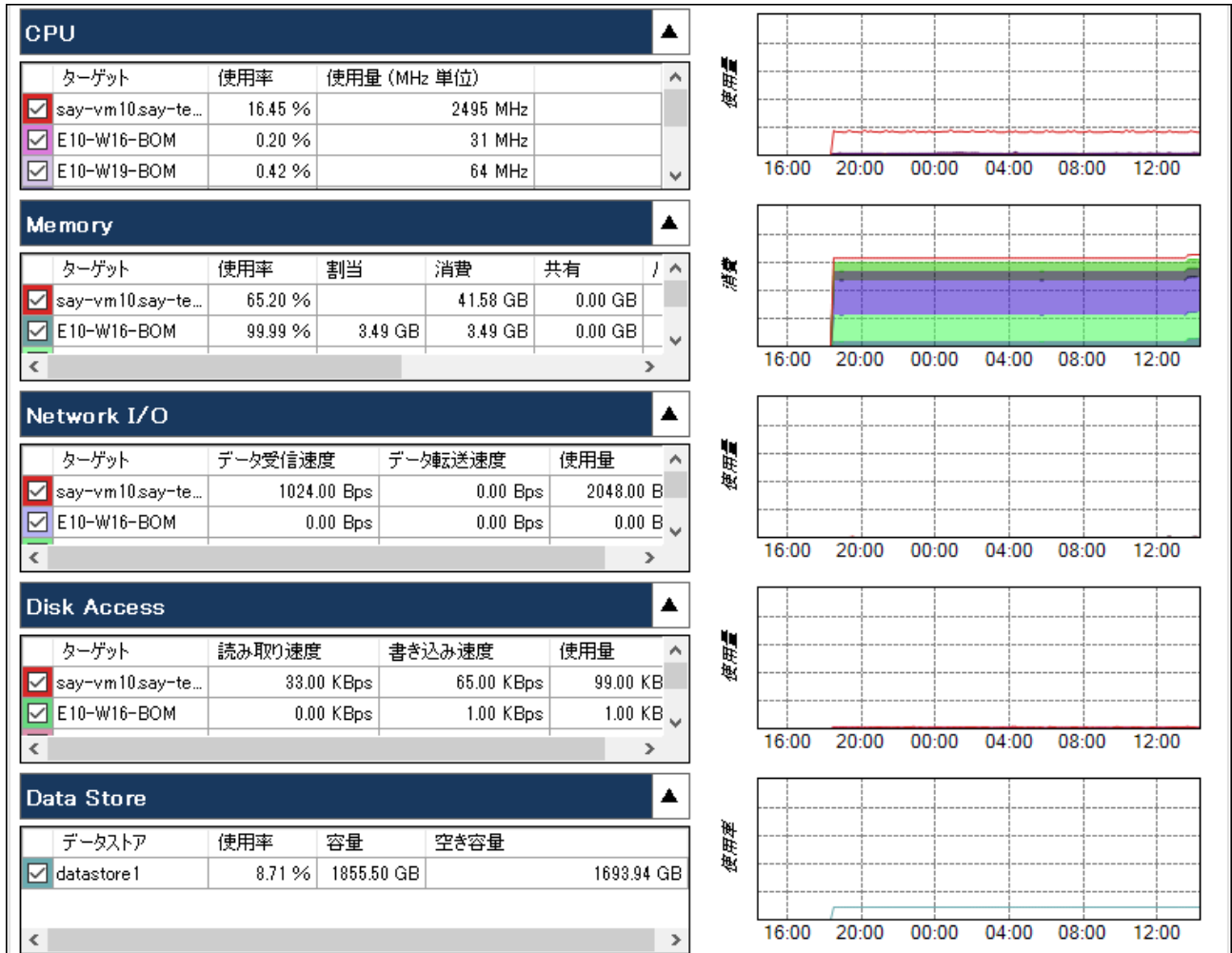
○ 仮想マシン

コンピューターツリービュー領域にて仮想マシンを選択している場合、"全般"欄には以下の項目を表示します。

項目名	説明
仮想マシン名	ESXホストにて登録した仮想マシン名
ゲストOS	仮想マシンに導入されているOSの製品バージョン
仮想マシンのバージョン	仮想マシンのバージョン
CPU数	仮想マシンに割り当てられたCPU数
メモリ	仮想マシンに割り当てられたメモリ量
メモリアーバーヘッド	ESXホストが仮想マシンを管理するために割り当てたメモリ量
VMware Toolsインストール状況	仮想マシンへのVMware Toolsのインストール状況
DNS名	仮想マシンのコンピューター名（FQDN） ※OS停止時は非表示
状態	仮想マシンの電源ステータス
使用済みストレージ	ESXホストから割り当てられたストレージの使用容量
共有されないストレージ	仮想マシン固有に割り当てられたストレージの使用容量
未使用ストレージ	ESXホストから割り当てられたストレージの未使用容量
IPアドレス index	設定されているIPアドレス ※OS停止時は非表示

B. "リソース"領域

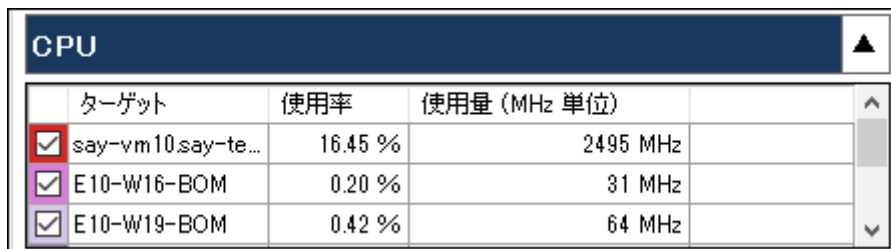
"リソース"領域には、それぞれのリソースの収集結果をサマリーで表示します。



- リスト表

各リソースに表示されたコンピューターのリストでは、データ収集結果の最新情報を表示します。

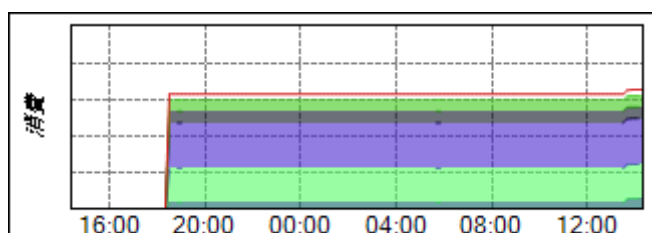
右端のスクロールバーを下にスライドすることで、すべてのコンピューターのデータ収集結果を確認できます。



- グラフ

グラフには、既定では直近1日の監視データを表示します。グラフの表示期間は変更することができます。

グラフに関する設定方法については'[メニュー"表示"](#)'の項目'["設定"コマンド](#)'を参照してください。



- サイズ変更

各"リソース"情報とグラフの境界にカーソルを移動させるとマウスカーソルがリサイズカーソルに変わり、ドラッグアンドドロップで左右方向に領域の表示サイズを変更できます。

- 強調表示

各リソースに表示されたコンピューターのリストで、特定のコンピューターを選択すると、右に表示されたグラフで該当のコンピューターの値が強調表示されます。

- 並び替え

リスト表は、項目名をクリックすることで並び替えることができます。

- 項目名を1回クリックすると、項目名に"△"が表示され、昇順で並べ替えます。
- 再度項目名をクリックすると、項目名に"▽"が表示され、降順で並べ替えます。

- グラフの表示/非表示

リスト表の左端にあるチェックボックスからチェックを外すと、右に表示されたグラフで該当のコンピューターの値が非表示にできます。またチェックを入れることで再表示できます。

- 格納と展開

リソース種別（CPU、Memoryなど）を示すバーの右端にある[▲]（格納）ボタンをクリックすることで、該当のリソース情報（リソース情報とグラフ）を非表示にできます。また、ボタンの種類が[▼]（展開）ボタンに置き換わり、再度クリックすることで再表示できます。

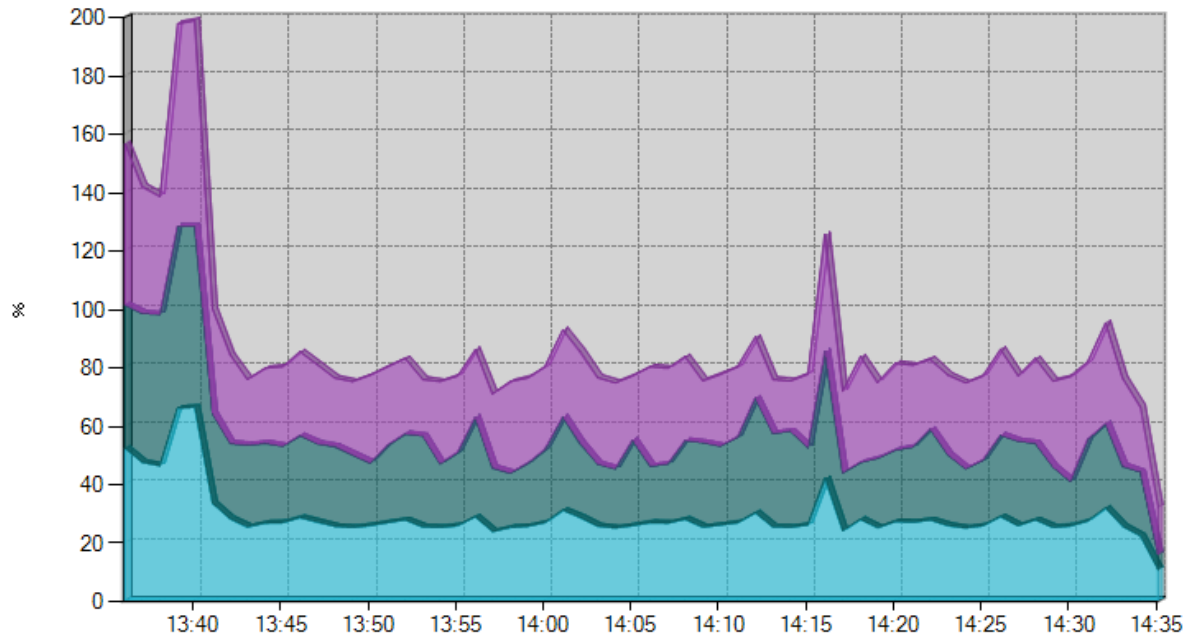
- "リソース"領域に表示される情報

リソース種別	説明
CPU	"CPU"欄では、コンピューターのCPU使用率を確認できます。 ESXホストの使用率は、コンピューター全体の使用率を表示します。 仮想マシンの使用率は、仮想マシンに割り当てられた領域での使用率を表示します。
Memory	"Memory"欄では、コンピューターのメモリ使用容量を確認できます。 ESXホストの使用率は、コンピューター全体の使用容量を表示します。 仮想マシンの使用率は、仮想マシンに割り当てられた領域での使用容量を表示します。
Network I/O	"Network I/O"欄では、コンピューターのネットワーク送受信量を確認できます。 ESXホストの使用率は、コンピューター全体の送受信量を表示します。 仮想マシンの使用率は、仮想マシンの送受信量を表示します。
Disk Access	"Disk Access"欄では、コンピューターのディスクアクセス状況を確認できます。 ESXホストの使用率は、コンピューター全体のディスクアクセス状況を表示します。 仮想マシンの使用率は、仮想マシンのディスクアクセス状況を表示します。
Data Store / Drive	"Data Store"欄 / "Drive"欄では、コンピューターのストレージ使用容量を確認できます。 ESXホストの場合には、"Data Store"欄が表示されます。"Data Store"欄にはESXホストの全データストアとその使用容量を表示します。 仮想マシンの場合には、"Drive"欄が表示されます。"Drive"欄には、仮想マシンに割り当てられていたディスク領域とその使用容量を表示します。

(2) 「パフォーマンス」タブ

「パフォーマンス」タブでは、コンピューターのパフォーマンス情報を詳細に確認できます。

- 初回実行時には何も表示されません。カウンターの設定を行うことで、グラフをはじめとする各情報が表示されます。



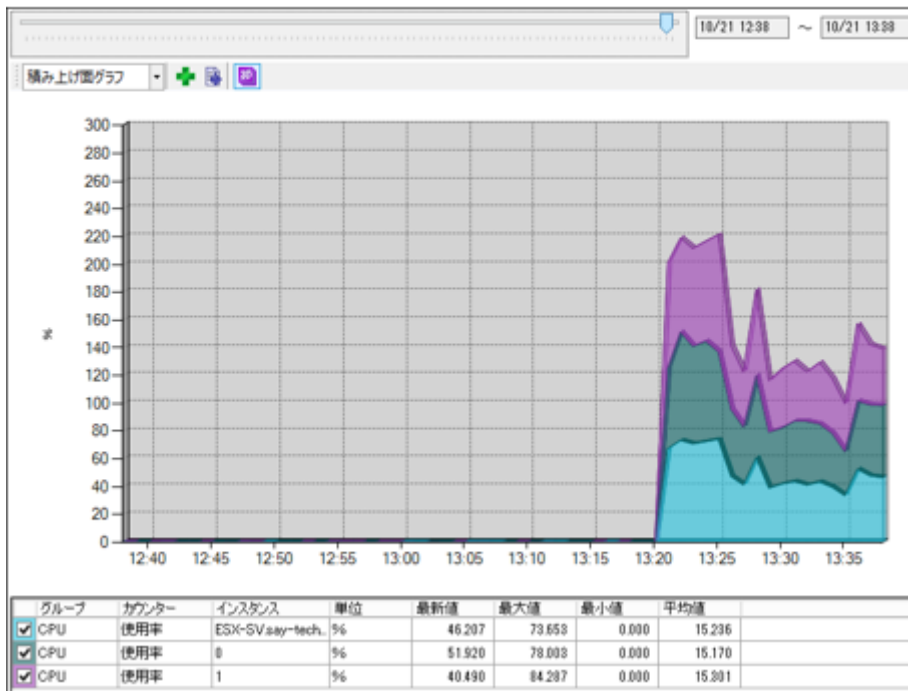
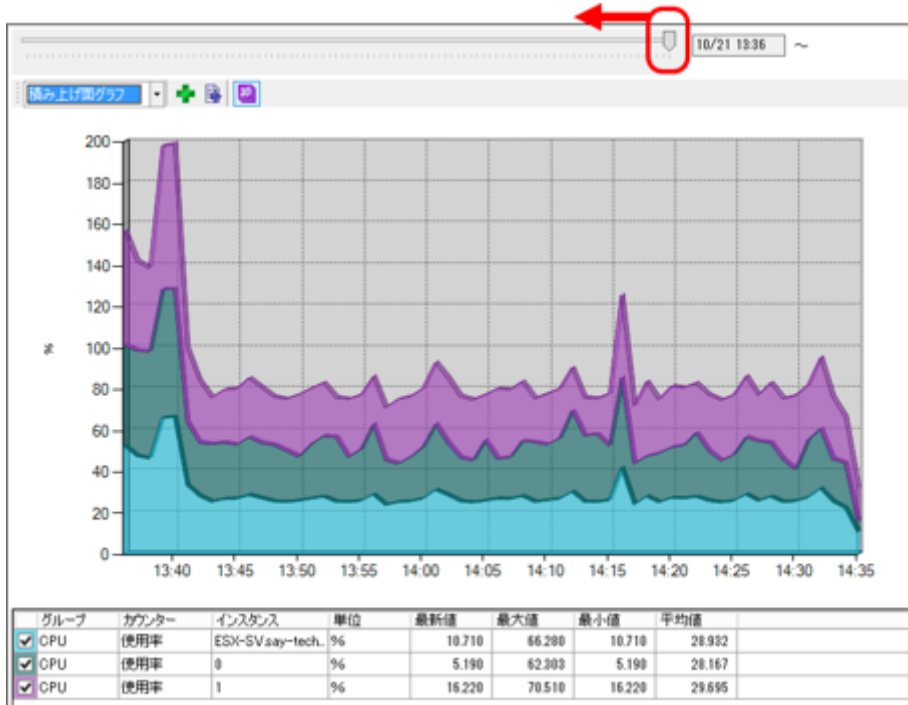
グループ	カウンター	インスタンス	単位	最新値	最大値	最小値	平均値		
<input checked="" type="checkbox"/>	CPU	使用率	ESX-SV.say-tech..	%	10.710	66.280	10.710	28.932	
<input checked="" type="checkbox"/>	CPU	使用率	0	%	5.190	62.303	5.190	28.167	
<input checked="" type="checkbox"/>	CPU	使用率	1	%	16.220	70.510	16.220	29.695	

A. 表示期間指定バー

表示期間指定バーでは、表示する情報の期間を指定します。

既定ではポインターが右端にあり、最新の情報が表示されます。また、最新情報のため、終了時刻は省略されます。

スタックバーの右端にあるポインターを左にスライドすることで、パフォーマンス表示領域に表示するコンピューターのパフォーマンス情報について、過去の情報を確認できます。

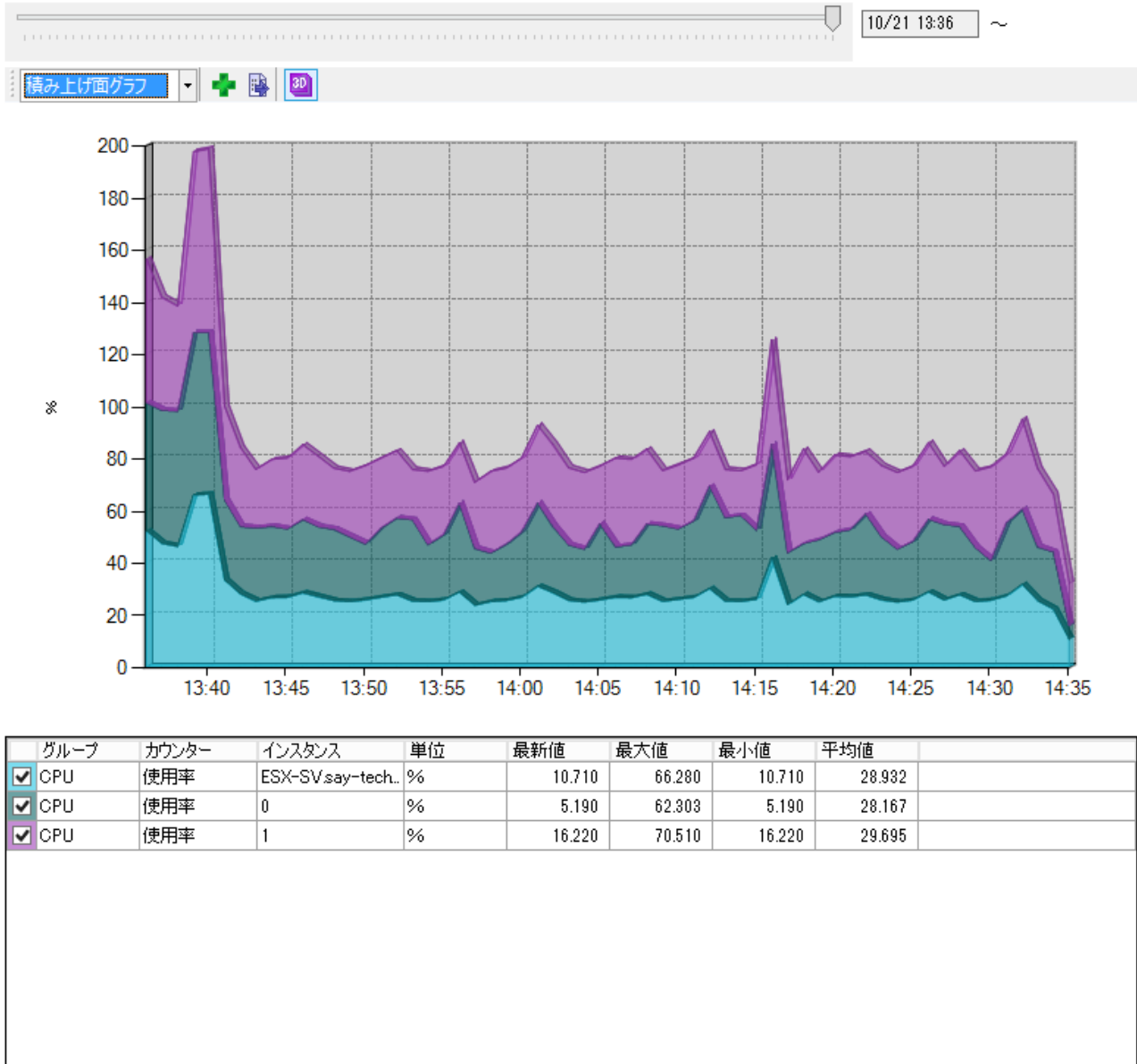


B. パフォーマンス表示領域

パフォーマンス表示領域では、コンピューターから収集したパフォーマンス情報から任意のパフォーマンスカウンターをチャート（グラフおよびリスト表）で確認できます。

既定では前回指定したカウンターの情報を表示します。初回実行時には何も表示されません。またチャートの数は既定で1つ、最大で4つまで表示できます。

チャート数の設定方法については、'[メニュー"表示"](#)'の項目'["設定"コマンド](#)'を参照してください。



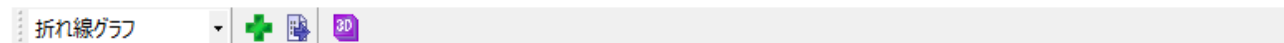
C. チャート領域

チャート領域は、チャートメニュー、グラフ領域、リスト表領域で構成され、「サマリー」タブの"リソース"領域と同じように、"サイズ変更"、"強調"、"並び替え"、"グラフの表示/非表示"の各種機能を使用できます。

各機能の使用手順は '[「サマリー」タブ](#)'の'["リソース領域"](#)を参照してください。

D. チャートメニュー

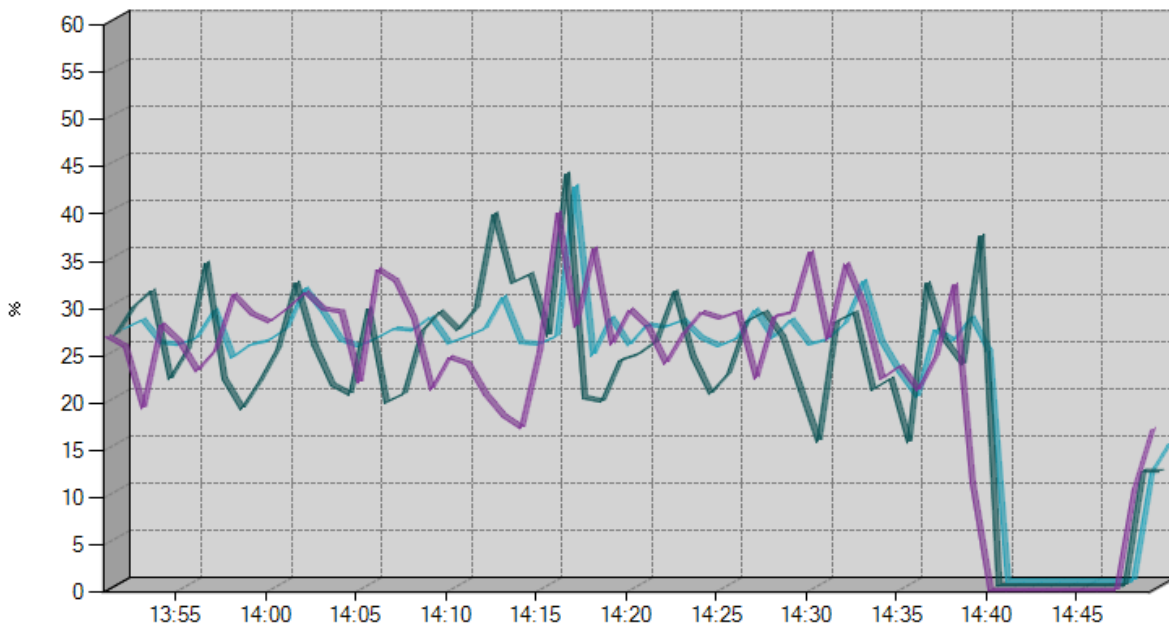
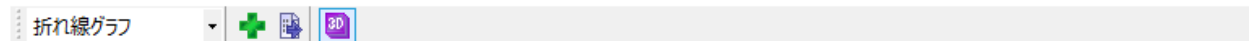
チャートメニューではチャート（グラフおよびリスト表）に関するメニューを提供します。



- グラフ選択欄

グラフ選択欄では、グラフの種類を"折れ線グラフ"、"積み上げ縦棒グラフ"、"積み上げ面グラフ"から選択できます。

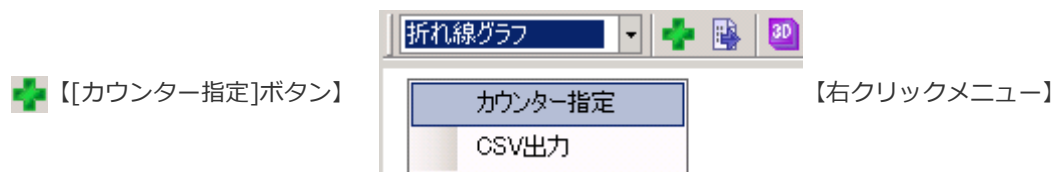
なお、"積み上げ面グラフ"は異なる単位のカウンターを指定した場合には選択できません。



- [カウンター指定]ボタン

[カウンター指定]ボタンをクリックすることで、"カウンター指定"ダイアログが表示されます。また、グラフ領域の右クリックメニューから"カウンター指定"を選択した場合も同様に"カウンター指定"ダイアログが表示されます。

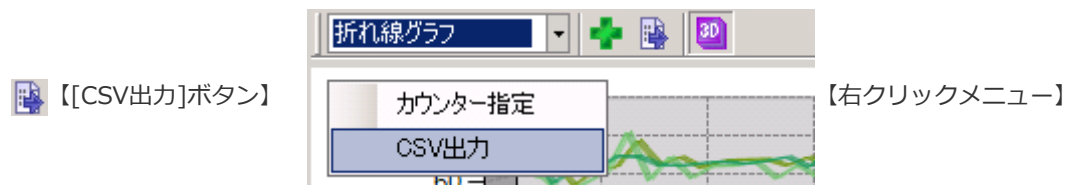
"カウンター指定"ダイアログについては"["カウンター指定"ダイアログ](#)"を参照してください。



- [CSV出力]ボタン

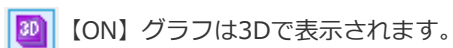
[CSV出力]ボタンをクリックすることで、CSV出力ウィザードが表示されます。また、グラフ領域の右クリックメニューから"CSV出力"を選択した場合も同様にCSV出力ウィザードが表示されます。

CSV出力ウィザードについては"["CSV出力ウィザード](#)"を参照してください。



- [3D]押し込みボタン

[3D]押し込みボタンをクリックすることで、グラフの3D表示の有無を切り替えることができます。

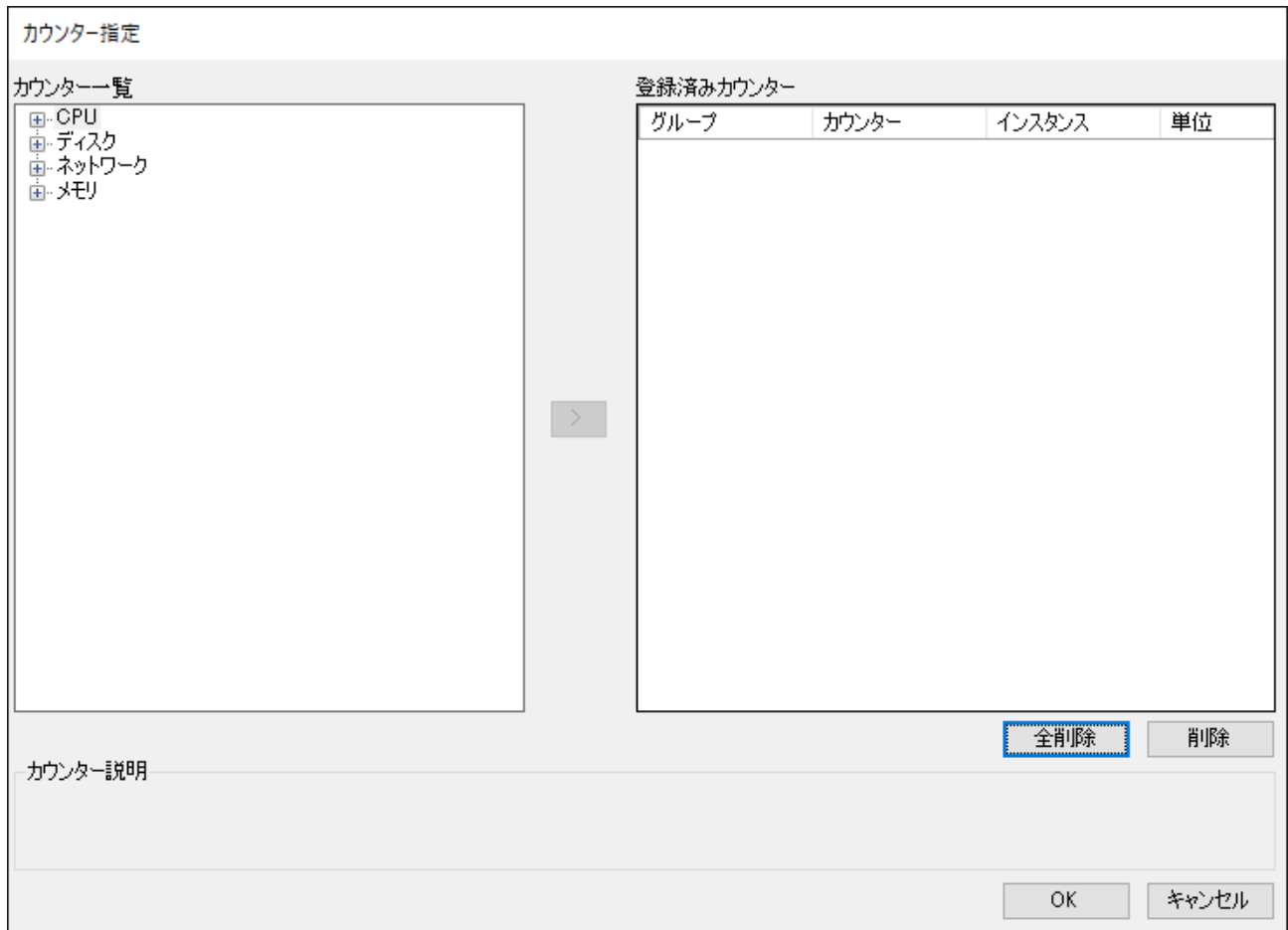




【OFF】 グラフは2Dで表示されます。

E. "カウンター指定"ダイアログ

"カウンター指定"ダイアログにて、グラフ領域、リスト表領域に表示するパフォーマンスカウンターを指定します。



- "カウンター一覧"領域

"カウンター一覧"領域のツリーにて、パフォーマンスグループまたはパフォーマンスカウンターの[+]（展開）ボタンをクリックすることで、ツリーを展開できます。また、ボタンの種類が[-]（格納）ボタンに置き換わります。

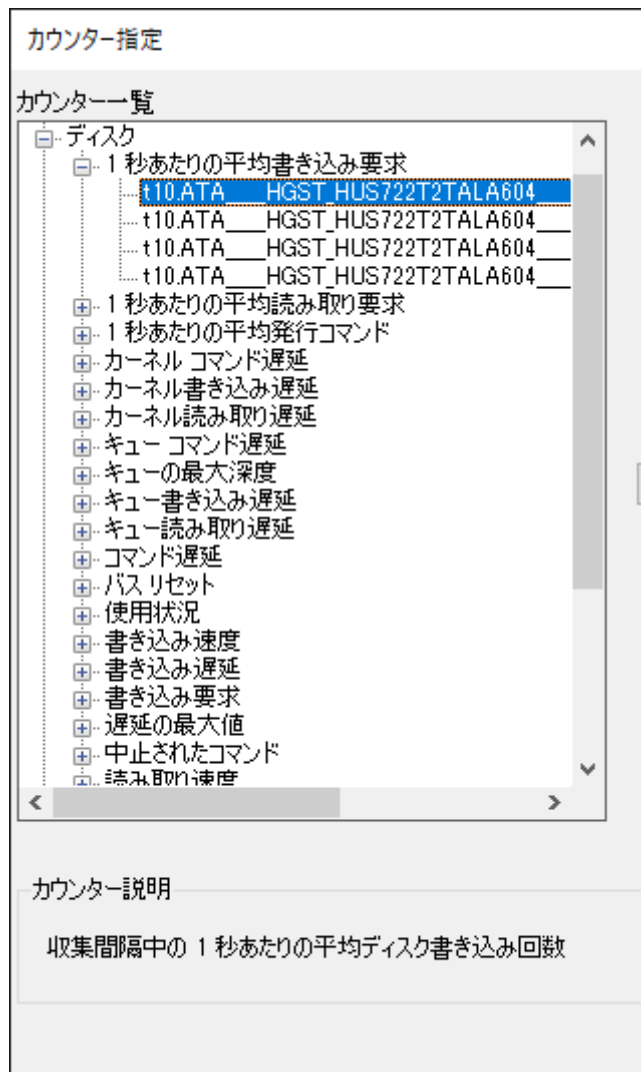


[-]（格納）ボタンをクリックすることで、展開したツリーを折りたたむことができます。また、ボタンの種類が[+]（展開）ボタンに置き換わります。



"カウンター一覧"領域のツリーから"（任意のパフォーマンスグループ）"→"（任意のパフォーマンスカウンター）"→"（取得インスタンス一覧）"と順に展開することで、該当パフォーマンスカウンターのインスタンスが存在するか否かを確認できます。

また、"カウンター説明"領域に該当パフォーマンスカウンターの説明文が表示されます。



- [>] (追加) ボタン

"カウンター一覧"領域で表示したいパフォーマンスカウンターまたはカウンターのインスタンスを選択し、[>] (追加) ボタンをクリックすることで、選択したパフォーマンスカウンター、インスタンスが登録済みカウンターに表示されます。

カウンター指定

カウンター一覧

- [-] ディスク
 - [+] 1 秒あたりの平均書き込み要求
 - [-] t10.ATA_HGST_HUS722T2TALA604
 - [-] t10.ATA_HGST_HUS722T2TALA604
 - [-] t10.ATA_HGST_HUS722T2TALA604
 - [-] t10.ATA_HGST_HUS722T2TALA604
 - [+] 1 秒あたりの平均読み取り要求
 - [+] 1 秒あたりの平均発行コマンド
 - [+] カーネル コマンド遅延
 - [+] カーネル書き込み遅延
 - [+] カーネル読み取り遅延
 - [+] キュー コマンド遅延
 - [+] キューの最大深度
 - [+] キュー書き込み遅延
 - [+] キュー読み取り遅延
 - [+] コマンド遅延
 - [+] バスリセット
 - [+] 使用状況
 - [+] 書き込み速度
 - [+] 書き込み遅延
 - [+] 書き込み要求
 - [+] 遅延の最大値
 - [+] 中止されたコマンド
 - [+] 読み取り速度

>

登録済みカウンター

グループ	カウンター	インスタンス	単位
ディスク	1 秒あたりの平均...	t10.ATA_HGS...	個
ディスク	1 秒あたりの平均...	t10.ATA_HGS...	個
ディスク	1 秒あたりの平均...	t10.ATA_HGS...	個
ディスク	1 秒あたりの平均...	t10.ATA_HGS...	個

全削除 削除

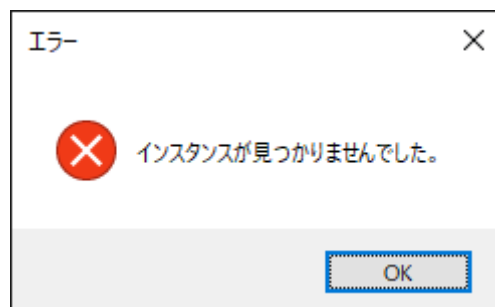
カウンター説明

収集間隔中の 1 秒あたりの平均ディスク書き込み回数

[単位:個]

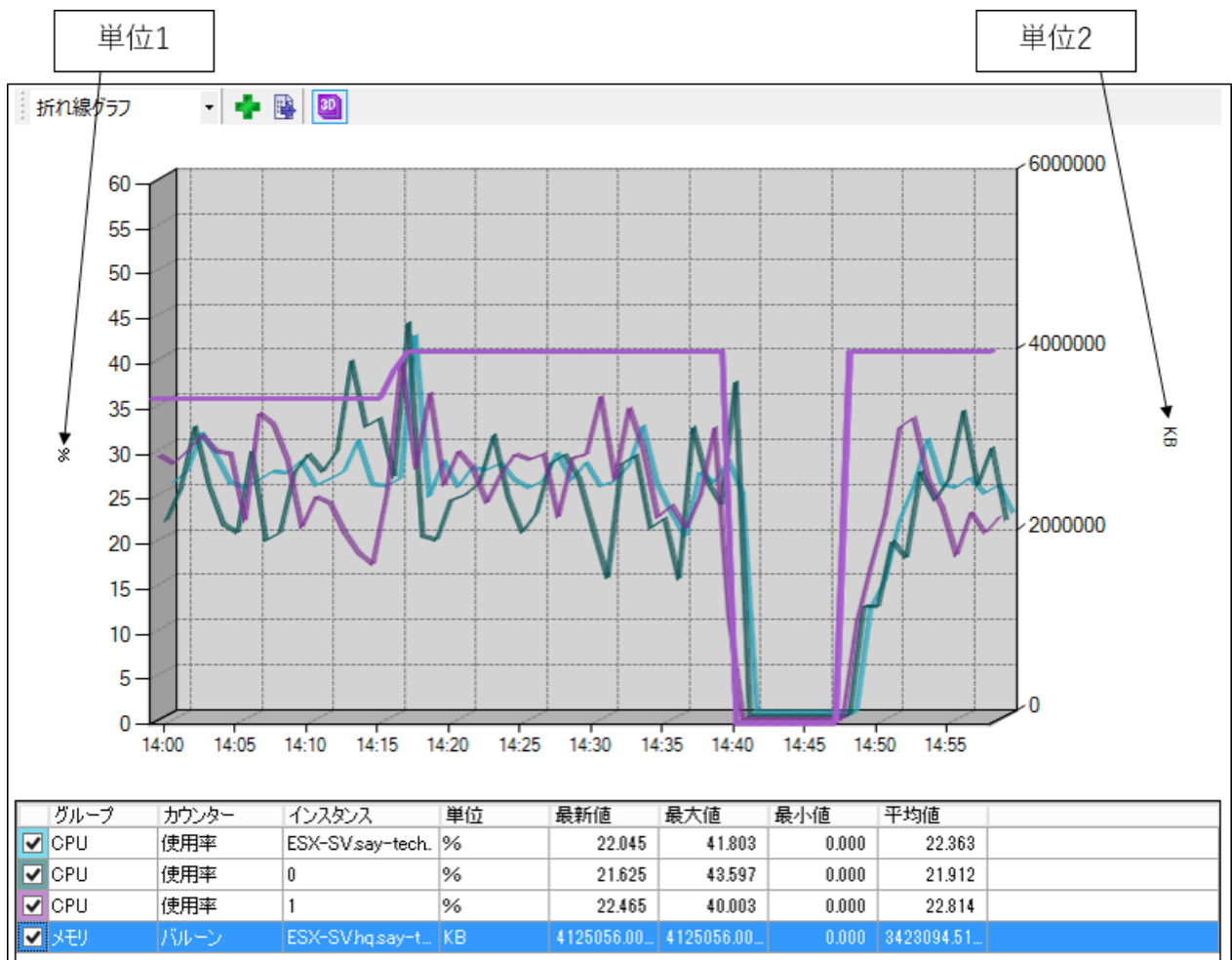
OK キャンセル

また、インスタンスがないパフォーマンスカウンター選択して、[>] (追加) ボタンをクリックした場合、以下のメッセージが表示されてパフォーマンスカウンターの登録に失敗します。



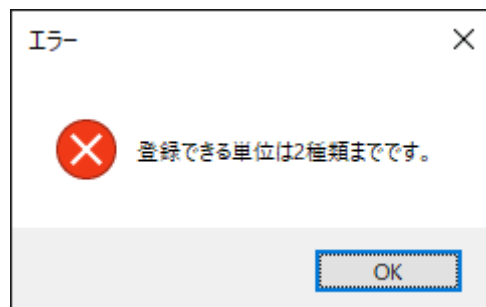
1つのチャートには、複数のパフォーマンスカウンターを登録できます。ただし、"単位"の数による制限があります。

グラフ領域では、1つ目の単位が軸線の左側、2つ目の単位が軸線の右側に表示されます。



各パフォーマンスカウンターの"単位"は、"カウンター指定"ダイアログの"カウンター説明"領域、または"登録済みカウンター"領域の"単位"列で確認できます。

- 既に2つの単位が登録されている状態で[>] (追加) ボタンをクリックした場合、以下のメッセージが表示され、パフォーマンスカウンターの登録に失敗します。



- "登録済みカウンター"領域

"登録済みカウンター"領域には、登録したパフォーマンスカウンターの一覧が表示されます。

"グループ"、"カウンター"、"インスタンス"および"単位"の4つの情報を表示します。

登録済みカウンター			
グループ ▲	カウンター	インスタンス	単位
CPU	スワップの待機	say-vm10.say-te...	ミリ秒
ディスク	1秒あたりの平均...	t10.ATA__HGS...	個
ディスク	1秒あたりの平均...	t10.ATA__HGS...	個
ディスク	1秒あたりの平均...	t10.ATA__HGS...	個
ディスク	1秒あたりの平均...	t10.ATA__HGS...	個

- [全削除]ボタン

[全削除]ボタンをクリックすることで、"登録済みカウンター"領域のパフォーマンスカウンター一覧から、すべての行を削除します。

- [削除]ボタン

"登録済みカウンター"領域のパフォーマンスカウンター一覧にて任意の行を選択し、[削除]ボタンをクリックすることで、選択した行を一覧から削除します。

- [OK]ボタン

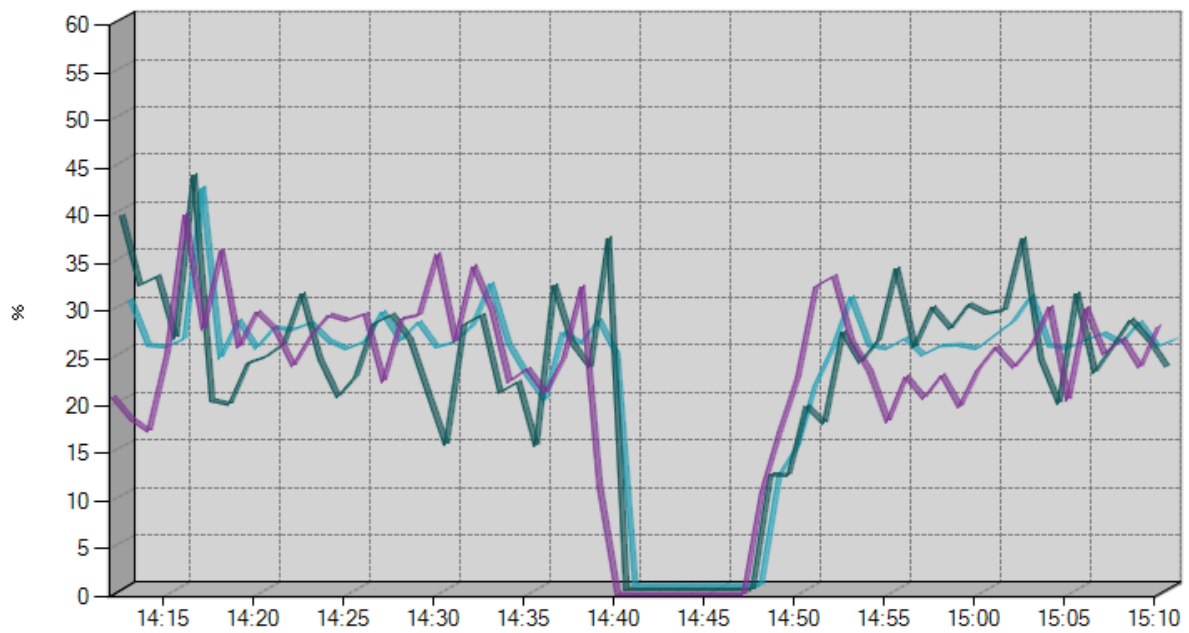
[OK]ボタンをクリックすることで、指定のパフォーマンスカウンターをグラフ領域およびリスト表領域に表示します。

- [キャンセル]ボタン

[キャンセル]ボタンをクリックすることで、変更した設定を破棄します。

F. グラフ領域

グラフ領域では、指定したパフォーマンスカウンタについて、表示期間指定バーで指定した時間帯の内容をチャートで表示します。



グラフ領域で表示されるグラフの表示期間は、既定では1時間です。また、サンプリング間隔（表示間隔）は1分（自動計算）です。

表示期間、サンプリング間隔の変更方法については、'[メニュー"表示"](#)'の項目'["設定"コマンド](#)'を参照してください。

G. リスト表領域

リスト表領域では、指定したパフォーマンスカウンターについて、表示期間指定バーで指定した時間帯のリスト表を一覧で表示します。

	グループ	カウンター	インスタンス	単位	最新値	最大値	最小値	平均値	
<input checked="" type="checkbox"/>	CPU	使用率	ESX-SV.say-tec...	%	24.337	41.803	0.000	22.311	
<input checked="" type="checkbox"/>	CPU	使用率	0	%	15.903	43.597	0.000	22.273	
<input checked="" type="checkbox"/>	CPU	使用率	1	%	32.773	40.003	0.000	22.348	

"グループ"、"カウンター"、"インスタンス"、"単位"、"最新値"、"最大値"、"最小値"、および"平均値"の8つの情報を表示します。

※ "最大値"、"最小値"、および"平均値"は、表示期間内から抽出します。

(3) 「ハードウェア健全性」タブ

「ハードウェア健全性」タブでは、ESXホストのハードウェア状態を確認できます。

※ コンピューターツリービュー領域で仮想マシンを選択した場合、「ハードウェア健全性」のタブは表示されません。

サマリー	パフォーマンス	ハードウェア健全性	
センサー			
プロセッサ			
✓ Proc 1		標準	
✓ Proc 1 Level-1 Cache is 32768 B		標準	
✓ Proc 1 Level-2 Cache is 4194304 B		標準	
✓ Proc 1 Level-3 Cache is 0 B		標準	
システム			
✓ VMware Rollup Health State		標準	
ソフトウェア コンポーネント			
✓ HP System BIOS D20 2006-02-08 00:00:00.000		標準	
✓ VMware, Inc. VMware ESXi 5.1.0 build-799733 2012-08-01 00:...		標準	
✓ VMware, Inc. VMware ESXi Alternate Boot Bank 5.1.0 build-79...		標準	
✓ hp hpnmi 2.0.11-434156 2011-07-29 20:49:52.000		標準	
✓ VMware sata-sata-promise 2.12-3vmw.510.0.0.799733 2012-08-...		標準	
✓ VMware esx-xserver 5.1.0-0.0.799733 2012-08-02 03:01:09.000		標準	
✓ QLogic ima-qla4xxx 500.2.01.31-1vmw.0.0.011509 2012-01-15 ...		標準	
✓ VMware scsi-megaraid-sas 5.34-4vmw.510.0.0.799733 2012-0-...		標準	
✓ Broadcom net-tg3 3.123b.v50.1-IOEM.500.0.0.472560 2012-04-...		標準	
✓ VMware scsi-ips 7.12.05-4vmw.510.0.0.799733 2012-08-02 03:...		標準	
✓ QLogic scsi-qla4xxx 624.01.43-IOEM.500.0.0.472560 2012-02-...		標準	
✓ VMware net-e1000e 1.1.2-3vmw.510.0.0.799733 2012-08-02 03:...		標準	
✓ Hewlett-Packard hponcfg 04-00.10 2011-11-13 02:13:04.000		標準	
✓ VMware net-e1000 8.0.3.1-2vmw.510.0.0.799733 2012-08-02 03:...		標準	
✓ Hewlett-Packard hpacucli 9.20-9.0 2012-06-06 22:33:14.000		標準	
✓ Hewlett-Packard scsi-hpvsa 5.0.0-36OEM.500.0.0.472560 2012-...		標準	
✓ VMware scsi-mptspi 4.23.01.00-6vmw.510.0.0.799733 2012-08-...		標準	
✓ VMware ata-pata-hpt3x2n 0.3.4-3vmw.510.0.0.799733 2012-08-...		標準	
✓ VMware net-s2io 2.1.4.13427-3vmw.510.0.0.799733 2012-08-02-...		標準	
✓ VMware esx-dvfilter-generic-fastpath 5.1.0-0.0.799733 2012-0-...		標準	
✓ VMware scsi-lpfc820 8.2.3.1-127vmw.510.0.0.799733 2012-08-...		標準	
✓ VMware ata-pata-amd 0.3.10-3vmw.510.0.0.799733 2012-08-0-...		標準	
✓ VMware tools-light 5.1.0-0.0.799733 2012-08-02 03:01:09.000		標準	
日時	グループ	センサー	メッセージ

A. ハードウェアリスト表領域

「ハードウェア健全性」タブの上部はハードウェアリスト表領域です。

ハードウェアリスト表領域では、センサー（ハードウェアの機能名称）の一覧を表示します。

- "センサー"

ESXホスト上のセンサーを表示します。

- "状態"

各センサーの状態が以下のいずれの状態にあるかを表示します。

アイコン	状態	説明
	標準	センサーは健全な状態です。
	警告	センサーに軽微な問題が発生しています。
	アラート	センサーに重大な問題が発生しています。
	不明	センサーの状態が確認できません。

- "現在値"

値が存在するセンサーについて、最新の情報を表示します。

値を持たないセンサーは、"現在値"は表示されません。

B. 状態変化履歴表示領域

「ハードウェア健全性」タブの下部は状態変化履歴表示領域です。

状態変化履歴表示領域では、センサー（ハードウェアの機能名称）の状態が変化した際に履歴を残します。

- "日時"
状態の変化を検出した日時を表示します。
- "グループ"
状態が変化したセンサーの所属するグループを表示します。
- "センサー"
状態が変化したセンサーを表示します。
- "メッセージ"
状態が変化した際の状況を表示します。

(4) CSV出力ウィザード

VMware ログビューアーの「パフォーマンス」タブにて[CSV出力]ボタンをクリックすることで、CSV出力ウィザードが起動します。

CSV出力ウィザードでは、選択したカウンターの情報をCSVファイルとして出力できます。

A. 出力期間設定

ウィザードを起動すると、この出力期間設定画面が表示されます。

- "出力期間"欄

"出力期間"欄には、CSV出力対象の開始日および終了日を指定します。既定値として、VMware ログビューアーの「パフォーマンス」タブにて指定した表示期間が設定されています。

[▼] (プルダウン) ボタンをクリックすることでカレンダーを表示し、そこから期間を設定することもできます。

- "出力フォルダー"欄

"出力フォルダー"欄には、CSVファイルの出力先フォルダーを指定します。初回起動時には、既定値としてCSV出力ウィザードを実行しているユーザーのドキュメントフォルダーが設定されています。

- [参照]ボタン

出力フォルダーをコンピューターのフォルダー一覧から選択したい場合、[参照]ボタンをクリックします。

- "サンプリング間隔"欄

"サンプリング間隔"欄には、サンプリング間隔 (表示間隔) を指定します。

単位は分で、1から500000の整数を入力できます。また、数値以外に" (実値) " "および" (自動) "を指定できます。

また、[▼] (プルダウン) ボタンをクリックすることで、" (実値) "、" (自動) "、"1"分、"60"分 (1時

間)、"1440"分 (1日) から選択できます。サンプリング間隔に" (自動) "を指定した場合には、出力期間を元にCSV出力ウィザードが適切なサンプリング間隔を自動設定します。

※ 出力する期間に応じて最低単位は変わります。

CSV出力ウィザードは、サンプリング間隔ごとに平均値を算出した値をCSVファイルに出力します。集計元となるデータは、監視項目"VMware ビューアーデータ収集"が収集したデータです。ただし、サンプリング間隔に" (実値) "を指定した場合には、データの平均値を算出しません。監視項目"VMware ビューアーデータ収集"が収集したデータをそのままCSVファイルに出力します。

- [開始]ボタン

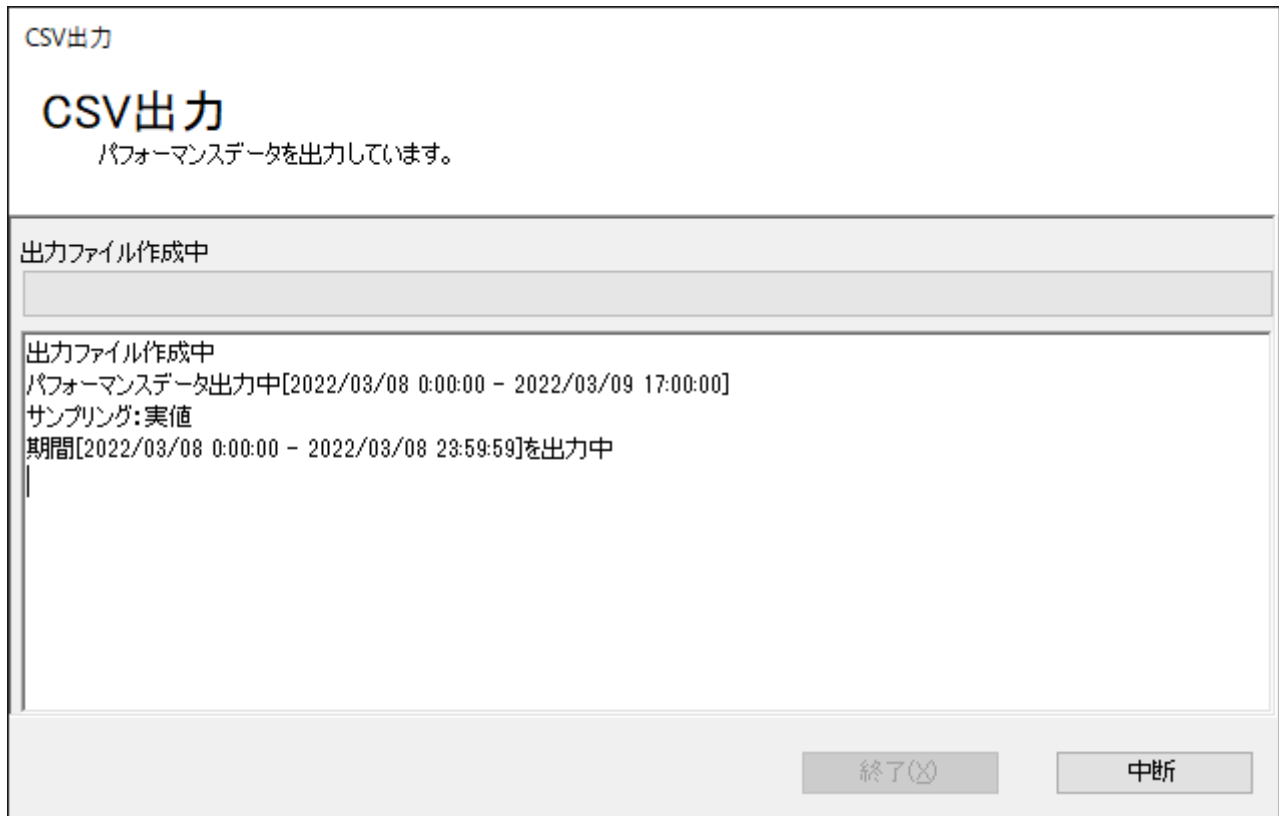
[開始]ボタンをクリックすることで、CSVファイルへの出力が開始します。

- [キャンセル]ボタン

[キャンセル]ボタンをクリックすることで、CSV出力を中断して、CSV出力ウィザードを終了します。

B. ファイル出力中

[開始]ボタンをクリックし、CSVファイルへの出力が開始すると、このファイル出力中画面が表示されます。



- [中断]ボタン

[中断]ボタンをクリックすることで、中断を確認する警告ダイアログが表示されます。

警告ダイアログにて[はい]ボタンをクリックすることで、CSVファイルの出力を中断します。ただし、中断する前に出力されたデータがCSVファイルとして作成されていた場合、このCSVファイル自体は削除されません。

C. ファイル出力完了

CSVファイルへの出力が完了すると、このファイル出力完了画面が表示されます。

CSV出力

CSV出力

パフォーマンスデータを出力しています。

終了しました。

出力ファイル作成中
パフォーマンスデータ出力中[2022/03/08 0:00:00 - 2022/03/09 17:00:00]
サンプリング:実値
期間[2022/03/08 0:00:00 - 2022/03/08 23:59:59]を出力中
期間[2022/03/09 0:00:00 - 2022/03/09 17:00:00]を出力中
出力完了

出力フォルダーを開く

終了 (X) 中断

- "出力フォルダーを開く"チェックボックス

"出力フォルダーを開く"チェックボックスのチェックが入っている場合、終了時に'[出力期間設定](#)'で指定した出力フォルダーが開きます。

- [終了]ボタン

[終了]ボタンをクリックすることで、CSV出力ウィザードを終了します。

D. CSVフォーマット

出力されたCSVファイルは以下の形式で保存されます。

- 1行目

CSVヘッダーがカンマ区切りで出力されます。

- 2行目以降

日時、ターゲット、グループ、カウンター、カウンターID、インスタンス、値、単位の順に、カンマ区切りで出力されます。

CSVファイルをメモ帳などのテキストエディタで開くと、ファイルの内容を確認できます。以下は、CSVファイルの出力例としてファイルの一部を抜粋したものです。

```
日時,ターゲット,グループ,カウンター,カウンターID,インスタンス,値,単位
2022/02/25 19:01:40,ESX-SV,メモリ,使用量,65536,ESX-SV,91.08,%
2022/02/25 19:01:40,ESX-SV,メモリ,合計容量,65625,ESX-SV,1078,MB
2022/02/25 19:02:40,ESX-SV,メモリ,使用量,65536,ESX-SV,90.91,%
2022/02/25 19:02:40,ESX-SV,メモリ,合計容量,65625,ESX-SV,1078,MB
```

なお、上記の出力例は、以下のテーブルと同じ意味を示します。

日時	ターゲット	グループ	カウンター	カウンターID	インスタンス	値	単位
2022/02/25 19:01:40	ESX-SV	メモリ	使用量	65536	ESX-SV	91.08	%
2022/02/25 19:01:40	ESX-SV	メモリ	合計容量	65625	ESX-SV	1078	MB
2022/02/25 19:02:40	ESX-SV	メモリ	使用量	65536	ESX-SV	90.91	%
2022/02/25 19:02:40	ESX-SV	メモリ	合計容量	65625	ESX-SV	1078	MB

4. メニューバー

VMware ログビューアーには"ファイル"、"表示"の2つのメニューがあります。各メニューの使用方法は以下のとおりです。

(1) メニュー"ファイル"

メニュー"ファイル"には、以下の4つのコマンドがあります。

- "レポート出力"
- "設定のエクスポート"
- "設定のインポート"
- "終了"

A. "レポート出力"コマンド

"レポート出力"コマンドは、レポート出力ウィザードを起動します。

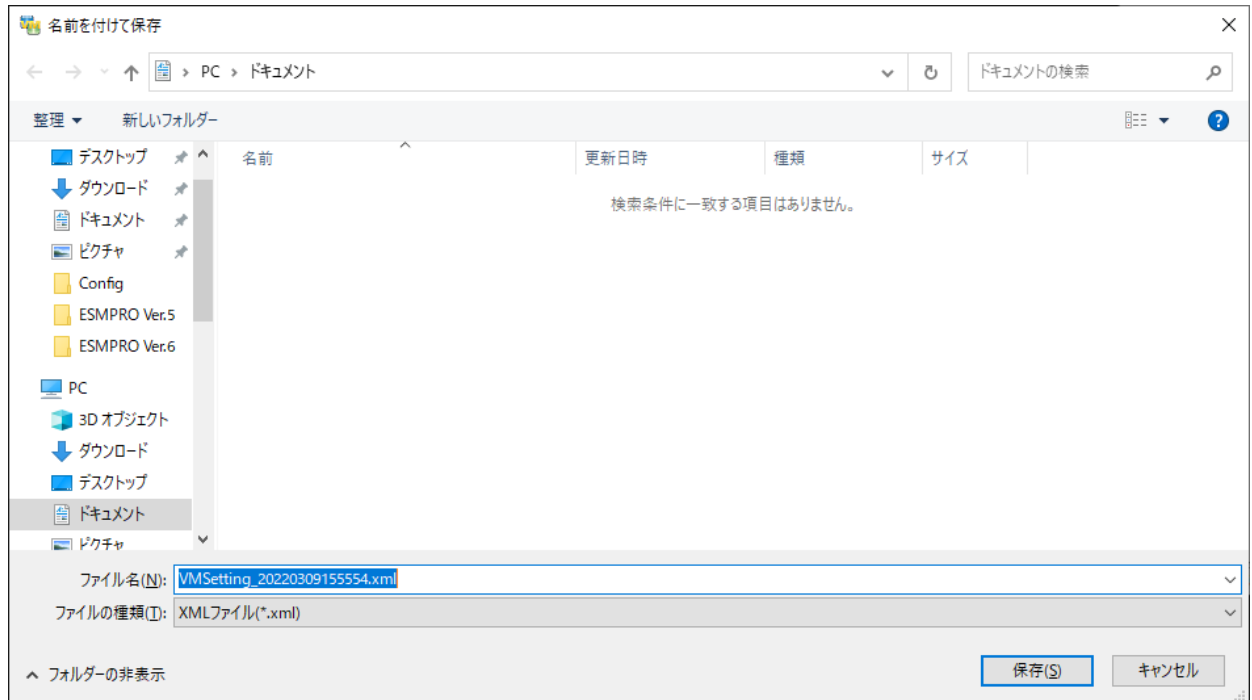
レポート出力ウィザードの使用方法については'[レポート出力](#)'を参照してください。

B. "設定のエクスポート"コマンド

"設定のエクスポート"コマンドは、VMware ログビューアーの設定情報をエクスポート（保存）します。

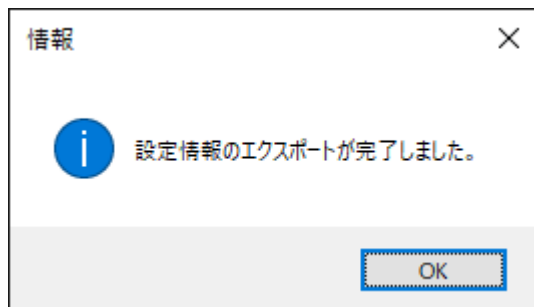
1. "設定のエクスポート"コマンドを選択すると"名前を付けて保存"ダイアログが表示されます。

任意のフォルダーを指定して[保存]ボタンをクリックします。



2. 保存が完了すると以下のメッセージが表示されます。

[OK]ボタンをクリックし、メッセージを閉じます。

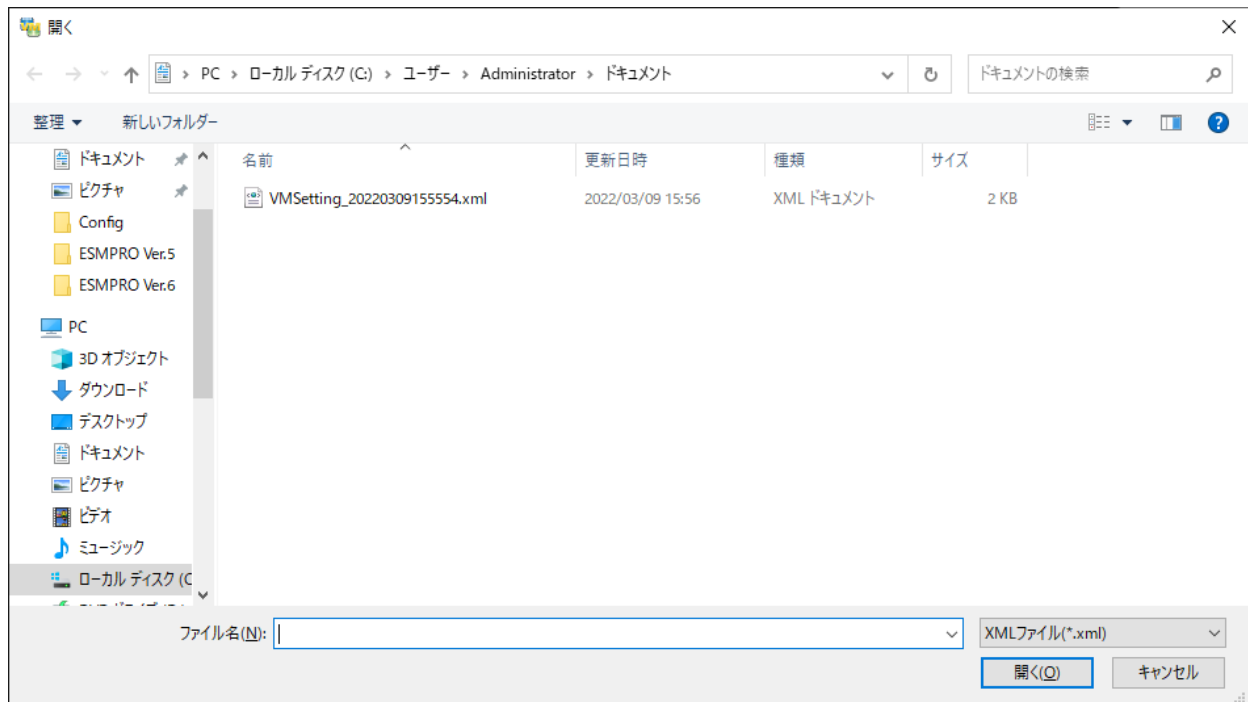


C. "設定のインポート"コマンド

"設定のインポート"コマンドは、エクスポートされたVMware ログビューアーの設定情報をインポート（復元）します。

1. "設定のインポート"コマンドを選択すると"開く"ダイアログが表示されます。

インポートしたいVMware ログビューアーの設定ファイルを選択して開きます。



D. "終了"コマンド

"終了"コマンドは、VMware ログビューアーを終了します。

(2) メニュー"表示"

メニュー"表示"には、以下の2つのコマンドがあります。

- "設定"
- "更新"

A. "設定"コマンド

"設定"コマンドは、設定ダイアログを表示します。

設定

全般

更新周期 5 分

サマリー

サンプリング間隔 表示期間

自動 10 分 1 日 0 時間

Y軸の最大値を固定する Y軸の目盛を表示する

パフォーマンス

サンプリング間隔 表示期間

自動 1 分 0 日 1 時間

チャート数 全画面

ハードウェア健全性

履歴期間 0 日 1 時間

※ 設定を反映するためにはアプリケーションの再起動が必要です。

OK キャンセル

- "全般"領域 - "更新周期"欄

"全般"領域の"更新周期"欄には、VMware ログビューアーを自動更新する間隔を指定します。

最新の収集データを元にVMware ログビューアーを定期的に再表示します。

- 更新周期の数値入力欄は1から1000までの整数を入力でき、それ以外の数値を入れた場合には入力制限内で一番近い値に丸めます。
- 単位は"分"、"時"から選択できます。

なお、更新周期の上限は596時間です。それ以上の値を入れた場合にはエラーとなり、設定が行えません。

- "サマリー"領域 - "サンプリング間隔"欄

"サマリー"領域の"サンプリング間隔"欄は、「サマリー」タブに表示されるグラフのサンプリング間隔（表示間隔）です。

グラフで使用している値は、サンプリング間隔ごとに平均値を算出しています。

- "自動"チェックボックスでは、サンプリング間隔をVMware ログビューアーに自動設定させるための機能をオン/オフできます。

チェックボックスにチェックが入っている状態では、表示期間を元に適切なサンプリング間隔を自動設定します。

チェックボックスのチェックが外れている状態では、任意のサンプリング間隔を指定できます。

- サンプル間隔の数値入力欄は1から1000までの整数を入力でき、それ以外の数値を入れた場合には入力制限内で一番近い値に丸めます。
- 単位は"秒"、"分"、"時"から選択できます。

なお、サンプル間隔の最小値は、表示期間によって変動します。

サマリーのグラフを作成するのに使用可能なデータ件数は最大で200件までのため、表示期間をサンプル間隔で割った値が200以下になるように、サンプル間隔を調整する必要があります。

- "サマリー"領域 - "表示期間"欄

"サマリー"領域の"表示期間"欄は、「サマリー」タブに表示されるグラフの表示期間（X軸）です。

"日"と"時間"の2つの単位で指定できます。

- "日"の数値入力欄は0から99までの整数を入力できます。
- "時間"の数値入力欄は0から23までの整数を入力できます。
- それ以外の数値を入れた場合は入力制限内で一番近い値に丸めます。

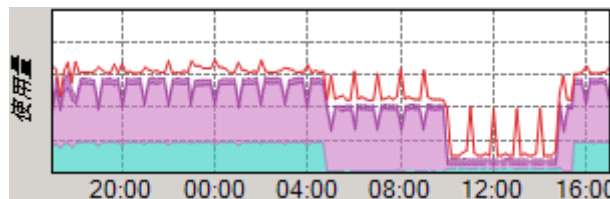
"表示期間"欄には、1時間以上（"日"または"時間"に正の数）を入力する必要があります。どちらも数値入力欄にも0を入力した場合はエラーとなり、設定が行えません。

- "サマリー"領域 -- "Y軸の最大値を固定する"チェックボックス

"サマリー"領域の"Y軸の最大値を固定する"チェックボックスは、「サマリー」タブに表示されるグラフのY軸（データ軸）の目盛の最大値を変更する機能です。

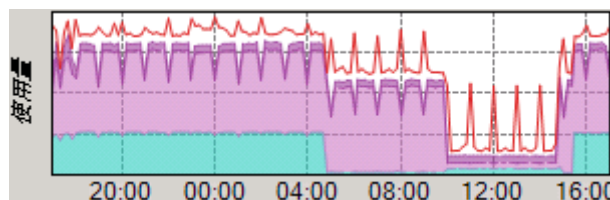
- チェックボックスにチェックが入っている状態

各グラフの目盛の最大値はVMware ログビューアーが内部で保持している推奨値が設定されます。



- チェックボックスのチェックが外れている状態

表示期間中の最大値が目盛の最大値に設定されます。

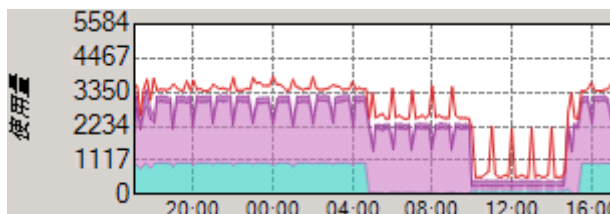


- "サマリー"領域 -- "Y軸の目盛を表示する"チェックボックス

"サマリー"領域の"Y軸の目盛を表示する"チェックボックスは、「サマリー」タブに表示されるグラフのY軸（データ軸）の目盛を表示する機能です。

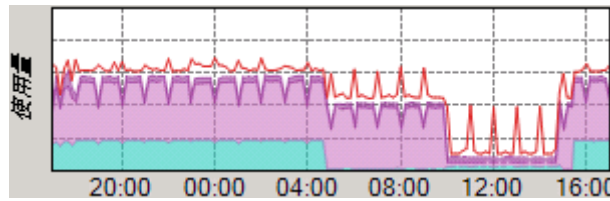
- チェックボックスにチェックが入っている状態

目盛線ごとに目盛が表示されます。



- チェックボックスのチェックが外れている状態

目盛が表示されません。



- "パフォーマンス"領域 - "サンプリング間隔"

"パフォーマンス"領域の"サンプリング間隔"欄は、「パフォーマンス」タブに表示されるグラフのサンプリング間隔（表示間隔）です。

グラフで使用している値は、サンプリング間隔ごとに平均値を算出しています。

- "自動"チェックボックスでは、サンプリング間隔をVMware ログビューアーに自動設定させるための機能をオン/オフできます。

チェックボックスにチェックが入っている状態では、表示期間を元に適切なサンプリング間隔を自動設定します。

チェックボックスのチェックが外れている状態では、任意のサンプリング間隔を指定できます。

- サンプリング間隔の数値入力欄は1から1000までの整数を入力でき、それ以外の数値を入れた場合には、入力制限内で一番近い値に丸めます。
- 単位は"秒"、"分"、"時"から選択できます。

なお、サンプリング間隔の最小値は、表示期間によって変動します。

パフォーマンスのグラフを作成するのに使用可能なデータ件数は最大で600件までのため、表示期間をサンプリング間隔で割った値が600以下になるように、サンプリング間隔を調整する必要があります。

- "パフォーマンス"領域 - "表示期間"欄

"パフォーマンス"領域の"表示期間"欄は、「パフォーマンス」タブに表示されるグラフの表示期間（X軸）です。

"日"と"時間"の2つの単位で指定できます。

- "日"の数値入力欄は0から99までの整数を入力できます。
- "時間"の数値入力欄は0から23までの整数を入力できます。
- それ以外の数値を入れた場合は入力制限内で一番近い値に丸めます。

"表示期間"欄には、1時間以上（"日"または"時間"に正の数を入力する必要があります。どちらも数値入力欄にも0を入力した場合、「パフォーマンスの表示期間を0秒に設定できません。」というエラーが発生し、設定が行えません。

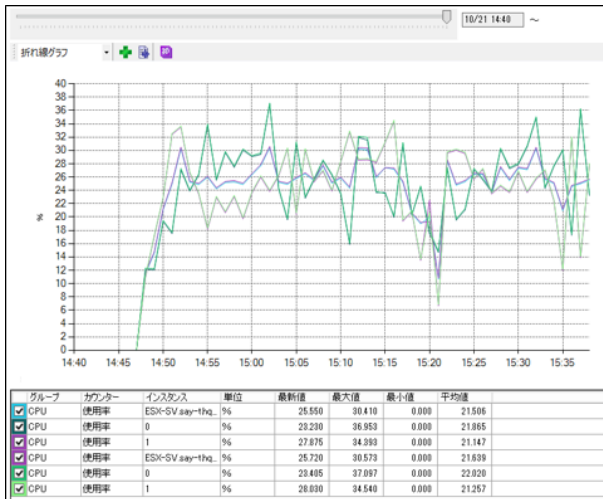
- "パフォーマンス"領域 - "チャート数"欄

"パフォーマンス"領域の"チャート数"欄では、「パフォーマンス」タブに表示するチャート（グラフおよびリスト表）の数と表示方法を指定します。

チャート数は"全画面"、"分割（左右）"、"分割（上下）"、"4分割"から、プルダウン方式で選択できます。

- "全画面"を選択した際は、1つのチャートを表示します。
- "分割（左右）"を選択した際は、2つのチャートを左右に表示します。
- "分割（上下）"を選択した際は、2つのチャートを上下表示します。
- "4分割"を選択した際は、4つのチャートを表示します。

【左図："全画面"、右図："分割（左右）"】



【左図："分割（上下）"、右図："4分割"】



● "ハードウェア健全性"領域 - "履歴期間"欄

"ハードウェア健全性"領域の"履歴期間"欄では、「ハードウェア健全性」タブに表示される状態変化履歴の検知期間を指定します。"日"と"時間"の2つの単位で指定できます。

- "日"の数値入力欄は0から365までの整数を入力できます。
- "時間"の数値入力欄は0から23までの整数を入力できます。
- それ以外の数値を入れた場合には、入力制限内で一番近い値に丸めます。

B. "更新"コマンド

"更新"コマンドは、VMware ログビューアーの表示を最新の収集データを元に更新します。

5. レポート出力

メニューバーにて、"ファイル"→"レポート出力"をクリックすることでレポート出力ウィザードが起動します。

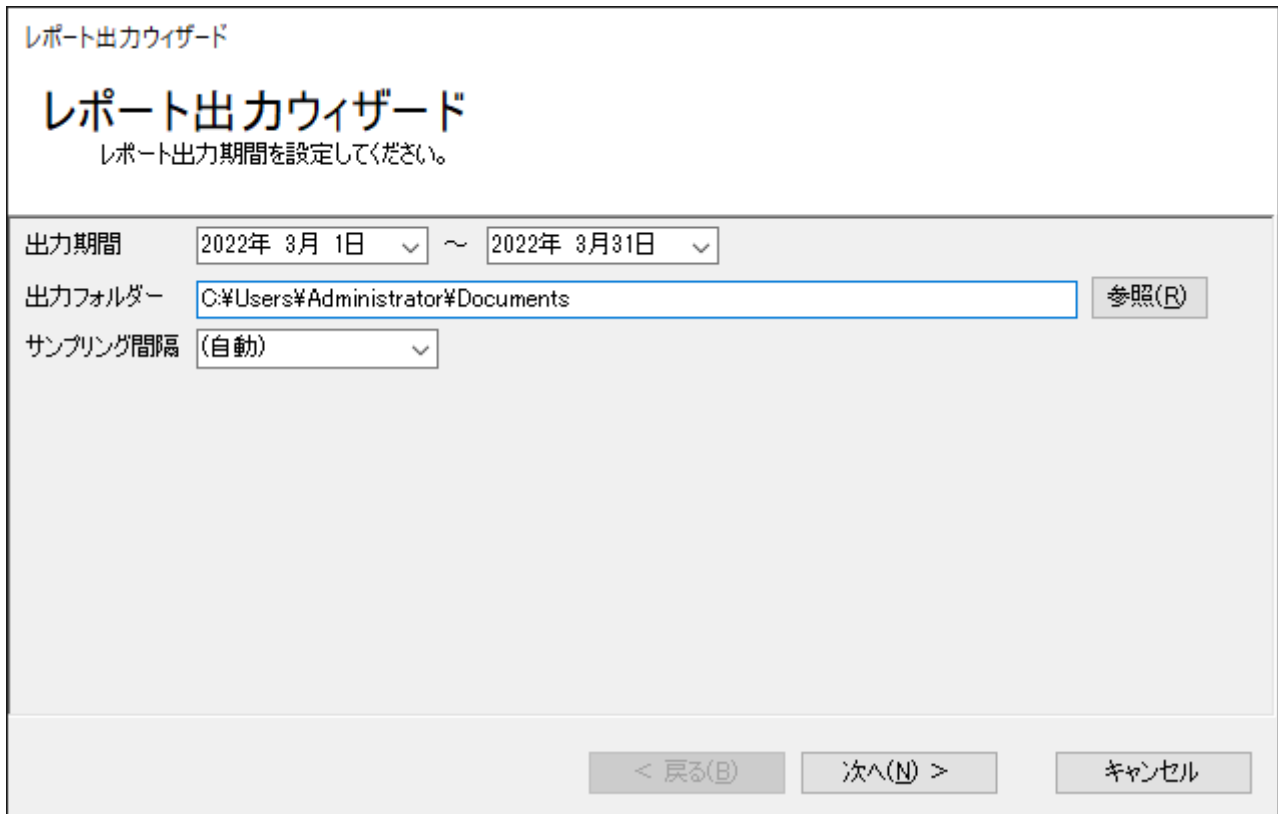
レポート出力ウィザードの使用方法および出力されたレポートについてご案内いたします。

(1) レポート出力ウィザード

レポート出力ウィザードでは、ESXホストのレポートを出力できます。

A. 出力期間設定

ウィザードを起動すると、この出力期間設定画面が表示されます。



- "出力期間"欄

"出力期間"欄には、レポート出力対象の開始日および終了日を指定します。既定値として、開始日には前月の月初、終了日には前月の月末が設定されています。

[▼] (プルダウン) ボタンをクリックすることでカレンダーを表示し、そこから期間を設定することもできます。

- "出力フォルダー"欄

"出力フォルダー"欄には、レポートファイルの出力先フォルダーを指定します。初回起動時には、既定値としてレポート出力ウィザードを実行しているユーザーのドキュメントフォルダーが設定されています。

- [参照]ボタン

出力フォルダーをコンピューターのフォルダー一覧から選択したい場合、[参照]ボタンをクリックします。

- "サンプリング間隔"欄

"サンプリング間隔"欄には、サンプリング間隔（表示間隔）を指定します。

単位は分で、1から20000000の整数を入力できます。また、数値以外に"（自動）"を指定できます。サンプリング間隔に"（自動）"を指定した場合には、出力期間を元にレポート出力ウィザードが適切なサンプリング間隔を自動設定します。

※ 選択できる整数は出力期間などにより変動するため、必ずしも1分から選択できるわけではありません。

レポート出力ウィザードは、サンプリング間隔ごとに平均値を算出した値をレポートファイルに出力します。

集計元となるデータは、監視項目"VMware ビューアーデータ収集"が収集したデータです。

- [次へ]ボタン

[次へ]ボタンをクリックすることで、レポート出力シートの指定画面を表示します。

- [キャンセル]ボタン

[キャンセル]ボタンをクリックすることで、レポート出力ウィザードを終了します。

B. レポート出力シートの指定

レポート出力シートの指定画面では、出力するレポートシート（レポートの内容）を選択できます。

- "レポートシート"チェックボックス

各レポートシートのチェックボックスにチェックを入れることで、レポートシートが出力対象になります。

各レポートシートの概要は以下のとおりです。詳細については'[出力レポート](#)'を参照してください。

レポートシート名	レポートシート概要
サマリー	コンピューターの稼働状況を簡単にまとめたサマリーシート
仮想マシン一覧	仮想マシンの基本情報を一覧にしたシート
システム情報	ESXホストのシステム基本情報
ハードウェア健全性	ハードウェアの状態を一覧にしたシート
パフォーマンス情報	コンピューターリソースを一覧にしたシート

- "カウンターグループを指定"チェックボックス

"レポートシート"チェックボックスで"パフォーマンス情報"にチェックを入れた場合、"カウンターグループを指定"チェックボックスが使用できます。

"カウンターグループを指定"チェックボックスにチェックを入れた場合、監視項目"VMware ビューアーデータ収集"が収集したカウンターグループの一覧が表示され、カウンターグループのチェックボックスにチェックが入っているものだけを出力します。

チェックボックスのチェックが外れている状態では、すべてのカウンターグループのデータを出力します。

- "カウンターグループ"チェックボックス

各カウンターグループのチェックボックスにて、出力したいカウンターグループを指定します。

各カウンターグループのチェックボックスは、"カウンターグループを指定"チェックボックスのチェックが入っている場合のみ動作します。

- 各カウンターグループのチェックボックスにチェックを入れた場合には、そのカウンターグループのデータを出力します。
- 各カウンターグループのチェックボックスのチェックが外れている場合には、そのカウンターグループのデータは出力しません。

- [戻る]ボタン

[戻る]ボタンをクリックすることで、出力期間設定画面を表示します。

- [開始]ボタン

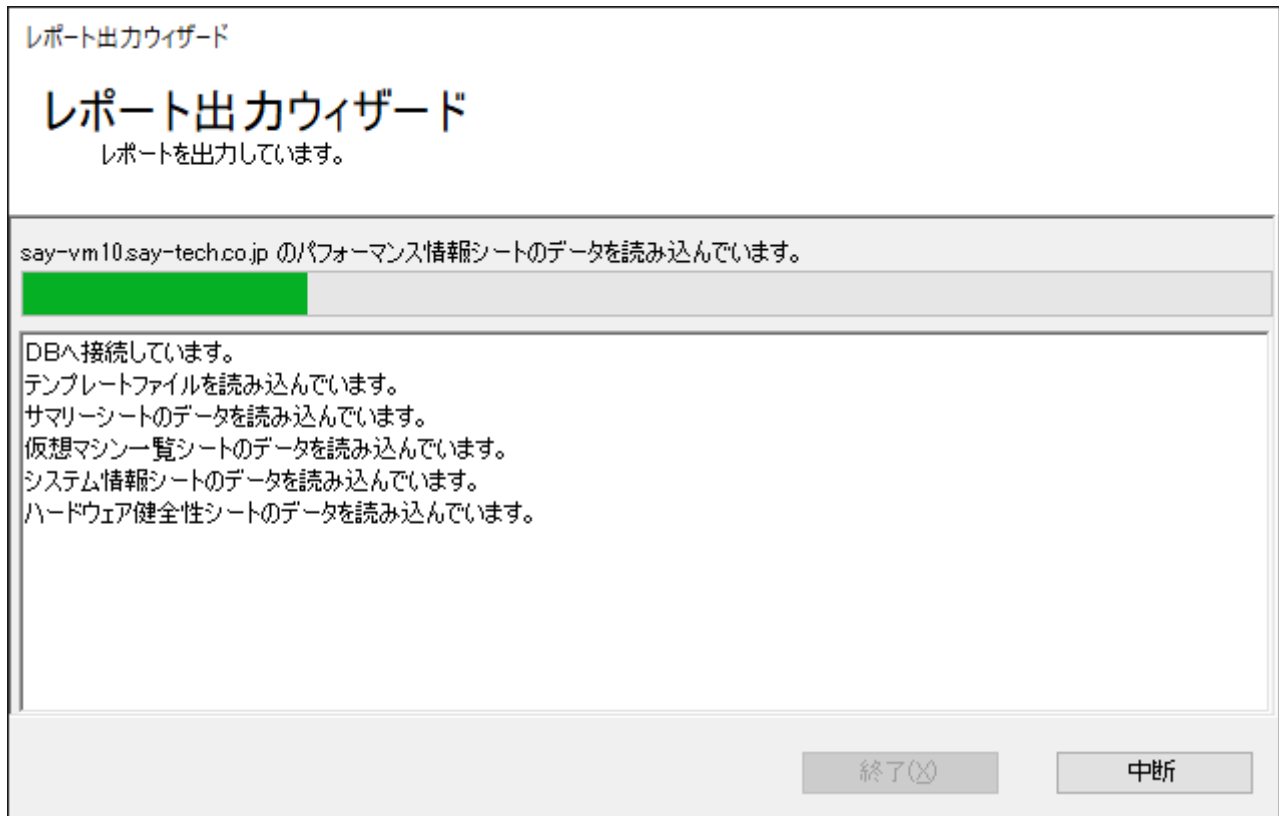
[開始]ボタンをクリックすることで、レポートの出力を開始します。

- [キャンセル]ボタン

[キャンセル]ボタンをクリックすることで、レポート出力ウィザードを終了します。

C. レポート出力中

[開始]ボタンをクリックし、レポートの出力を開始すると、このレポート出力中画面が表示されます。



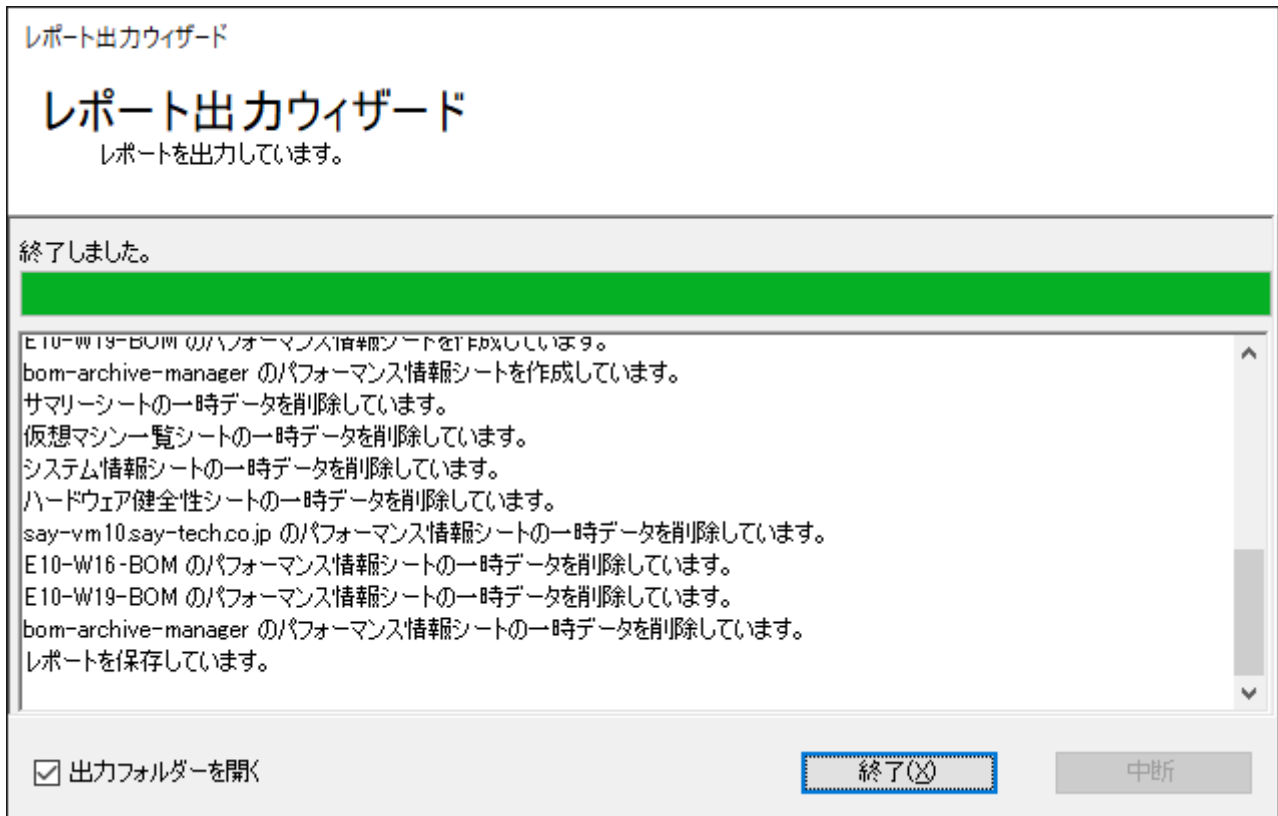
- [中断]ボタン

[中断]ボタンをクリックすると中断を確認する警告ダイアログが表示されます。

この警告ダイアログで[はい]をクリックすると、レポートファイルの出力を中断します。

D. レポート出力完了

レポートの出力が完了すると、このレポート出力完了画面が表示されます。



- "出力フォルダーを開く"チェックボックス

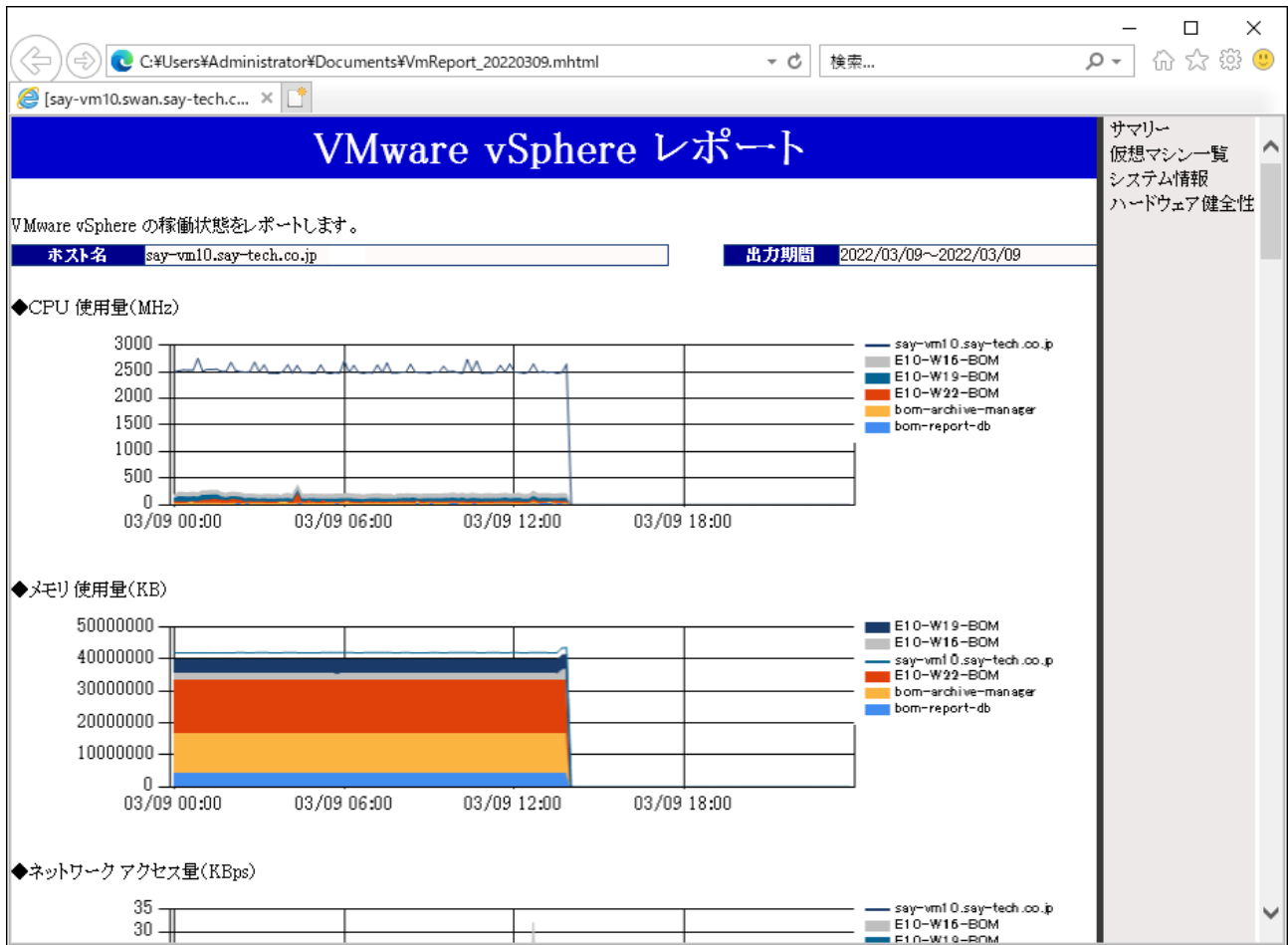
"出力フォルダーを開く"チェックボックスのチェックが入っている場合、終了時に'A.出力期間設定'の"出力フォルダー"で指定したフォルダーが開きます。

- [終了]

[終了]ボタンをクリックすることで、レポート出力ウィザードを終了します。

(2) 出力レポート

レポート出力ウィザードによって出力されるレポートの内容について紹介します。

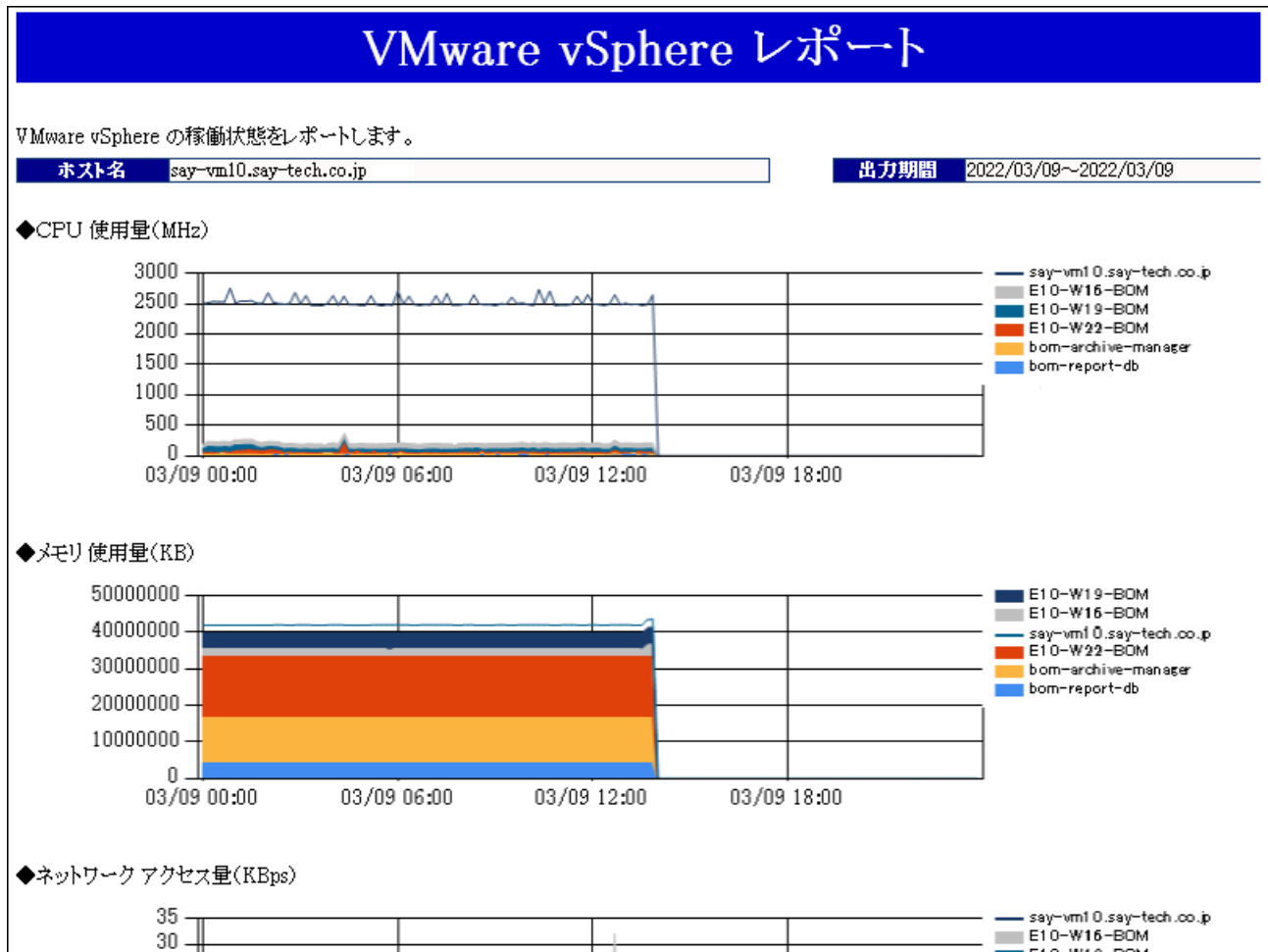


A. レポートの概要

- レポートはMHTML形式で出力され、以下のウェブブラウザで表示できます。
 - Internet Explorer 11
 - Microsoft Edge (Internet Explorer モードのみ)
- レポートは以下の構成で表示されます。
 - レポート左側：データ表示領域
実際のレポート内容が表示されます。
 - レポート右側：シートメニュー領域
表示されているシート名をクリックと、該当するシートを表示します。
- レポートを印刷したした場合、ヘッダーやフッターにはページ番号や日付、URLの表記など表示するウェブブラウザの印刷レイアウト設定が使用されます。また一部のウェブブラウザでは、規定値で背景を印刷しないように設定されているため、そのまま印刷すると背景色が印刷に反映されません。これらの表示内容については、各ウェブブラウザ側で設定を変更してください。

B. レポートシート"サマリー"

レポートシート"サマリー"は、コンピューターの稼働状況を簡単にまとめたサマリーレポートです。



項目	説明
ホスト名	レポート対象のESXホスト名を表示します。
出力期間	レポート出力ウィザードの"出力期間"で指定した出力期間の開始日と終了日を表示します。
サマリー グラフ	"CPU使用量"、"メモリ使用量"、"ネットワークアクセス量"、"ディスクアクセス量"、"データストア使用率"のグラフを表示します。

C. レポートシート"仮想マシン一覧"

レポートシート"仮想マシン一覧"は、ESXホストに登録された仮想マシンの主要情報をまとめたレポートです。

仮想マシン一覧						
						仮想マシン数: 5
仮想マシン名	状態	ゲストOS	CPU数	メモリ	使用済みストレージ	IPアドレス
bom-archive-manager	パワーオン (2021/10/18 07:35)	Microsoft Windows Server 2016 (64ビット)	1	4096 MB	25.06 GB	580::d27:9d11::8052::c30, 172.21.1.117
ESX-RHEL7.6	パワーオン (2021/12/22 16:27)	Red Hat Enterprise Linux 7 (64ビット)	4	16384 MB	21.62 GB	172.21.1.27, 180::20c:291d:a42:911
E10-W16-BOM	パワーオン (2021/12/21 17:57)	Microsoft Windows Server 2016 (64ビット)	4	12288 MB	12.11 GB	400::7606:56207c:af644e, 172.21.1.65
E10-W19-BOM	パワーオン (2021/10/18 07:35)	Microsoft Windows Server 2016 (64ビット)	2	16384 MB	30.74 GB	600::3503:5189:74e6a44e, 172.21.1.68
E10-W22-BOM	パワーオン (2021/10/18 07:34)	Microsoft Windows Server 2016 (64ビット)	1	4096 MB	27.84 GB	800::647a:c7b:727444c, 172.21.1.25

【リスト表の各項目について】

項目名	説明
仮想マシン名	ESXホストにて登録した仮想マシン名
状態	仮想マシンの電源ステータスとステータス変化時間
ゲストOS	仮想マシンに導入されているOSの製品バージョン
CPU数	仮想マシンに割り当てられたCPU数
メモリ	仮想マシンに割り当てられたメモリ量
使用済みストレージ	ESXホストから割り当てられたストレージの使用容量
IPアドレス	設定されているIPアドレス

D. レポートシート"システム情報"

レポートシート"システム情報"は、ESXホストの主要情報をまとめたレポートです。

システム情報		
項目名		値
ホスト名		say-vm10.say-tech.co.jp
バージョン		ESXi 6.7.0
ベンダー		HP
モデル		ProLiant ML10 Gen9
CPU (Packages/Cores/Threads)		Intel(R) Xeon(R) E-2174G CPU @ 3.80GHz (1/4/8)
メモリ		64 GB
物理NIC 1	デバイス名	vmnic0
	リンク速度	1000 MB full duplex
	MACアドレス	4c:52:62:af:3a:0f
物理NIC 2	デバイス名	vmnic1
	リンク速度	1000 MB full duplex
	MACアドレス	4c:52:62:af:3a:0f
仮想NIC 1	デバイス名	vmk0
	MACアドレス	4c:52:62:af:3a:0f
	IPアドレス	192.168.1.100, ::80::1, 192.168.1.100
	サブネットマスク	255.255.255.0, 64
データストア 1	データストア名	datastore1
	容量	1856 GB
	タイプ	VMFS

【リスト表の各項目について】

項目名	説明
ホスト名	ESXホストのホスト名（コンピューター名）
バージョン	ESXホストの製品バージョン
ベンダー	ハードウェアベンダーの名称
モデル	ハードウェア機種
CPU (Packages/Cores/Threads) [※]	搭載されているCPUの製品名 カッコ内はCPUのソケット数、合計コア数、論理プロセッサ数
メモリ	搭載されている物理メモリ量
物理NIC	搭載されているネットワークインターフェースの情報
コンソールNIC	コンソール用途の仮想NIC情報
データストア	ESXホストのデータストア情報

※ Hyper-Threading対応の4コアCPUを2個搭載していた場合、CPUソケット数は2、CPUコア数は8、論理プロセッサ数は16となります。

E. レポートシート"ハードウェア健全性"

レポートシート"ハードウェア健全性"は、ESXホストのレポートです。

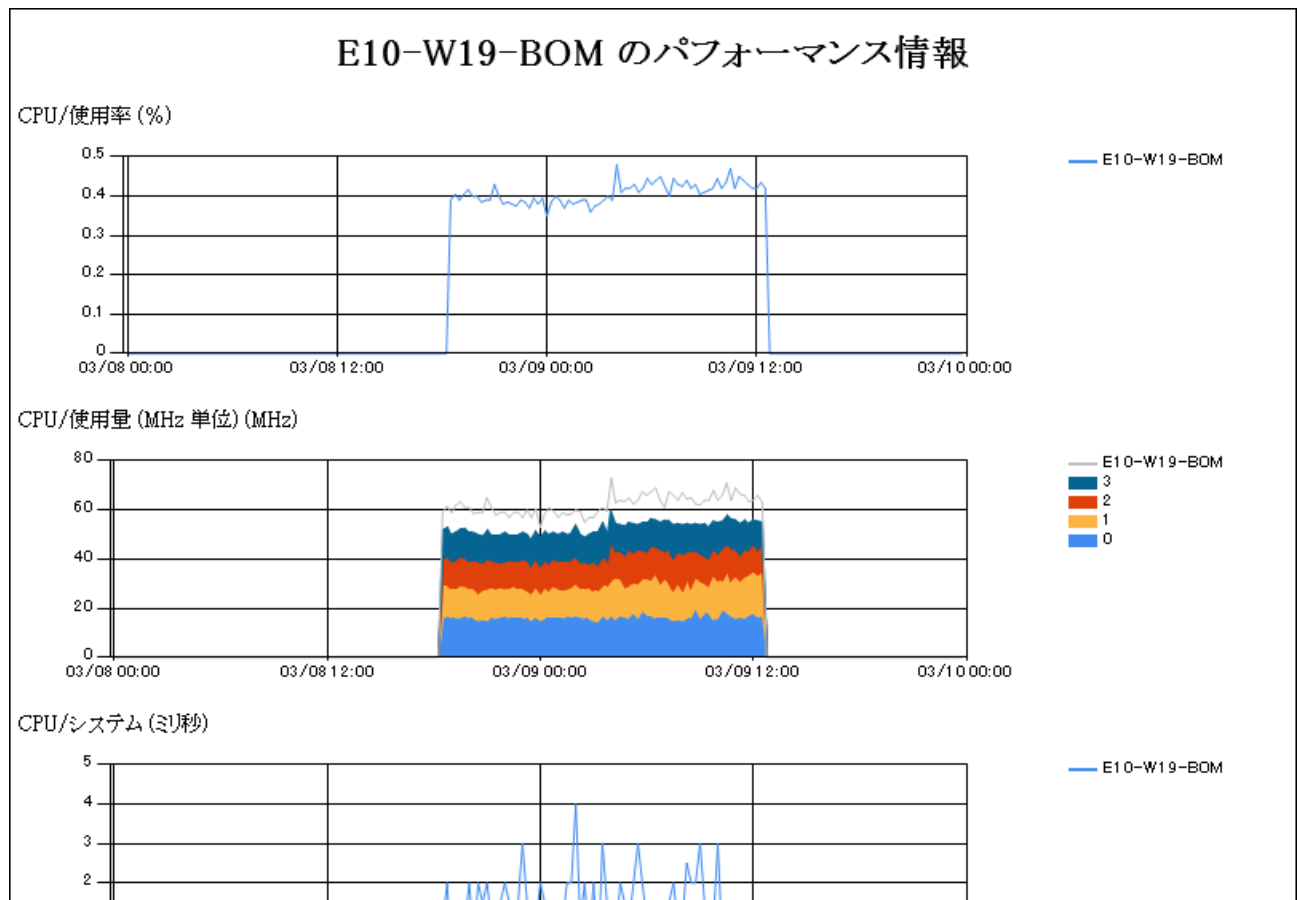
ハードウェア健全性			
グループ	センサー	ステータス	読み取り値
プロセッサ	Proc 0	🟢 標準	
	Proc 1	🟢 標準	
	Proc 10	🟡 不明	
	Proc 2	🟢 標準	
	Proc 3	🟢 標準	
	Proc 4	🟢 標準	
	Proc 5	🟢 標準	
	Proc 6	🟡 不明	
	Proc 64	🟢 標準	
	Proc 7	🟢 標準	
	Proc 8	🟢 標準	
	Proc 9	🟢 標準	
メモリ	Memory 0	🟢 標準	
	Memory 1	🟢 標準	
	Power Domain 0 Power Limit 0	🟢 標準	0.00 enabled-discrete
	Power Domain 0 Power Unit 0	🟢 標準	0.00 enabled-discrete
	Power Domain 0 PSU 0	🟢 標準	0.00 enabled-discrete
	Power Supply 0 FAN PSU 0	🟡 不明	0.00 unspecified
	Power Supply 0 PSU 0	🟢 標準	0.00 unspecified

【リスト表の各項目について】

項目名	説明
グループ	センサーの所属するグループを表示します。
センサー	ESXホスト上のセンサーを表示します。
ステータス	各センサーの状態が以下のいずれの状態にあるかを表示します。 🟢 標準、🟡 警告、🔴 アラート、🟡 不明
読み取り値	値が存在するセンサーについて、最新の情報を表示します。

F. レポートシート"パフォーマンス情報"

レポートシート"パフォーマンス情報"は、コンピューターから取得した各カウンターをもとに、パフォーマンスをグラフで表示します。



第7章 エラーメッセージ一覧

以下はVMware オプションに関連する主要なエラーメッセージです。

1. 監視項目のエラーメッセージ

VMware オプション専用監視項目のエラーメッセージは以下のとおりです。

メッセージ
致命的なエラーが発生しました。
パラメーターの設定が間違っています。
指定された値は存在しません。
ハイパーバイザーへの接続に失敗しました。
ハイパーバイザーからの切断に失敗しました。
パフォーマンスカウンターの取得に失敗しました。
値の取得に失敗しました。
ストレージ情報の取得に失敗しました。
指定したストレージは存在しません。
ゲスト情報の取得に失敗しました。
ゲストOSが起動していません。またはVMware Toolsがインストールされていません。
ステータス情報の取得に失敗しました。
ハードウェア情報の取得に失敗しました。
指定したハードウェアグループを検出できません。
指定したセンサーを検出できません。
仮想マシン情報の取得に失敗しました。
パフォーマンスデータの格納に失敗しました。
インベントリー情報の格納に失敗しました。
サーバー時刻の取得に失敗しました。
指定の列挙型種類はサポートしていません。
仮想マシン一覧の取得に失敗しました。
マシン名称の取得に失敗しました。
管理オブジェクト一覧の取得に失敗しました。
パフォーマンスカウンター情報一覧の取得に失敗しました。

メッセージ
リフレッシュレートの取得に失敗しました。
パフォーマンスカウンターインスタンス一覧の取得に失敗しました。
サーバー情報の取得に失敗しました。
ログの登録に失敗しました。
ログフィルタの作成に失敗しました。
ログの取得に失敗しました。
ログフィルタの削除に失敗しました。
ログファイルの作成に失敗しました。
ログファイルのポインター移動に失敗しました。
ログファイルのエクスポートに失敗しました。
vCenter Server接続情報の取得に失敗しました。
ユーザー情報一覧の取得に失敗しました。
イベント情報一覧の取得に失敗しました。
イベント情報一覧のファイル作成に失敗しました。
イベント情報一覧の出力に失敗しました。
タスク情報一覧の取得に失敗しました。
タスク情報一覧のファイル作成に失敗しました。
タスク情報一覧の出力に失敗しました。

2. アクション項目のエラーメッセージ

VMware オプション専用アクション項目のエラーメッセージは以下のとおりです。

メッセージ
パラメーターが不正:%s=%s
パラメーターが未設定:%s
パラメーターが未設定:%s=%s, %s=%s
BomVmAct.exe はエラーで終了しました。
BomVmAct.exe は正常に終了しました。

3. VMware ログビューアーのエラーメッセージ

VMware ログビューアーで表示されるエラーメッセージは以下のとおりです。

メッセージ
パラメーターが間違っています。[{1}] [{2}]
必須パラメーターが指定されていません。[{1}]
異なるバージョンの設定ファイルが指定されました。{0}
パフォーマンスカウンター情報の取得に失敗しました。{0}
パフォーマンス情報の取得に失敗しました。{0}
パフォーマンスカウンター情報の読み込みに失敗しました。[row:{0}]
パフォーマンスカウンター情報が不正です。[version:{0}, key:{1}]
ターゲットリスト情報の取得に失敗しました。{0}
全般情報の取得に失敗しました。{0}
最新パフォーマンス情報の取得に失敗しました。{0}
最新ストレージ情報の取得に失敗しました。{0}
ストレージチャート情報の取得に失敗しました。{0}
ハードウェア健全性情報の取得に失敗しました。{0}
ハードウェア健全性（履歴）情報の取得に失敗しました。{0}
カウンター情報の読込に失敗しました。[CounterID:{1}]
サンプリング間隔には（自動）または正の数値を設定してください。
サンプリング間隔には {0} 分以上 20000000分以下を設定してください。
サンプリング間隔には 1~600000 までの数字を設定してください。
出力期間が不正です。
指定したフォルダー({0})は存在しません。
本当に中断しますか？
パフォーマンスカウンター情報の取得に失敗しました。{0}
グループ単位の指定は行えません。
インスタンスが見つかりませんでした。
登録できる単位は2種類までです。
出力期間は1年間以内を設定してください。
サンプリング間隔が短すぎます。{0}分以上を設定してください。

メッセージ

1つ以上のシートを選択してください。

サマリーの更新期間は{0}時間以下を設定してください。

サマリーの表示期間を0秒に設定できません。0秒より長い期間を設定してください。

サマリーのサンプリング間隔が短すぎます。{0}以上を設定してください。

パフォーマンスの表示期間を0秒に設定できません。0秒より長い期間を設定してください。

パフォーマンスのサンプリング間隔が短すぎます。{0}以上を設定してください。

インスタンス[{0}]のVMwareログビューアーは既に起動されています。

サンプリング間隔には 1~20000000 までの数字を設定してください。

設定情報のエクスポートが完了しました。

設定情報のインポートに失敗しました。{0}

設定情報を変更されています。設定情報の変更が終了してから再度実行してください。

データベースに接続されていません。

ターゲットが未設定です。

カウンターIDが指定されていません。

第8章 FAQ

Q. VMware ログビューアーの「サマリー」タブや「パフォーマンス」タブに表示されるグラフが山なりで間欠表示されますが、何が原因ですか。

A. グラフの間欠表示は、データ収集間隔よりもサンプリング間隔が短いと発生します。

まず、監視項目"VMware ビューアーデータ収集"の監視間隔（データ収集間隔）を確認します。続いて、VMware ログビューアーの設定にてグラフのサンプリング間隔を確認し、サンプリング間隔がデータ収集間隔よりも短い場合にはデータ収集間隔以上の値を設定します。

Q. パフォーマンスカウンターにて、グループ"CPU"の中に"使用率"が2つありますが、違いはありますか。

A. ESXホストのバージョンによってはカウンターが2つ表示されます。これはESXホストのバージョンに依存した仕様です。

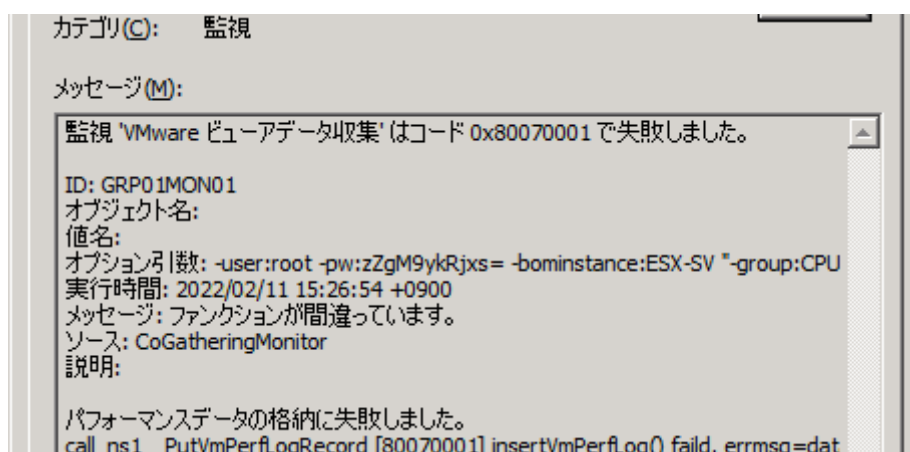
"使用率"が2つ表示される環境では、ESXホストにも2種類のカウンターが登録されています。それぞれのカウンターで説明が異なるため、どちらのカウンターを指定しているのかを確認できます。

Q. VMware ログビューアーに表示されるデータの保存期間はどれくらいですか。

A. 保存期間は監視しているESXホストの仮想マシン数などに依存します。

VMware オプションのデータベースには、パフォーマンス情報が2000万件、システム情報（インベントリ）が600万まで保存されます。このデータベース保存件数は、仮想マシン数が6.0台のESXホストの場合、10分間隔で取得して約1ヶ月分に相当します。

Q. 監視項目"VMware ビューアーデータ収集"が以下のエラーで失敗します。



また、VMware ログビューアーを起動すると「最新パフォーマンス情報の取得に失敗しました。」とのメッセージが表示され、VMware ログビューアーが使用できません。

A. このエラーメッセージは、VMware ログビューアーの収集データ格納用データベースが破損した場合に表示されます。

['インスタンスログの削除'](#)の手順を参考にして、ESX監視インスタンスのすべてのログを削除してください。

また、現象が頻繁に発生する場合には、あわせて以下の手順でデータベース保存設定の変更を試してください。

- データベース保存設定の変更

1. スタートメニューより、"すべてのプログラム"→"アクセサリ"→"メモ帳"を選択します。

※ UACが有効な環境では、管理者権限でメモ帳を実行します。

2. メモ帳のメニューバーより"ファイル"→"開く"を選択します。

3. ファイルの種類を「すべてのファイル (*.*)」に変更します。

4. 以下のファイルを選択し、[開く]ボタンをクリックします。

※ 既定では、以下のディレクトリにインストールされます。

```
C:\ProgramData\SAY Technologies\BOMW8\Environment\Config\MxHelper.ini
```

5. セクション[Option]の末尾に以下の行を追記します。

```
Sqlite3Pragmas = PRAGMA synchronous=FULL, PRAGMA journal_mode=DELETE
```

以上の手順にて、収集データ格納用データベースの保存方式が変更され、データベースへの保存に時間が掛かるようになりますが、データベースの破損を防ぐことができます。

Q. ESXホストをバージョンアップしたところ、VMware ログビューアーにデータが表示されなくなりました。

A. ESXホストをバージョンアップすると、パフォーマンスカウンターのIDが変わる場合があるため、旧バージョンとのID不一致が発生します。VMware ログビューアーを再起動してください。

なお、バージョンアップ前のログはIDが異なるため、バージョンアップ後は別のカウンターとして扱われます。

Q. VMware ログビューアーの「パフォーマンス」タブにて、[3D]押し込みボタンをクリックしたところ、グラフが表示されるまでに時間が掛かるのですが。

A. 3D表示については、ログの件数によってはグラフが表示されるまでに時間が掛かる場合があります。

申し訳ありませんが、本動作は製品仕様です。

Q. VMware ログビューアーのコンピューターツリービュー領域にて、特定のコンピューターを選択したところ、"カウンター情報の読込に失敗しました。"というメッセージが表示されました。

A. 本現象は、VMware ログビューアーにて過去に「パフォーマンス」タブのチャートに登録したカウンターが、現在のインスタンスでは取得されていない環境で発生します。

本メッセージは、対象のインスタンスにて、"すべてのログのクリア"を実行、または対象インスタンスを削除して同名のインスタンスを再作成したことを契機に、前述の環境で表示されるようになります。

本メッセージが表示される場合は、以下の手順にてチャートに登録されているカウンターを完全に削除してください。

- チャートに登録されているカウンターを完全に削除する
 1. VMware ログビューアーを起動します。
 2. コンピューターツリービュー領域にて、本メッセージが表示されるコンピューターを選択します。
表示されたメッセージは、[OK]ボタンをクリックして閉じます。
 3. メニューバーより"表示"→設定を選択します。
 4. "チャート数"を"4分割"に変更し、[OK]ボタンをクリックします。
 5. いずれかのチャートにて[カウンター指定]ボタンをクリックし、"カウンター指定"ダイアログを表示します。
 6. "カウンター指定"ダイアログにて、[全削除]ボタンをクリックし、[OK]ボタンをクリックします。
 7. 残りのチャートも項番5~6の手順にてカウンター情報を削除します。

第9章 付録

1. 正規表現

正規表現とは、記号に特殊な意味を持たせる文字列の表現方法の一種で、BOM 8.0およびVMware オプションでは、一部の監視項目において特定のパターンに一致した文字列を検索する際に使用できます。

VMware オプションにおいて、正規表現のパターン一致文字列として定義されている特殊文字について以下の表に示します。

パターン一致文字列	意味
¥	次に続く文字列を特殊文字、後方参照、リテラル文字列、8進文字として解釈。
.	¥n以外の任意の1文字。
^	先頭文字。
\$	終端文字。
*	直前の文字または式の0回以上の繰り返し。
+	直前の文字または式の1回以上の繰り返し。
?	直前の文字または式の0回または1回の繰り返し。
{n}	直前の文字または式のn回の繰り返し。
{n,}	直前の文字または式のn回以上の繰り返し。
{n,m}	直前の文字または式のn回以上m回以下の繰り返し。
?	*, +, ?, {n}, {n,}, {n,m}のいずれかの後に付けると最小一致になる。
(pattern)	サブ式を定義。patternに一致するとともに一致した文字列を記憶。
(?:pattern)	サブ式を定義。patternに一致するが文字列は記憶しない。
(?=pattern)	patternで指定した文字列が続く場合一致（肯定先読み）。
(?!pattern)	patternで指定した文字列が続かない場合一致（否定先読み）。
x y	xかyに一致。
[xyz]	カッコ内の任意の1文字（ここではxかyかz）に一致。
[^xyz]	カッコ内のすべての文字に一致しない文字列（ここではx、y、z以外）に一致。
[a-z]	文字範囲に一致（ここでは、a、b、c、.....、x、y、z）。
[^a-z]	文字範囲に含まれない文字に一致。
¥n	後方参照または8進数値。
¥0n	8進数値。

パターン一致文字列	意味
¥xnn	16進数値。
¥x{nn}	UNICODE16進数値。
¥cX	コントロールコード
¥Xn	UNICODE文字。

特殊文字	意味
¥w	単語の一文字。
¥W	単語でないものの一文字。
<	単語先頭の空白文字。
>	単語終端の空白文字。
¥b	単語の両端どちらかの空白文字。
¥B	単語中の空白文字。
`	バッファースの先頭。
¥A	バッファースの先頭。
'	バッファースの終端。
¥z	バッファースの終端。
¥Z	バッファースの終端、もしくはバッファースの終端に続く改行文字。
¥f	フォームフィード。
¥n	改行。
¥r	キャリッジリターン。
¥t	タブ。
¥v	垂直タブ。
¥e	アスキーエスケープ文字。
¥s	空白文字。
¥S	空白文字以外。
¥d	数値。
¥D	数値以外。
¥l	小文字。
¥L	小文字以外。

特殊文字	意味
¥u	大文字。
¥U	大文字以外。
¥C	．と同じ。
¥Q	クォート演算子の開始。ここから¥Eまでをリテラルとして扱う。
¥E	クォート演算子の終了。¥Qからここまでをリテラルとして扱う。

2. BOM 8.0の予約済み変数

BOM 8.0およびVMware オプションでは、以下の予約済み変数を定義しており、アクション項目や通知項目でこの予約済み変数を設定すると、実行時には実際の値に展開されます。

予約済み変数	説明**
\$(TargetComputer)	監視対象コンピューター
\$(TargetObject)	監視対象オブジェクト
\$(CurrentTime)	現在時刻
\$(ElapsedTime)	直近の監視サービス開始からの経過時間 [ミリ秒]
\$(InstallDir)	BOM for Windowsのインストールフォルダー 既定導入時：“C:¥Program Files¥SAY Technologies¥BOMW8”
\$(InstanceID)	インスタンスID
\$(InstanceName)	インスタンス名
\$(GroupID)	グループID
\$(GroupName)	グループ名
\$(MonitorID)	監視項目ID
\$(MonitorName)	監視項目名
\$(ActionID)	アクション項目ID
\$(ActionName)	アクション項目名
\$(Runtime)	監視サービスにより、監視またはアクションが実行された時刻
\$(Duration)	監視またはアクションの実行に要した時間 [秒]
\$(ResultCode)	監視またはアクションの実行結果を示す値
\$(Value)	監視値
\$(Status)	監視ステータス：(正常/注意/危険/失敗)
\$(DetectedDataDir)	検出されたデータの出力先フォルダー \$(DataDir)¥Environment¥Instance¥\$(InstanceID)¥DetectedData
\$(DataDir)	BOM for Windowsのデータフォルダー 既定導入時：“C:¥ProgramData¥SAY Technologies¥BOMW8”
\$(ExitCode) [※1]	アクション終了コード
\$(Result) [※1]	アクション実行結果：(成功/エラー/失敗)
\$(ThresholdY) [※2]	注意のしきい値

予約済み変数	説明**
\$(ThresholdR) [※2]	危険のしきい値

※1 "\$(ExitCode)"および"\$(Result)"は通知項目のみで使用でき、アクション項目では使用できません。

※2 "\$(ThresholdY)"および"\$(ThresholdR)"はBOM マネージャー上の予約済み変数の一覧に表示されません。これらの変数を使用する場合は文字列を手入力してください。

BOM VMware オプション Ver.8.0 ユーザーズマニュアル

2022年05月02日 初版

著者・発行者・発行

セイ・テクノロジーズ株式会社

バージョン Ver.8.0.0.0

(C) 2022 SAY Technologies, Inc.